

土木研究所資料

河川文化のレジェンド

—治水、水害にまつわる神社、石碑、祭り—

平成4年10月

建設省土木研究所
河川部総合治水研究室

Copyright © (1992) by P. W. R. I.

All rights reserved. No part of this book may be reproduced by any means, nor transmitted, nor translated into a machine language without the written permission of the Director General of P. W. R. I

この報告書は、土木研究所長の承認を得て刊行したものである。したがって、本報告書の全部又は一部の転載、複製は、土木研究所長の文書による承認を得ずしてこれを行ってはならない。

河川文化のレジェンド

—治水、水害にまつわる神社、石碑、祭り—

総合治水研究室 室 長 栗 城 稔
主任研究員 末 次 忠 司
田 中 義 人

要 旨

水防災意識を高揚させるための一方策として、歴史的、文化的に貴重な治水文化に関する事例（神社、石碑、祭り他）を収集、整理したものである。

キーワード：河川、治水、文化、神社、石碑、祭り、民俗

「災い」とは川や火によって起きる災難を表わす。

川の災害、すなわち水害は第2次世界大戦後の大水害期に比べると、その規模・頻度は減少しているものの、依然として我々の脅威であり、毎年5千億円を超える被害（土砂災害を含む）を被っている。最近、

- ①治水施設が整備され、治水安全度が向上してきた
- ②情報機器の発達により、情報の収集・伝達が迅速化されてきた
- ③大型台風が襲来しなくなった

ことが、水害が減少してきた一因であるが、これから先、大型台風の襲来、地球温暖化等の気象変動を加味すれば、今後とも水害被害の減少傾向が一貫して続いていく保証はない。

古来より、日本は水害に悩まされ続けており、水害の歴史が日本の歴史と言っても過言ではない。組織的に（政治的、戦略的には行われたが）治水施策が実施されなかった江戸時代以前においては、住民は自衛手段により水害に対処してきた。その際には、地先に語り継がれてきた（または古老からの）伝承、石碑、祭りなど、いわゆる治水、水害にまつわる文化により、水害防止の策を練ってきたと考えられる。本報告書ではこのような歴史的に見て治水、利水との関わりを通じて「生活の知恵」が発達し、蓄積され、伝承されたものを河川文化と称し、そのうち治水、水害にまつわるもの（治水文化）を収集、整理した。

近年、情報メディアが発達し、活動時間距離が拡大しているにもかかわらず、こうした伝承が十分伝えられていないのは

- ①水害被害が減少している
- ②水に関わりの深い農業生産活動が停滞している
- ③社会的に高い関心度が他に移っている

ためであるが、今後来るかもしれない大水害期に適切に対処するためには、現在の治水施設を一層充実させるとともに、地域住民の水防災意識の高揚が是非とも必要である。

本報告書では各地に伝えられる治水、水害にまつわる神社、石碑、祭り、博物館・資料館のうち、特に伝統のあるもの（治水施設そのものは除外している）を中心に編集している。こうした治水文化を知ることにより、地域住民が過去の治水・水害のことを今一度考え、水防災意識が高揚すれば、治水施設の整備とともに車の両輪となり、水害被害を一層軽減できることが期待される。

その意味で本報告書は単なる研究報告書としてだけでなく、一般の方にも見て頂けるような読み物として普及させていくことも行いたいと考えている。

なお、本調査は民俗学・歴史学・宗教学的調査の範疇にも属するため、その分野の専門用語が文中にもでてくるが、理解を助けるために、巻末には専門用語の解説を併記した。

目 次（全体）

まえがき

第1章 調査の概要	1
1. 1 調査の目的	1
1. 2 調査手法	1
第2章 治水文化の事例	2
2. 1 総 括	2
2. 2 事 例 集	8
第3章 用語の解説	162
参考文献	164
あとがき	168

目 次 (2 . 2 事例集)

[北海道地方]

1. 治水感謝祭 (夕張川)	8
2. 川のおもしろ館 (石狩川)	10
3. 川の博物館 (石狩川)	12
4. 川の科学館 (石狩川)	14

[東北地方]

1. 石巻川開き祭り (北上川)	18
2. 防災記念碑 (最上川支川真室川)	22
3. さぐり棒 (最上川他)	24

[関東地方]

1. 順礼の碑他 (旧利根川)	26
2. 水防倉庫 (利根川支川小貝川, 鬼怒川)	28
3. 決壊口の跡 (利根川支川小貝川)	30
4. 鷲宮神社 (利根川)	32
5. 水塚と揚舟 (利根川)	34
6. 利根川治水大成碑 (利根川)	36
7. 利根川堤防決壊口跡 (利根川)	38
8. 長良神社 (利根川)	41
9. 寛保洪水位磨崖標 (荒川)	42
10. 御幸祭り (富士川)	43
11. 生祠 (富士川2次支川濁川, 印川, 押出川)	46
12. 水神の碑 (富士川支川笛吹川)	48
13. 水宮神社 (富士川支川御勅使川)	50
14. 謝恩碑 (富士川流域)	52
15. 雁堤記念碑と人柱碑 (富士川)	54

[北陸地方]

1. 横田破堤記念碑 (旧信濃川)	56
2. 大風合戦 (信濃川支川中ノ口川)	58
3. 曾川切れ記念碑 (信濃川)	60
4. 大河津資料館 (信濃川)	62

5. 大河津分水にまつわる碑（信濃川）	64
6. 水防倉庫（信濃川大河津分水路）	66
7. 関屋分水公園の胸像（信濃川関屋分水路）	68

[中部地方]

1. 川除地蔵（大井川）	70
2. 舟型屋敷（大井川）	72
3. 川除地蔵（安倍川, 安倍川支川薬科川）	74
4. 治水神社（木曽三川）	76
5. 輪中の郷・ふるさとセンター（木曽川）	78
6. 水と緑の館（木曽三川）	80
7. 宝暦治水にまつわる碑（木曽三川）	82
8. 明治改修着工之地（木曽三川）	84
9. 伊勢湾台風復旧仮締切工事完成記念碑（木曽三川）	86
10. 木曽川文庫（木曽三川）	88
11. 川神浄（狩野川）	90
12. 十五の森の跡（庄内川）	92

[近畿地方]

1. 明治18季洪水碑（淀川）	94
2. 沖野忠雄の胸像（淀川）	96
3. 淀川資料館（淀川）	98
4. 出石神社（円山川）	100
5. 洪水石碑, 石仏（琵琶湖）	102
6. 一夜官女	104
7. 杉田定一君治水謝恩之碑（九頭竜川）	106
8. 堤防神社（由良川）	108
9. 浸水位表示板（由良川）	110
10. 家財道具を引き上げる滑車（由良川）	112

[中国地方]

1. 清原太兵衛の碑（佐陀川）	116
2. 長束神社（太田川）	118
3. 八剣神社（太田川支川京橋川）	120
4. 八本杉の碑（斐伊川）	122

5. 弔溺碑（斐伊川）	124
-------------	-----

[四国地方]

1. 足立重信の墓（重信川，石手川）	126
2. 番持石（仁淀川支川波介川）	128
3. 水丁場の跡（鏡川）	130
4. 明治25年の大洪水の記念碑（物部川）	132
5. 堰留神社（物部川）	134
6. 明治32年洪水記念碑（仁淀川）	136

[九州・沖縄地方]

1. 川まつり（本明川）	138
2. 諫早大水害復興記念碑他（本明川）	140
3. 長崎水害関係の記念碑(1)	142
4. 長崎水害関係の記念碑(2)	144
5. 長崎水害関係の記念碑(3)	146
6. 長崎水害関係の記念碑(4)	148
7. 長崎水害関係の記念碑(5)	150
8. 宝暦薩摩義士の碑	152
9. 川中不動（桂川支川天念寺川）	154
10. 河童渡来の碑（球磨川）	155
11. 八幡鶴市神社（山国川）	156
12. 羽地川改修の記念碑（羽地川）	158
13. 石塘人柱の跡（菊池川）	160

第1章 調査の概要

1. 1 調査の目的

本調査では、治水文化の事例、すなわち治水・水害にまつわる神社、石碑、祭り、博物館・資料館等の事例を収集・整理している。本報告書の普及により、過去築かれてきた治水文化が伝承され、地域住民がこれまでの治水事業や水害に関心を持ち、現在の事業に理解を示すとともに、地域住民の水防災意識が高揚することが期待できる。

1. 2 調査手法

本調査は土木研究所内、近隣図書館、一部の地方建設局で所有している文献を調べることであり、文化事例の所在を明らかにし、文献の情報で不十分な場合は、可能な限り現地に足を運んで確認を行った。本来は県史等の郷土史や古文書等の原書から調べるべきではあるが、時間が制約されていたため、身近な文献から検索を行った。

第2章 治水文化の事例

2. 1 総括

水にまつわる文化の事例としては、田植え・収穫に関する祭りや川水、雨乞いなどの農業に起源するものが圧倒的に多かった。次いで、水神への信仰、例えば川の神、滝の神、泉の神、井戸神、池の神などへの信仰が多く見られた。

治水や水害にまつわる事例としては、概ね次の7タイプに分類される。

①水害（水難、人柱を含む）による死者及び治水工事中の死者の供養碑

②治水施設の完成を記念する碑及び祭り

③浸水位などの水害の状況を記す石碑

④水防意識を高揚させる祭り

⑤昔からの伝説が伝承されている祭りや神社

⑥治水工事に貢献した人物の碑

⑦河川や治水施設を一般の人に周知させる資料館・博物館

収集された事例は全部で75事例で、項目別（神社、石碑、祭り、博物館・資料館、その他）に整理すると、以下のとおりである。

・神社	10事例	}	75事例
・石碑	43事例		
・祭り	7事例		
・資料館・博物館	8事例		
・その他	7事例		

収集した事例を項目別に地図上に表示すると、図-1～5のとおりである（1事例のなかに複数の事例が含まれているため、総数は上記の事例数とあわない）。都道府県毎に事例数がばらついているが、少ない県が必ずしも事例が少ない訳ではない。なお、図中の矢印は都道府県を中心に引いており、必ずしも施設の設置場所を示したものではない。

神社

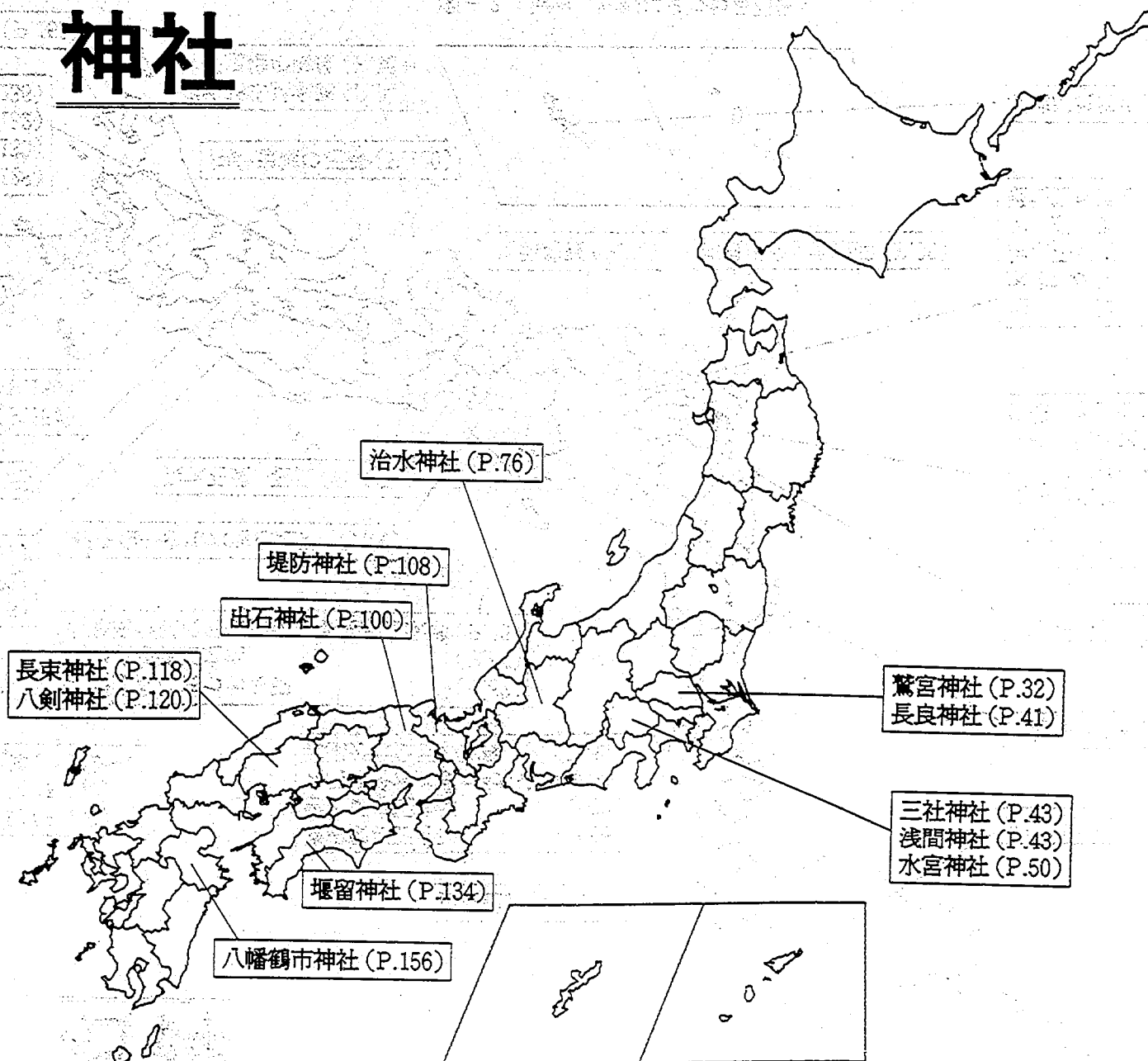


図-1 治水、水害にまつわる神社

石碑

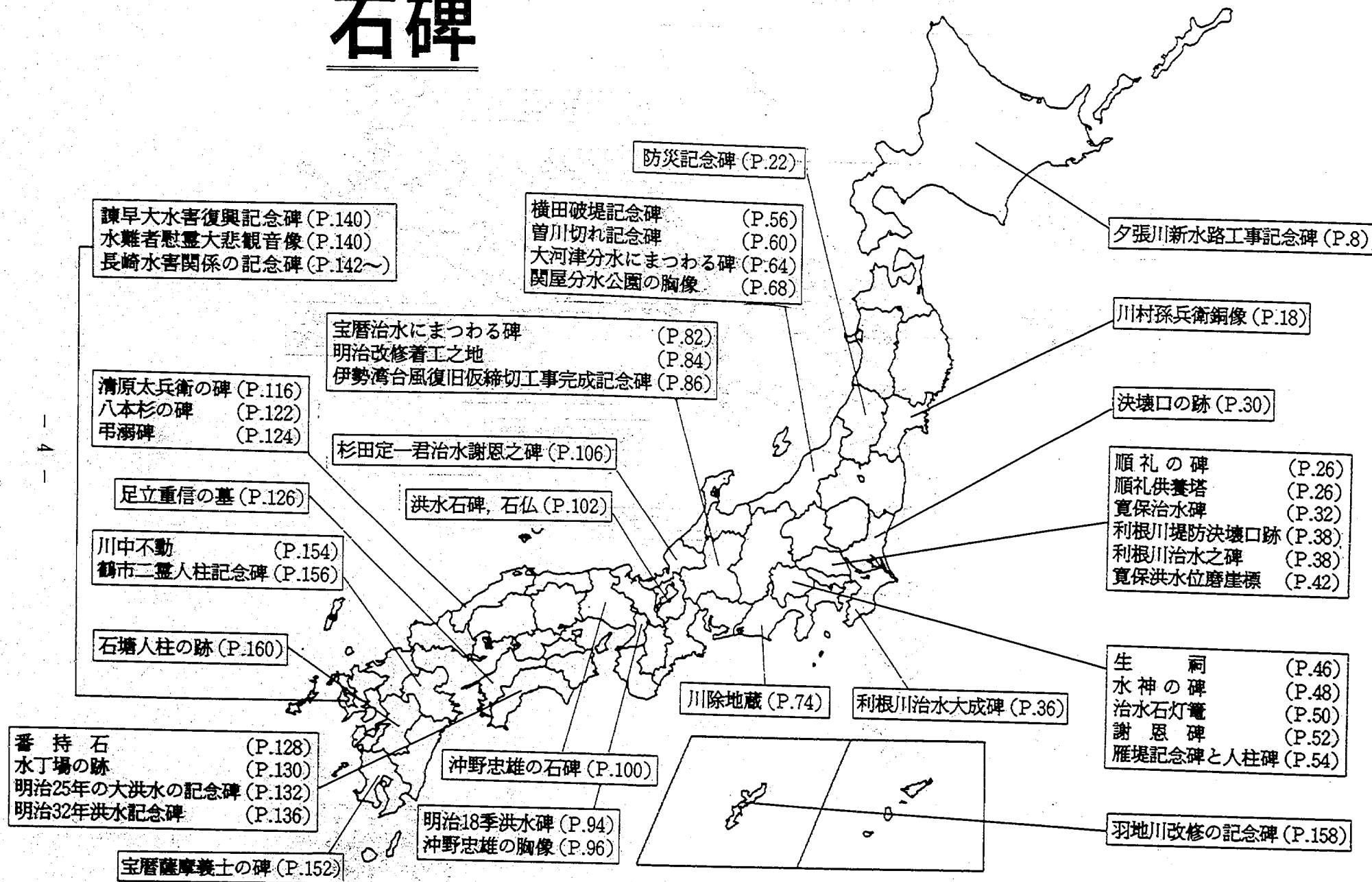


図-2 治水, 水害にまつわる石碑

祭り

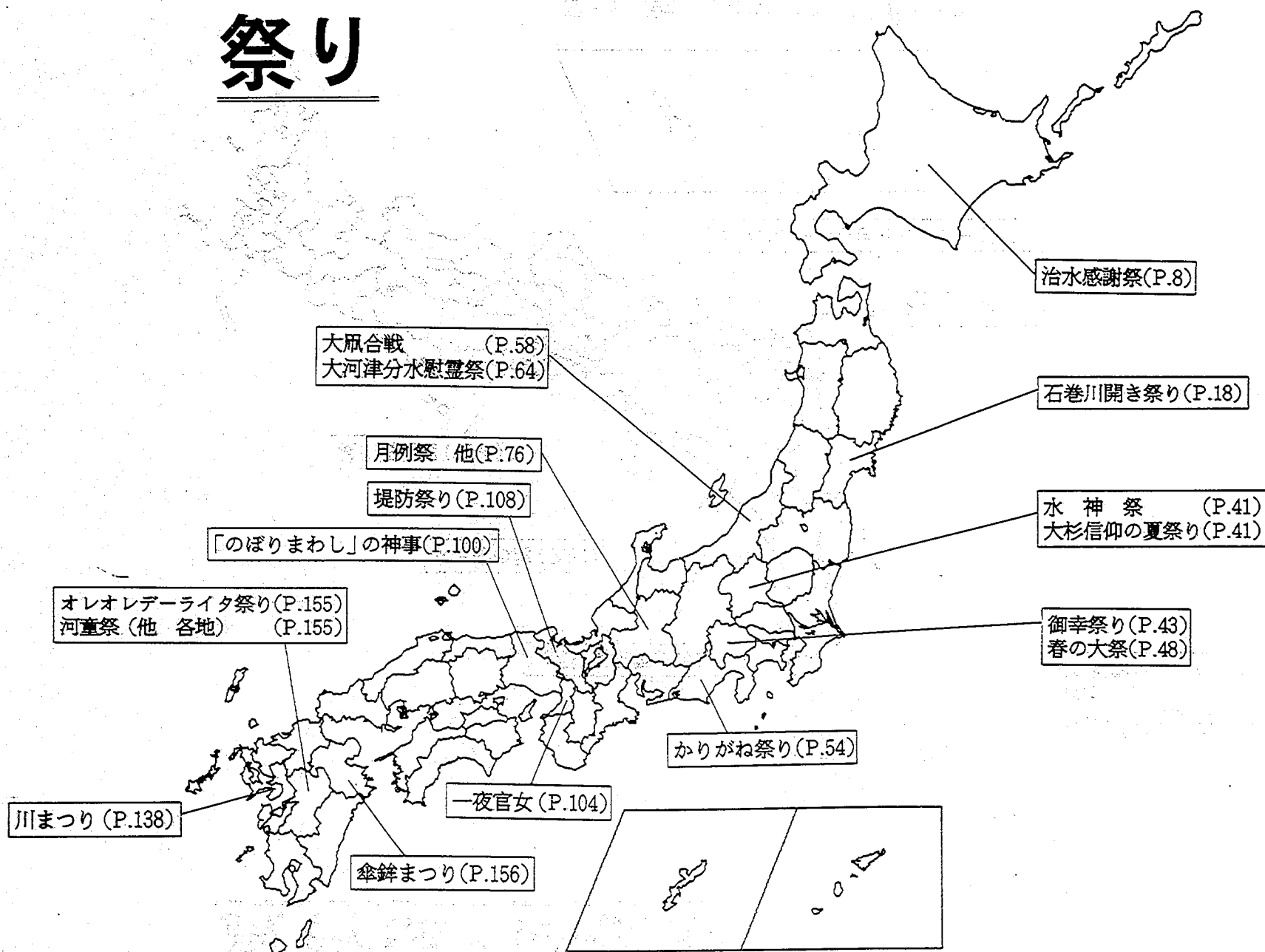


図-3 治水、水害にまつわる祭り

資料館・博物館



図-4 治水、水害にまつわる資料館・博物館

名称	治水感謝祭	
地名	北海道空知郡南幌町 なんぼろ （夕張川）	
開催日または建立日	毎年7月1日に開催	
主催者または建立者		

＜概要＞

- ・保原元二、本間藤市、長谷川源之丞は、明治43年から昭和11年までの27年間にわたり、新夕張川の開削計画及び工事に尽力した
- ・夕張川沿川にある南幌町では、この旧夕張川を新たに切り替えた河川工事を機に毎年7月1日に治水感謝祭を実施している
- ・治水感謝祭は義経神社において、神式により治水への感謝の祈り、次いで仏式により殉職者の慰霊祭が行われる
- ・同日は治水マラソンも実施されている。また義経神社には、夕張川新水路工事記念碑も建立されている

＜夕張川治水の概要＞

- ・夕張川、千歳川に囲まれた南幌町では氾濫が頻繁に起こり、離農していく入植者が後を絶たなかった。こうしたなかで、住民は道庁に恒久的な治水対策を要望した。これを受けて明治43年（1910）より道庁技師保原元二は夕張川他の測量に入り、新夕張川開削計画を立てるとともに、夕張川治水に尽力した
- ・工事は当初人力による掘削により進められたが、大正13年（1924）からは蒸気機関の掘削機やトロッコけん引用の蒸気機関車により機械化掘削が行われた。工事の間に、10名の犠牲者を出したが、昭和11年11月24日にようやく完成した

＜近年の状況＞

- ・治水感謝祭の玉串奉獻、慰霊祭の焼香には町長をはじめ、町議会、石狩川開発建設部等より約30名の奉納者が出席して厳粛に行われている



治水感謝祭

名称	川のおもしろ館（石狩川治水学習館）
地名	旭川市常磐公園内（石狩川）
開催日または建立日	平成2年
主催者または建立者	北海道開発局、旭川市 （管理：（財）旭川河川環境整備財団）

<概要>

- ・石狩川において治水事業が開始してから、平成2年に80周年を迎えることを記念して、石狩川と牛朱別川の合流点に開館した

<治水事業の経緯>

- ・石狩川においては、明治43年（1910）より第1期拓殖計画として本格的な治水事業が開始された。工事では当別太左岸の築堤を実施するとともに、生振、篠路第1、第2、対雁、当別の各新水路工事に着手した
- ・明治43年（1910）より治水事業が開始されてから、平成2年（1990）に80周年を迎えることを記念して、川のおもしろ館は建設された

<館内の展示等>

- ・館内は3ゾーンからなり、治水事業について楽しみながら学習できるように工夫されている

①ファンタジーゾーン

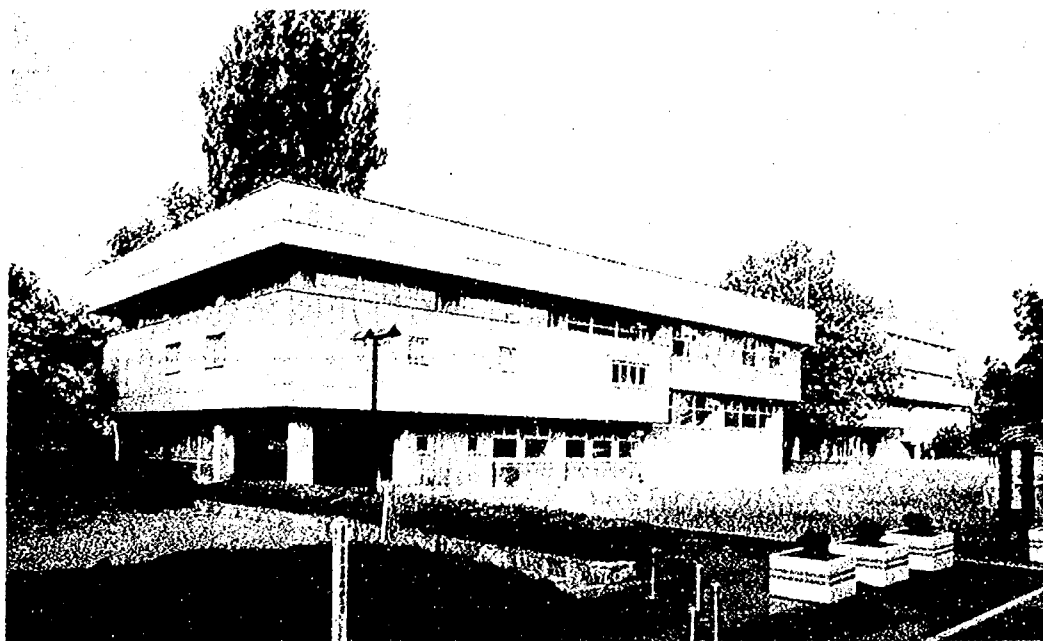
世界の水辺、石狩川の自然、水と光のファンタジー

②3Dゾーン

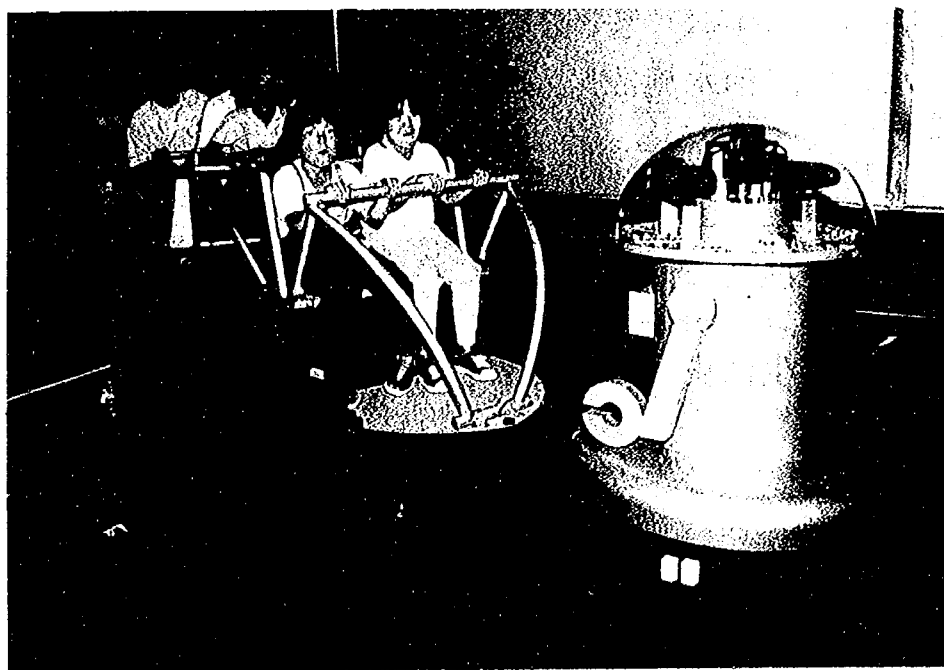
立体画像用メガネによる三次元空間映像

③アドベンチャーゾーン

石狩川の生物、観覧車による川の歴史体験コーナー



「川のおもしろ館」全景



観覧車による川の歴史体験コーナー

名称	川の博物館（石狩川治水史資料館）	
地名	北海道石狩郡石狩町新港南 1－28－24（石狩川）	
開催日または建立日	昭和57年に完成、昭和63年に公開	
主催者または建立者	北海道開発局 石狩川開発建設部	

＜概要＞

- ・石狩川放水路の完成を記念して、茨戸川と石狩川放水路の分岐点にある放水路の管理棟上に建設された

＜館内の展示等＞

- ・博物館内はカテゴリー毎のゾーニングは、特に行われていないが、大別すれば

①治水のコーナー

水害史、治水施設、治水対策・計画

②環境のコーナー

生物、河川環境

③産業のコーナー

産業、漁業

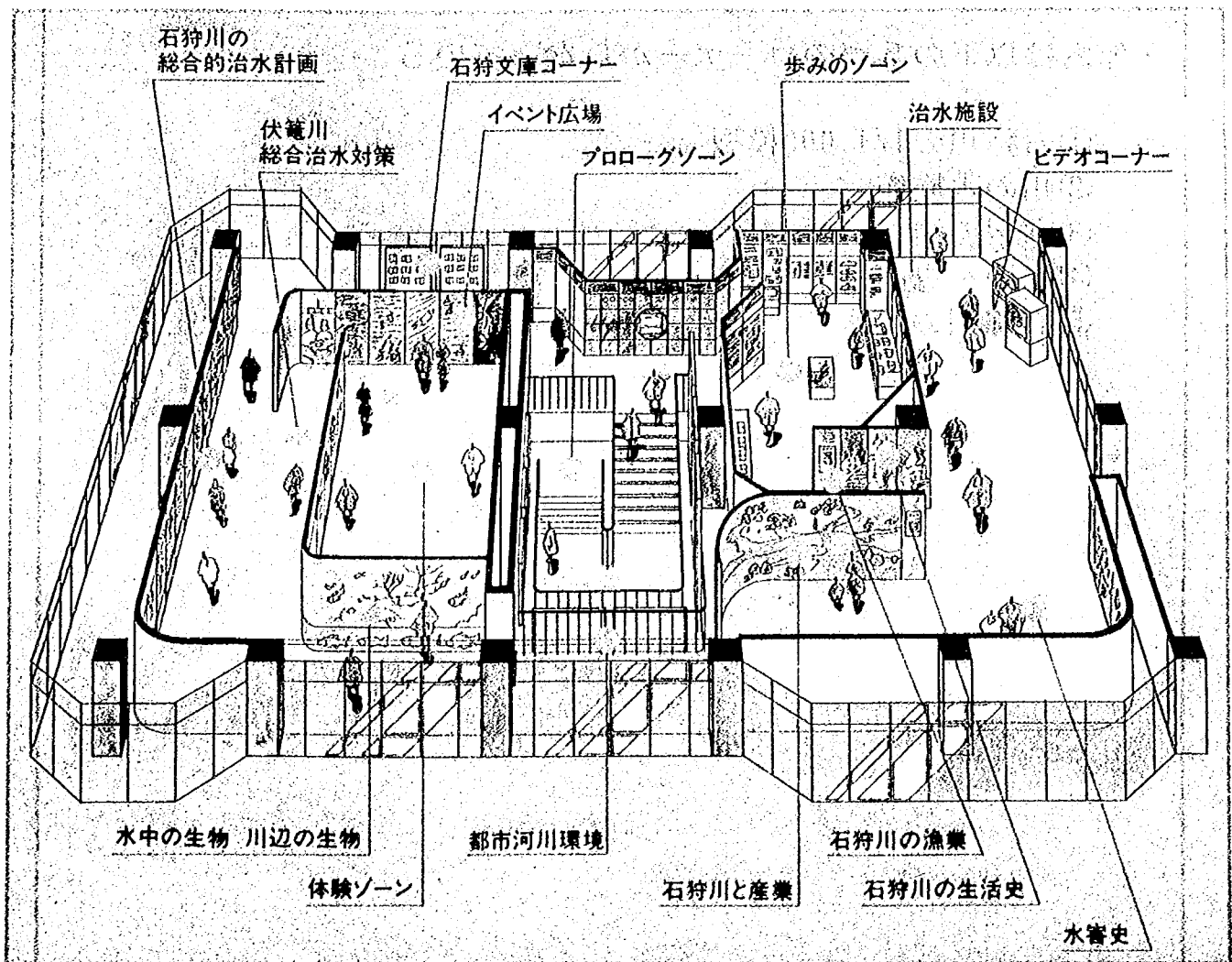
④その他のコーナー

文庫、生活史

に分けられる



水害史コーナー（左）とイベントコーナー（右）



館内の展示状況

名称	川の科学館	
地名	北海道滝川市西滝川1（石狩川）	
開催日または建立日	平成2年9月	
主催者または建立者	北海道開発局 石狩川開発建設部	

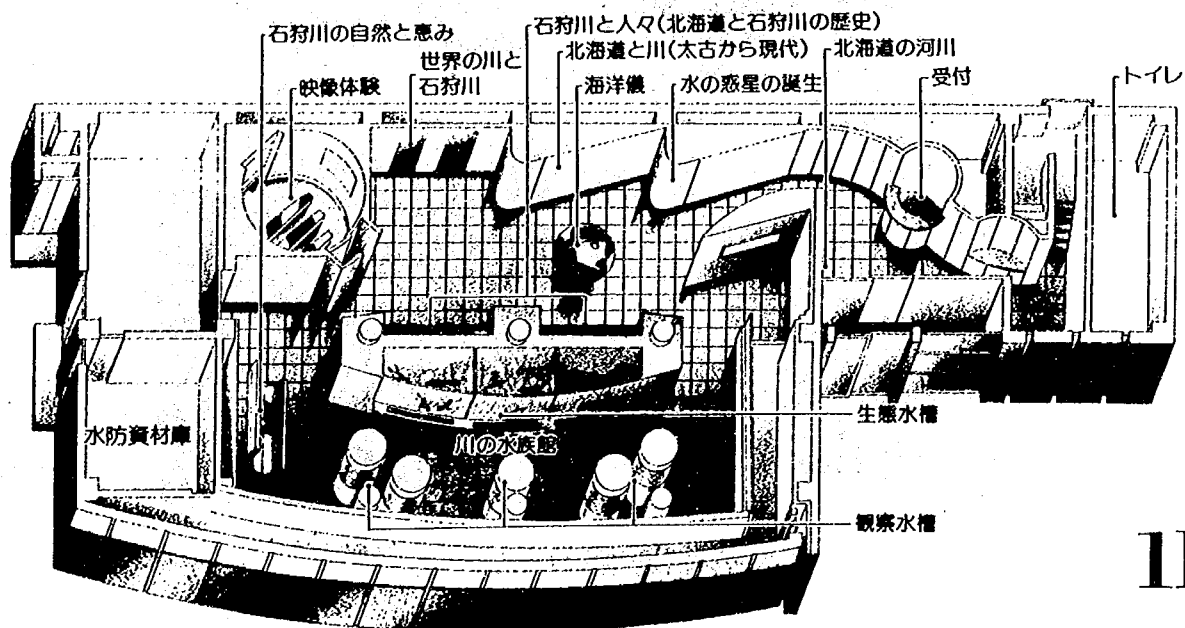
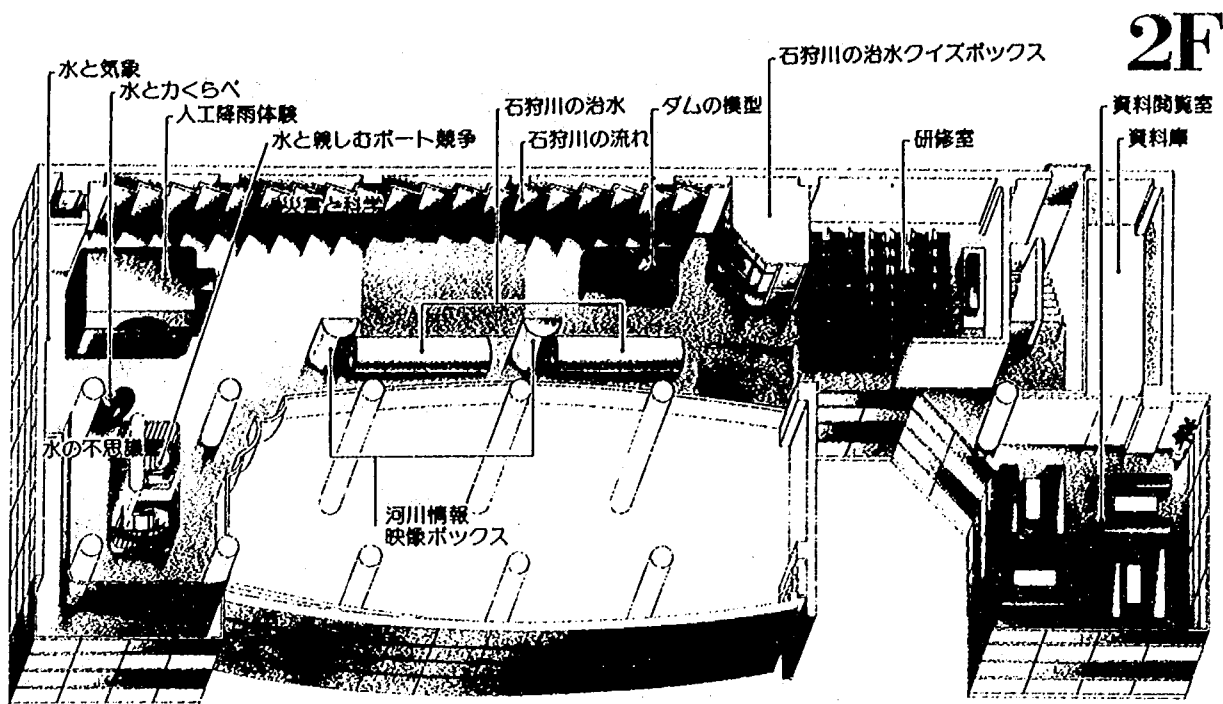
＜概要＞

- ・川の科学館は「科学の眼で水を探り、川を知る」ことを目的として、石狩川治水80周年を記念して、平成2年に開館された

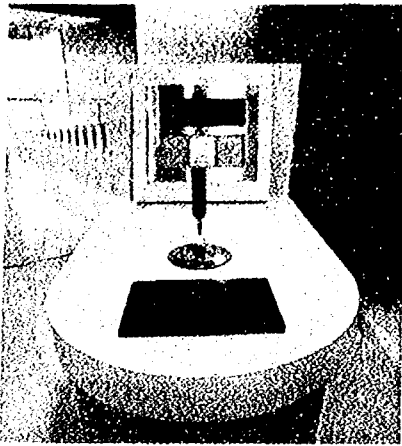
＜館内の展示等＞

- ・館内は以下の5つのコーナーからなっている

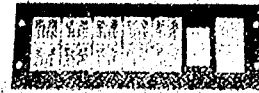
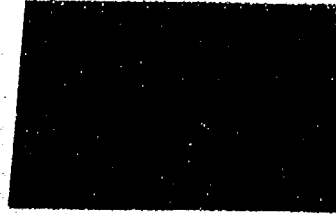
- ①石狩川の1/1,000模型
- ②川の水族館
- ③学習の池
- ④水の不思議
- ⑤石狩川の治水



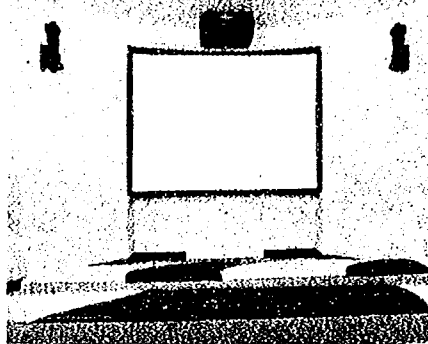
館内の展示状況



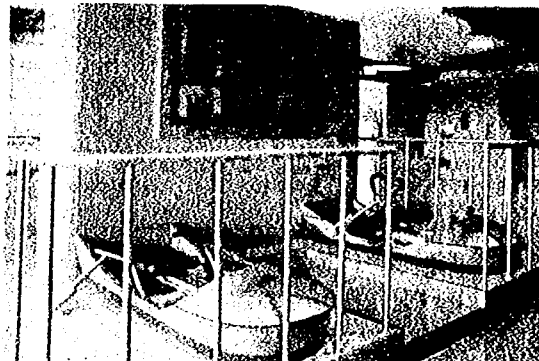
腕まくりして、気合いを入れて、水と力くらべしよう。



川に関するいろいろな知識をコンピュータが教えてくれます。



このコーナーでは、美しい石狩川の四季などを放映しています。



「水の不思議」コーナー

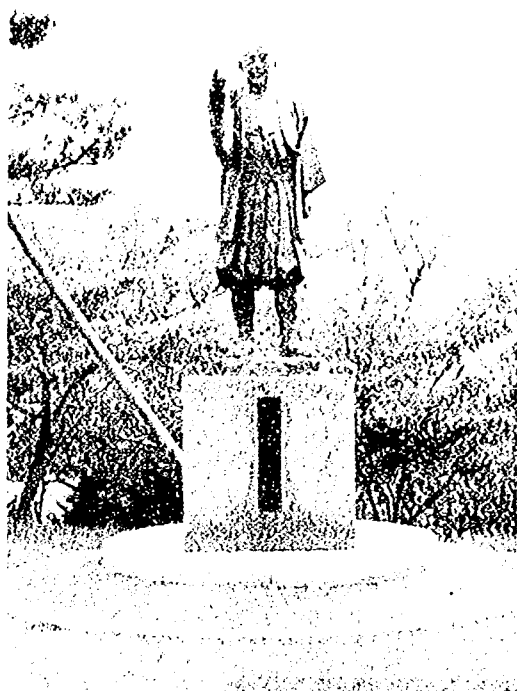
名称	石巻川開き祭り
地名	石巻市（北上川）
開催日または建立日	毎年8月1、2日（7月31日が前夜祭）
主催者または建立者	石巻市、石巻商工会議所

<概要>

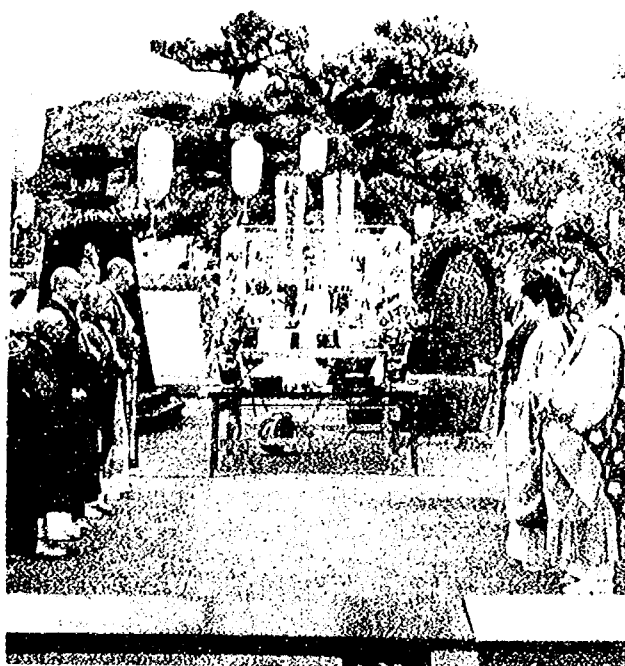
- ・石巻では安永2年（1773）から海難者の慰霊のため、海門寺で大規模な施餓鬼を行っていた。明治6年に海門寺が焼失して以来、住吉公園に会場を移した
- ・この施餓鬼の伝説を受継ぎ、北上川下流の河道付替え工事を完成させ、港を開いた川村孫兵衛重吉の遺徳を讃え、また水難者を供養するために、大正5年（1916）から「石巻川開き」に発展した
- ・川開き祭りの前夜祭では川村孫兵衛翁の報恩祭（日和山公園）、重吉神社祭、墓前祭（普誓寺）、縄張神社祭と続き、住吉公園では川村孫兵衛翁の慰霊祭と川施餓鬼供養祭が厳かに行われる
- ・2日目からは孫兵衛船による競漕、花火大会など様々な催しが繰り広げられる

<工事の内容>

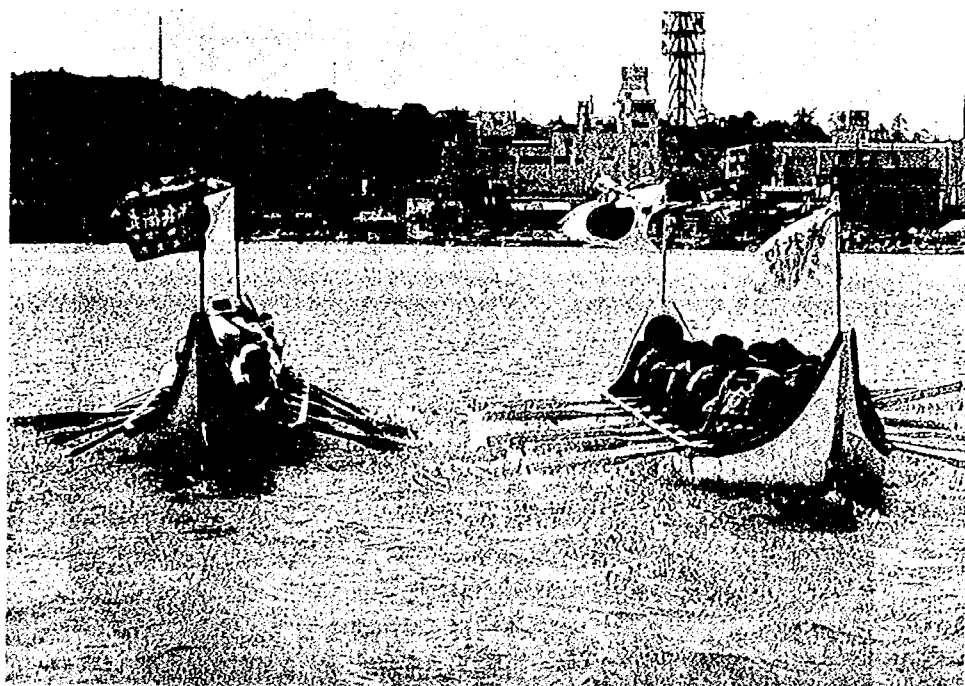
- ・伊達相模守宗直は、慶長10年（1605）から15年（1610）にかけて、北上川の改修工事（第1次）を実施したが、水害は減らず、また柳津下流が急勾配のために舟運が阻害されていた
- ・これを受けて、伊達藩普請奉行の川村孫兵衛重吉は
 - ①元和2年（1616）より、短台地狭を開削して、和渕にて江合川を迫川に合流させた
 - ②北上川を柳津で締切り、赤生津と中津山間の5.3kmを開削して北上川を迫川に合流させた
 - ③元和9年（1623）から寛永3年（1626）にかけて、追波川を拡幅するとともに、鹿又から石巻に至る新河道を開削したという第2次改修工事を実施した
- ・この改修工事の結果、仙北平野が発展し、北上川舟運が開けて東回り航路が整備され、河口港石巻は江戸回米の本拠地となった



川村孫兵衛銅像



石巻川開き祭りの前夜祭



孫兵衛船競漕



みこしパレード



花火大会

石巻川開祭

行事のご案内

7/31(金)			
時 間	行 事 名		会 場
16:00	前 夜 祭	川村孫兵衛翁報恩祭	日 和 山 公 園 釜 石 町 住 吉 公 園 北 上 川 (住吉公園前) 住 吉 公 園 北 上 川 (住吉公園前)
16:30		重吉神社祭・孫兵衛翁墓前祭	
18:00		縄張神社祭	
18:40		川村孫兵衛翁慰霊祭	
18:50		流 燈 (2,000本)	
19:10		川施戯鬼供養祭	
19:30		供養花火大会	
8/1(土)			
時 間	行 事 名		会 場
8:00	川開き祭典		住 吉 公 園 石 巻 魚 市 場
10:00	漁港祭・大漁安全祈願祭		
13:25	陸 パ レ ー ド 上 ド	キング・オブ宮城ハーレー会	市 内 中 心 部
13:30		県警音楽隊パレード	
13:40		PL石巻MBAバトンパレード	
14:00		子供みこしパレード	
15:00		神社みこしパレード	
9:00 ～	水 行 上 事	孫兵衛船競漕 (予選)	北 上 川 (住吉公園前)
16:00		ボートレース	
18:30 ～	豪華花火大会	ナイヤガラ大瀑布 200m	北 上 川 (水明町前)
21:00		※雨天の場合8/2 大玉連発打ち上げ 音響花火(和太鼓と響宴)	
8/2(日)			
時 間	行 事 名		会 場
9:30 ～	水 行 上 事	孫兵衛船競漕 (大優勝旗争奪戦)	北 上 川 (住吉公園前)
15:00		水上アクロバットショー ボートレース	
11:35	陸 パ レ ー ド 上 ド	キング・オブ宮城ハーレー会	市 内 中 心 部
11:40		消防音楽隊パレード	
11:45		ミス石巻	
11:50		石巻花祭会 花山車パレード	
12:15		小学生鼓笛隊パレード	
13:00		立正佼成会 纏・万灯パレード	
13:30		ザ・石巻パフォーマンズ	
13:30 ～	綱 引	LOVE石巻杯争奪戦	
16:00			
18:30 ～		大漁おどり (3,500名参加)	
20:00			
商店街各種協賛行事(七夕かざり・模擬店・将棋大会他)			
第4回石巻川開祭水泳選手権大会(7/26・市民プール)			
'92北上川カヌーマラソン大会(7/26・北上川)			

名称	防災記念碑
地名	山形県最上郡真室川町木の下（最上川支川真室川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

- ・昭和50年の集中豪雨により、真室川流域は大水害を蒙った。この災害への防災を記念して、真室川公園の入口に防災記念碑が建てられた

<水害の状況>

- ・昭和50年8月5日から6日にかけて、真室川流域は200mm/3hrという集中豪雨となり、堤防は13箇所にあたって溢水、破堤した。真室川地区の被害は甚大で、全壊23戸、半壊38戸、浸水175戸の被害となった

<参考>

- ・真室川公園は昭和39年8月に造成された町立公園で、広さ約10haである
- ・園内には5種560本余りの梅が植栽されている

防災記念碑



真室川公園入口に建てられた防災記念碑

昭和二十一年四月、真室川町は、大規模な地震に襲われ、多くの家屋が倒壊し、多くの犠牲者を出した。この地震は、真室川町の歴史に大きな転機をもたらした。地震後、町民は、防災意識を高め、防災対策を講じた。この防災記念碑は、その歴史を後世に伝えるために建てられたものである。

名称	さぐり棒
地名	山形県新庄市古口 他（最上川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

- ・ さぐり棒はつき棒、お助け棒とも呼ばれ、あまり長くなく、片手で容易にあやつれる棒である
- ・ さぐり棒は
 - 避難のときの水先案内
 - 橋・暗渠の入口の浮遊物除去
 - 濡らしたくないものをかつぐ
 - 流木をよける
 などのときに使われる

<事例>

- ・ 山形県新庄市の東、最上川峡谷に古口という集落がある。この集落の家の鴨居（戸、障子をたてる上の横木）にかけてあるさぐり棒には過去の氾濫水深を示すたくさんの切り込みがあり、その脇に数字が刻印されている

（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）

（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）

（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）

（一）
（二）
（三）
（四）
（五）
（六）
（七）
（八）
（九）
（十）

名称	順礼の碑（治水犠牲者人柱順礼供養之碑） 他
地名	埼玉県幸手市大字内国府間（旧利根川権現堂 ごんりんとう さくら堤）
開催日または建立日	昭和11年3月
主催者または建立者	権現堂川用水路普通水利組合

<概要>

- ・利根川治水の急所である権現堂堤に建立されている。洪水で壊れた堤防の復旧作業に難儀していたところに、通りかかった母子連れの巡礼を人柱としたところ、堤防がかたまり、洪水の難から逃れられたため、これを祈念して碑を建てたもの

<経緯>

- ・享和2年（1802）6月、長雨のために水位が高まった利根川はついに決壊し、人々は堤防修復にあたっていたが、激しい濁流のため、修復はなかなか進まなかった
- ・順礼母子を人柱としたところ、洪水はおさまり、修復工事は完成した。人柱説は①母子が自ら人柱を申し出た説と、②母子が工事は無駄だと言ったのに怒った人夫たちが母子を川に投げ込んだという説がある
- ・石碑に彫られた画は明治、大正時代に名を馳せた日本画家結城素朋の作によるものである

<類似事例>

- ・同じく権現堂さくら堤には、上記人柱順礼を供養するとともに、明治32年（1899）10月の利根川大出水の際の水防時に殉職した中山伊三郎氏を供養するための「順礼供養塔」が建立されている。この碑は幸手商工会により、昭和8年4月に建立されたものである



順礼の碑



順礼供養塔

名称	水防倉庫
地名	茨城県結城郡石下町（利根川支川小貝川、鬼怒川）
開催日または建立日	平成3年3月に完成
主催者または建立者	石下町（管理は管理課）

<概要>

- ・石下町では昭和61年8月の水害後、防災体制を強化するため、水防倉庫を増設した。倉庫の建設にあたっては、地域のシンボル、活性化も含めて城郭形式としている

<経緯>

- ・石下町では城郭形式の地域交流センターを建設中（平成4年9月完成予定）である。このセンターはホール、資料館、また災害時には避難所となるもので、ホールは1,100名が収容可能である

<内容>

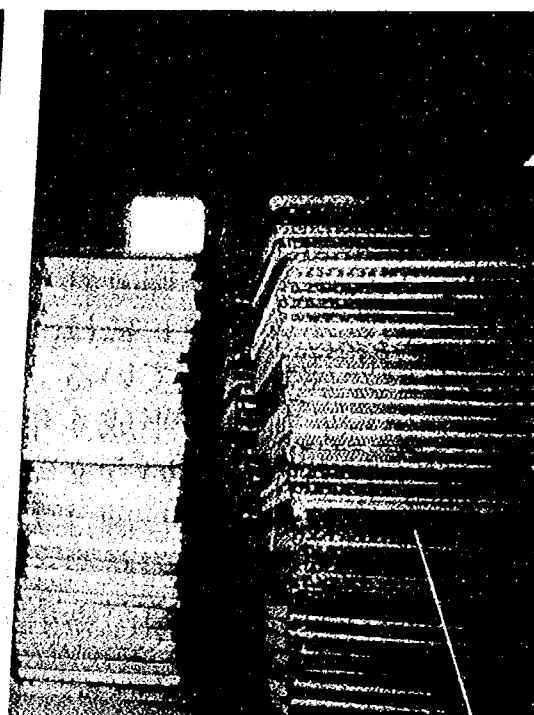
- ・このセンターとあわせて、5箇所の水防倉庫を城郭形式で建設している（うち4箇所が小貝川沿い、1箇所が鬼怒川沿い）
- ・水防倉庫は3～4m盛土された上に建設された木造または鉄骨造で、中は2～3階層となっている。倉庫内には畳、土のう（土詰め）、器材等が保管されている
- ・出水時に当該水防倉庫の水防資器材が搬出された事例は今のところない

<参考事例>

- ・平屋建ての水防倉庫としては、青森県弘前市の水防資材センターのように建屋面積が185㎡のように大きいものがあるが、浸水しないように3階層になっている水防倉庫は全国的にも珍しい



水防倉庫の全景



水防倉庫の内部の様子

名称	決壊口の跡
地名	茨城県結城郡石下町本豊田地先 (利根川支川小貝川35.6k右岸)
開催日または建立日	平成3年2月
主催者または建立者	石下町と八間堀川沿岸土地改良区

<概要>

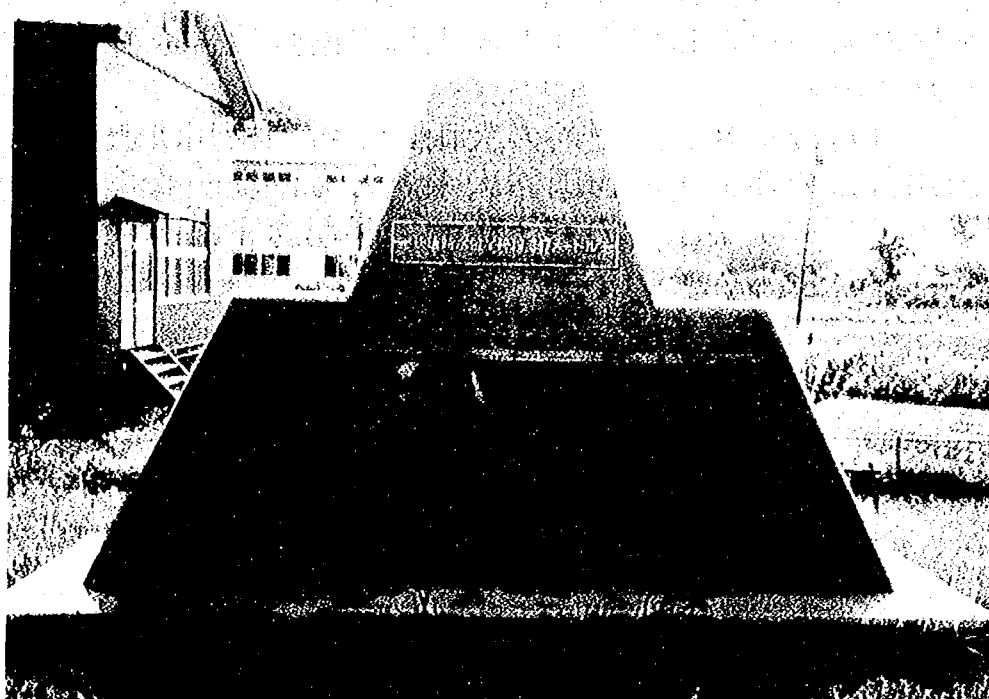
- ・昭和61年8月5日の9時58分、豊田排水樋門横からの漏水が激しくなり、ついに堤防は決壊した。破堤に伴い、約11km²の水田、畑等が浸水し、床上浸水269戸、床下浸水407戸、被害額約30億円の被害となった
- ・この碑は破堤を記念して、決壊口の跡に堤防断面を模して建立されたもので、被災の概要を刻し、後生への防災意識高揚の警鐘とするとともに、水との闘いの出発点として記録にとどめたものである

<参考>

- ・「決壊口の跡」の石碑の近辺は、河川整備基金により「川とのふれあい公園」として整備されている
- ・「川とのふれあい公園」には、「川の一里塚」や「史跡 豊田城跡」の石碑が建立されている
- ・「川の一里塚」碑は、平成4年3月に石下町により建立されたもので、「上善若水」という文字が刻まれている
- ・また「史跡 豊田城跡」碑は天喜2年(1054)に豊田、猿島両郡を支配した領主豊田四郎政幹が建てた豊田城の跡を記したもので、昭和49年10月21日に建てられた



川とのふれあい公園



「決壊口の跡」の石碑

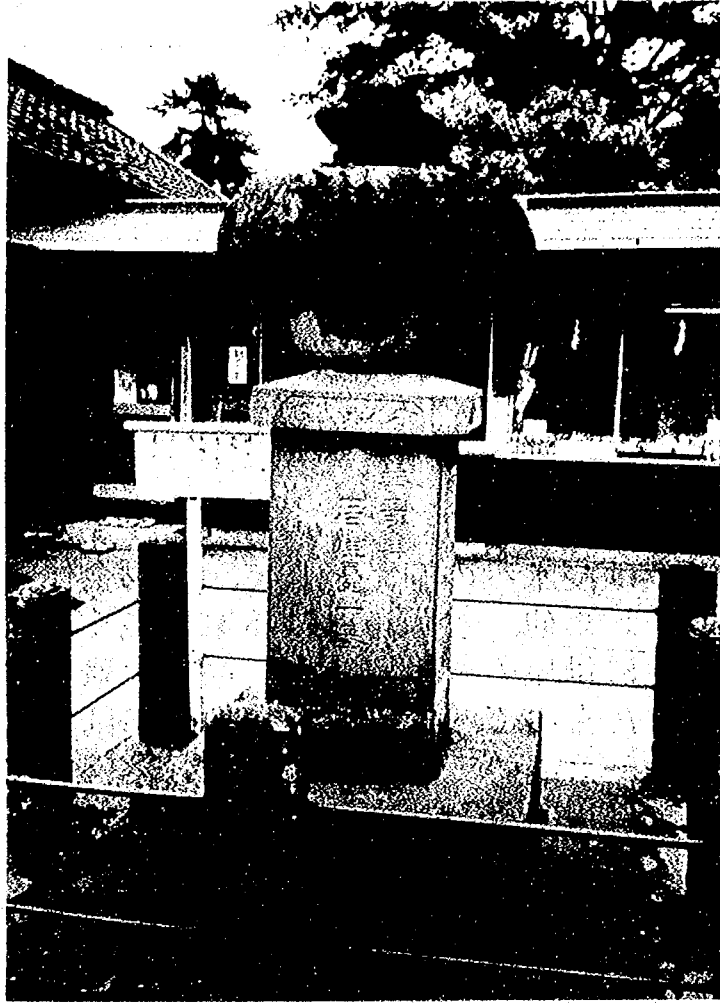
名称	鷺宮神社 わしのみや
地名	埼玉県北葛飾郡鷺宮町鷺宮（利根川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	長州藩 毛利氏

<概要>

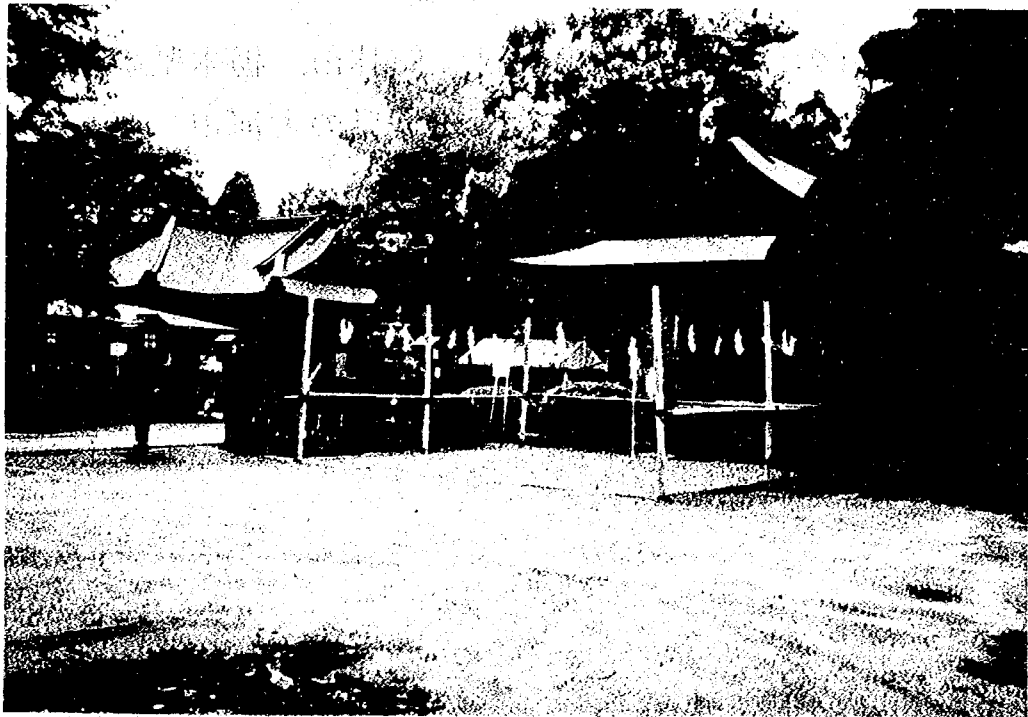
- ・日本武尊やまととけるのみことの創建と伝えられる関東最古のもので、古くから武将の崇敬が厚い。祭神は天穗日命あめはるひのみことである。境内には寛保2年の利根川決壊の際、堤防修築にあたった毛利氏が神社の加護を感謝して奉納した寛保治水碑があり、県の史跡に指定されている。

<寛保治水碑>

- ・寛保治水碑は鷺宮神社の境内、拝殿前にたつ石灯籠で、竿石の3面に神恩奉謝の意として、「刀禰上流以南修治告成碑」等の文字が刻まれている
- ・寛保2年（1742）8月、空前の大雨による利根川決壊の際、8代将軍徳川吉宗の命により西国諸大名とともに堤防修築にあたった長州藩主毛利宗広が工事の完了後、完了記念また神社の加護を感謝して奉納したものである



寛保治水碑



鷺宮神社

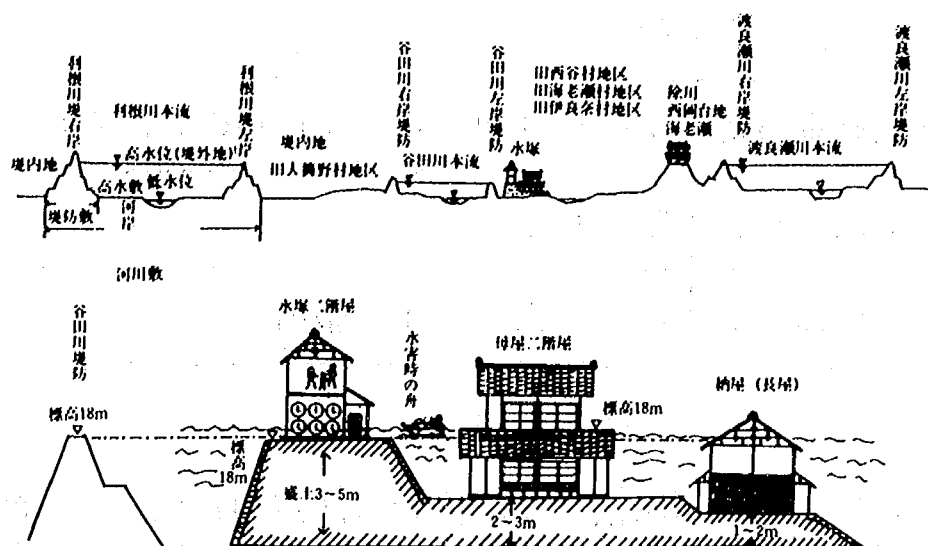
名称	水塚と揚舟	
地名	群馬県邑楽郡板倉町 他（利根川）	
開催日または建立日		
主催者または建立者		

<概要>

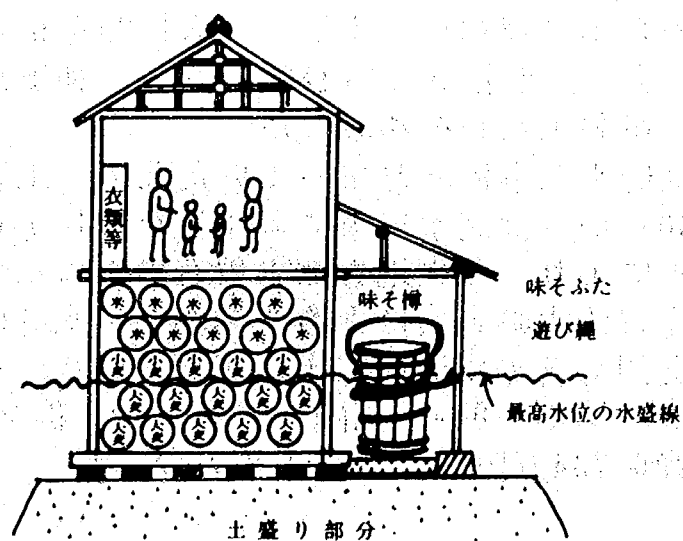
- ・利根川中流部では浸水への備えとして、建物全体を土盛りしたり住家の床を高くした他、水塚を設ける家も多くあった。水塚とは宅地の一部、主に母屋の背後に特別に高く土盛りを施して、避難用の建物を設けたもので、板倉町周辺地域には1,512棟の水塚があった
- ・また洪水時の避難用あるいは物資を運ぶ手段として、母屋や納屋の天井や軒下に吊るした揚舟が多く見られる。板倉町周辺地域には全世帯の13%にあたる440艘の揚舟が確認されている
- ・水塚、揚舟とも昭和54年10月現在のデータである

<その他>

- ・水塚は板倉町^{うさぎ}の他、邑楽郡明和村、館林市、栃木県の足利市、小山市、下都賀郡藤岡町・野木町、茨城県の古河市、埼玉県の北埼玉郡北川辺町などに集中的に分布している



板倉町の水塚・母屋と堤防との相関図



水塚への穀物の積み方

名称	利根川治水大成碑		
地名	千葉県東葛飾郡関宿町（利根川と江戸川の分流点）		
開催日または建立日	昭和6年3月		
主催者または建立者	内務省東京土木出張所		

<概要>

- ・明治維新後、政府が明治8年に松戸（江戸川）に初めて沈床工を試みて以来、昭和5年の改修竣工に至るまでの55年間にわたる改修工事の竣工を記念して、利根川・江戸川の分流点に建立された

<改修工事について>

- ・河道改修、堤防修築など古来より実施されてきたが、全川一貫していなかったこともあって、水害は依然として絶えなかった
- ・政府は明治5年（1872）、オランダ人技師を招き、全国の河川の修築を計画させ、明治8年（1875）、先ず利根川に着手し松戸（江戸川）に粗朶工水制を建設した
- ・当時改修は低水工事にとどまっていたため、水害は減らず、明治33年（1900）からは高水工事に着手した。しかし明治43年（1910）8月洪水により、関東地方は未曾有の水害に見舞われた
- ・その後、臨時治水調査会による抜本的な治水計画に基づき、利根川流域の支川も含めて改修工事が実施された。利根川全流域について見れば、築堤520km、掘削・浚渫土量1億2千万m³、夫役27万人、工費6,734万円の大改修工事となった



利根川治水大成碑

名称	利根川堤防決壊口跡
地名	埼玉県北埼玉郡大利根町大字新川通（利根川）
開催日または建立日	昭和25年9月15日
主催者または建立者	関東地建利根川上流工事事務所（所有者）

<概要>

- ・昭和22年のカスリーン台風に伴う豪雨により、利根川は大洪水となり、近隣水防団の必死の活動もむなしく、大利根町地先において決壊した
- ・この水防の重要性をいつまでも忘れないために、石碑が建立されるとともに決壊口付近一帯が史跡に指定されている

<カスリーン台風>

- ・昭和22年9月のカスリーン台風による豪雨は埼玉県秩父地方で14、15日にかけて600mmを越えた
- ・9月15日午後11時頃、北埼玉郡大利根町（旧東村）大字新川通において決壊し、氾濫水は旧川沿いに流下し、東京まで及ぶ大水害となった
- ・この水害により、利根川本川・支川の堤防はいたる所で破堤、越水氾濫し、氾濫区域約1,800km²、被害額は約4,200万円となった
- ・水害に対して天皇陛下が二度にわたって行幸された

<参考>

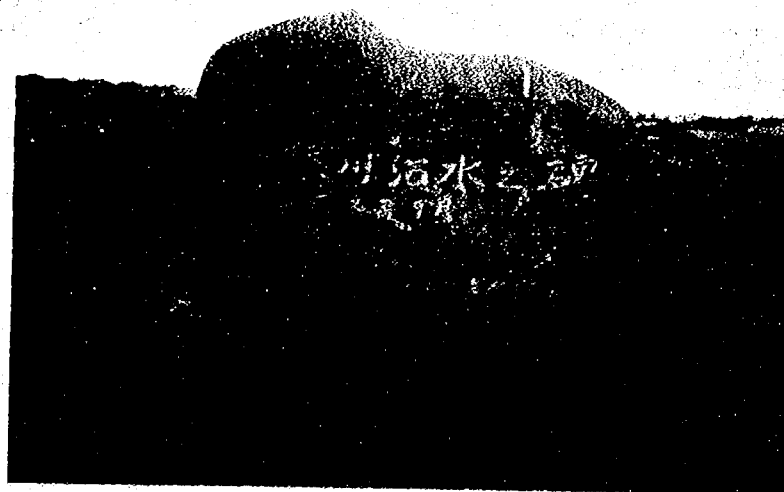
- ・決壊口一帯はカスリーン公園と命名され、公園内には利根川治水同盟によって平成元年9月16日に「利根川治水之碑」が建立された
- ・この碑は利根川治水同盟大会が40回を迎えることを記念して建立されたものである



利根川堤防決潰口跡



カスリーン公園



利根川治水之碑



カスリーン台風による破堤（北埼玉郡大利根町）



カスリーン台風による浸水（東京都葛飾区）

名称	長良神社		
地名	群馬県 おうら 邑楽郡板倉町（利根川）		
開催日または建立日			
主催者または建立者			
<概要> ・洪水で漂着したとされている洪水避けの神が祀られている。雨が降り続くと、村人が社に集まり不動尊を祠から取り出して雨の上がるのを祈る儀式を行うものである <近年の状況> ・近年は農業神としての性格を強めている <祭り> ・長良神社では6月14、15日に水神祭が行われる ・同様の祭りとしては、群馬県佐波郡玉村町五料にある飯玉神社において、7月25日に大杉信仰（茨城県稲敷郡桜川村阿波あはの大杉神社が守護神）に基づく民間信仰風の夏祭りが行われる			

名称	寛保洪水位磨崖標	
地名	埼玉県秩父郡長瀬町野上下郷（荒川）	
開催日または建立日		
主催者または建立者		

<概要>

- ・荒川上流部の野上下郷では、寛保2年の水害により、堤防が決壊し、かなりの高さまで洪水が氾濫した。この洪水氾濫の水位を示したのが「寛保洪水位磨崖標」である

<水害の状況>

- ・寛保2年（1742）の7月27日から8月2日まで大雨が降り続いたため、荒川は各所で堤防が決壊した。荒川上流部の野上下郷では現在の河床上24mの所まで浸水したと言われている
- ・この洪水位磨崖標は、このときの水位を示したもので、最高水位の所に「水」という文字が刻まれており、洪水のすごさを物語っている

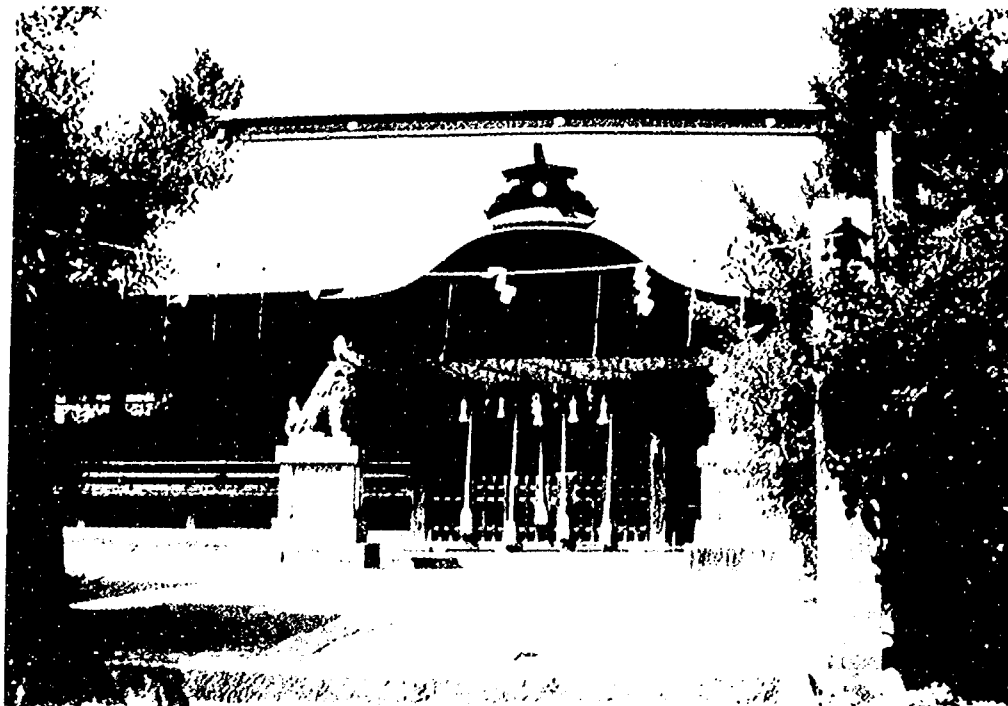
名称	御幸祭り
地名	山梨県一宮町（浅間神社）～竜王町（三社神社）（富士川）
開催日または建立日	毎年４月15日
主催者または建立者	

<概要>

- ・御幸祭りは天長２年の水害後、朝廷が富士川に勅使を下向させた折りに始められたのが起源で、浅間神社より三社神社まで７里の道を神輿をかつぐ水防の祭りである

<祭りの概要>

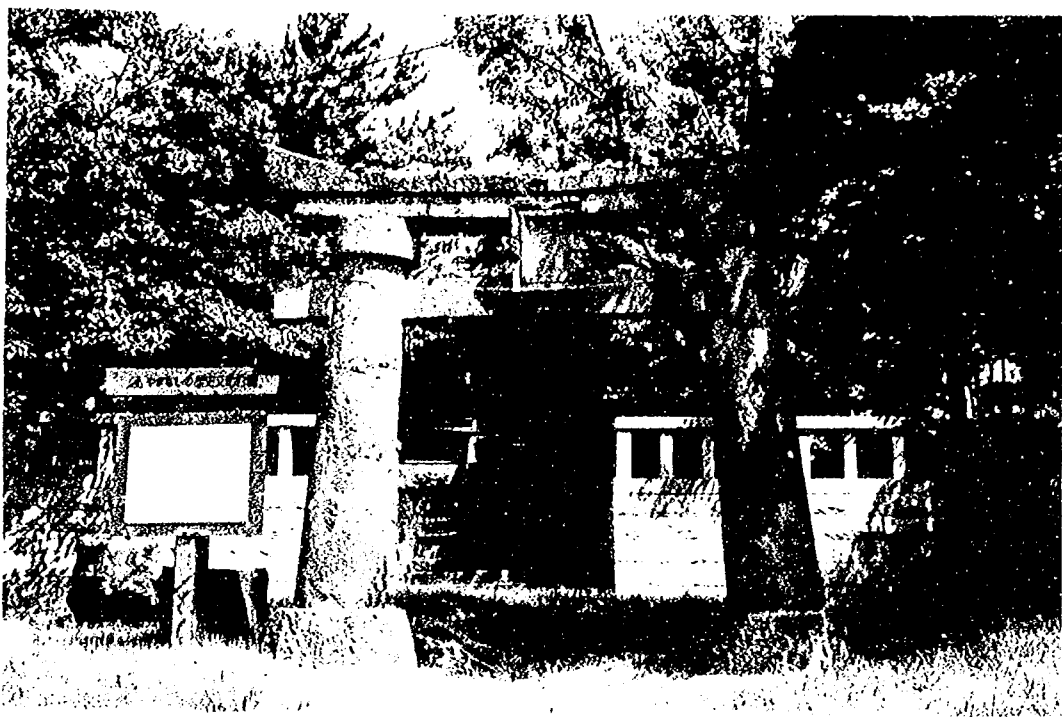
- ・御幸祭りは、天長２年（825）の水害にあたり、朝廷が勅使を下向させた折りに、治水を祈念して始められた。特に信玄公時代から盛んになった
- ・祭りは浅間神社（東八代郡一宮町）より近津堤、山梨岡神社を経て三社神社（中巨摩郡竜王町）まで、紅おしろいで女装した担ぎ手が「ソコダイ、ソコダイ」の神輿の掛け声で、御幸を行う水防の祭りである。その装い、掛け声、踏み足ともに全国まれに見るものである。この神輿の通る道をお幸道と呼ぶ
- ・祭りでは、釜無川に鎮座する三社神社で水防祈願をし、信玄堤の上に注連を張り、「川除儀式」を行い、その年の無事を祈るもので、堤防の上を神輿とその行列を通し、踏み固めることにより堅固にした



浅間神社



御幸祭りを記した石碑



三社神社



御幸祭り

名称	生祠 ^{せいし}
地名	笛吹川支川濁川、印川、押出川 ^{おしとゞし}
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

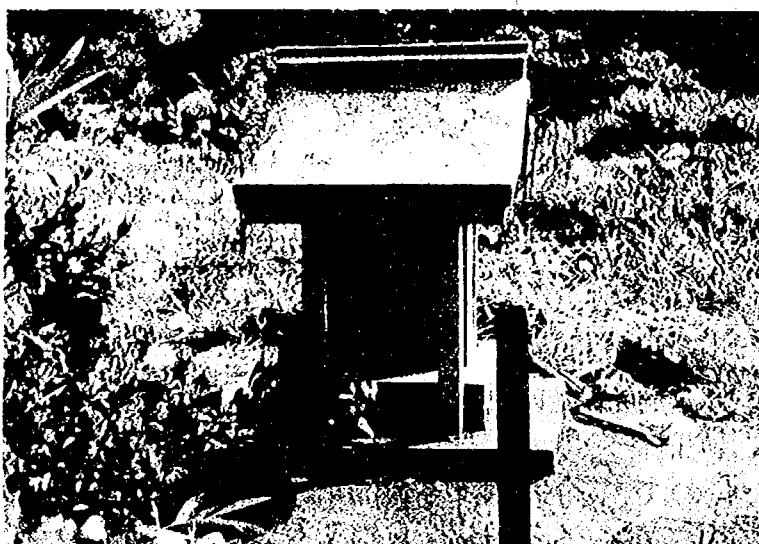
- ・ 笛吹川の堤防が順次整備され、低地へも生活の場が広がっていくと、笛吹川から支川への逆流による内水被害への対応が課題となってきた。笛吹川流域を流れる濁川、印川、押出川においても、河川改修が進められた
- ・ 濁川改修を記念した生祠は甲府市、印川改修を記念した生祠は西八代郡市川大門町の浅間神社、押出川改修を記念した生祠は西八代郡三珠町の大塚排水機場内に祠られている

<改修の状況>

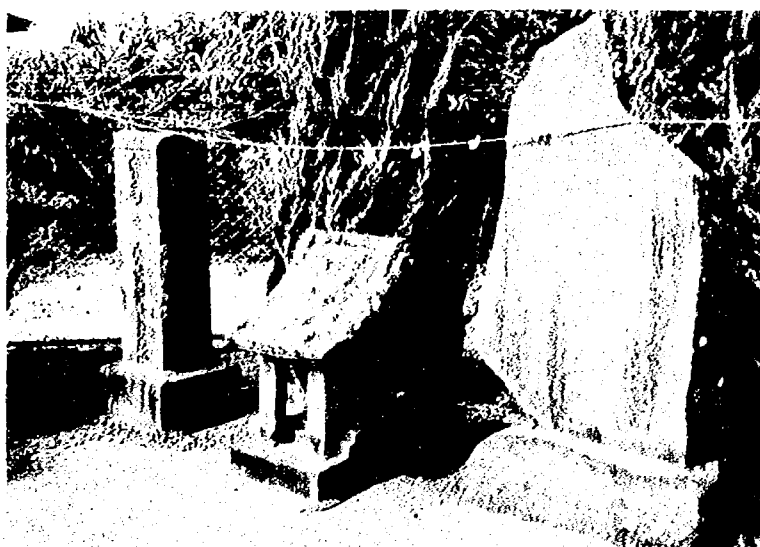
- 1) 濁川の改修は甲府代官の桜井氏、手代の山口素堂氏により元禄年間（1690）より行われた
- 2) 印川の改修は依田十左衛門により行われ、生祠は延享4年（1747）2月に浅間神社の参道わきに建てられた
- 3) 押出川の改修は甲府代官の中井清太夫により、天明6年（1786）頃に行われた。生祠は天明6年12月に建立された。生祠の他には2つの石碑があり、もっとも古い石碑は寛政9年（1797）5月、その後大正14年9月にも石碑が建立された。生祠、石碑は元々押出川の堤防上にあったが、現在は県営湛水防除事業大塚排水機場内に移されている。一帯は歴史文化公園として、「みたまの里」と称されている



生祠（濁川）



生祠（印川 浅間神社）



生祠他（押出川 大塚排水機場）

名称	すいじん 水神の碑
地名	山梨市万力公園内（富士川支川笛吹川）
開催日または建立日	昭和37年7月16日
主催者または建立者	

<概要>

- ・山梨市の万力公園には、笛吹川の氾濫による被害を防ぐための万力林（水防林）、雁行堤防が今もなお残されている
- ・また同じ公園内の市民会館近くには、昭和37年に水神の碑が建立された

<雁行堤防と水神の碑>

- ・雁行堤防は天正11年（1583）9月の洪水の後、武田信玄が築いたもので、甲州流の防河法に基づく堤防である。その姿が雁に似ていることから、雁行堤防と名付けられた
- ・水神の碑は昔五条天皇が祀られていたと言われている場所に建立されているもので、今も東山梨郡春日居町の吾妻屋宮より水防祈願の神輿がやってくる（春の大祭）

名称	水宮神社
地名	山梨県中巨摩郡白根町有野（富士川支川御勅使川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

- ・天長11年、御勅使川に洪水が発生し、天皇は勅使を派遣するとともに、御勅使川近くに水神を祀った。この水神が祀られているのが水宮神社である

<詳細な内容>

- ・天長11年（834）、御勅使川に大洪水が起こった。この時淳和天皇が多く村々が流されたことを知り、心配になって、勅使を派遣し、治水の法を布き、水神を祀った。以来、下流諸村の鎮守となっている
- ・水宮神社の拝殿は文政4年（1828）頃に建てられ、大正15年に改築された
- ・境内の石燈籠には「治山」「治水」の文字が刻まれている

<参考>

- ・御勅使川という名称は、甲府盆地が大水害を蒙ったとき、朝廷より見舞いの勅使が下向して水神を祭ったことにより名付けられたものである。それ以前は水出川と呼ばれていた



水宮神社



治水石燈籠

名称	謝恩碑
地名	山梨県甲府市舞鶴公園内（富士川流域）
開催日または建立日	大正8年3月
主催者または建立者	

<概要>

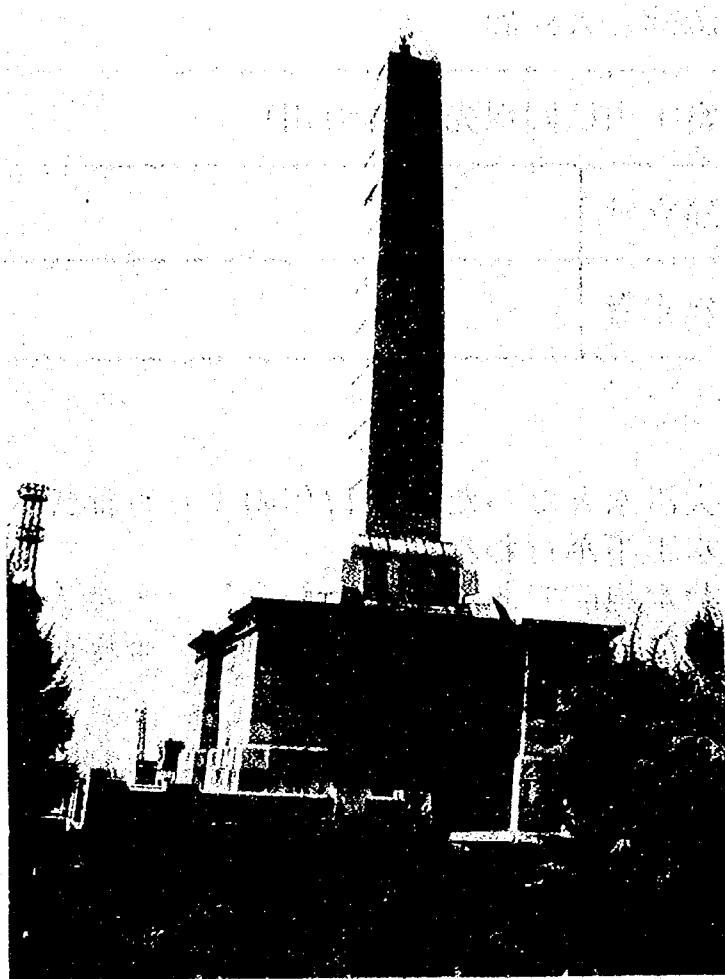
- ・明治40、43年の大水害後、治山治水事業の促進のために、明治44年に皇室御料地が払い下げられたのを記念して、謝恩碑が建立された

<水害の状況>

- ・明治40年（1907）8月、暴風雨が関東甲信越や近畿地方を襲った。特に山梨県、京都府福知山市における被害が甚大で、全国で死者459名、全壊家屋1,450戸の大水害となった
- ・明治40年の水害被害の復旧が終わらないうちに、明治43年8月にまたも大水害が発生した。この明治40、43年の大水害を契機として、治山治水の必要性が唱えられ、皇室御料林の下賜や植林の思想が高まってきた
- ・これを受けて、明治44年3月11日に皇室の山林が山梨県に払い下げられた

<謝恩碑>

- ・謝恩碑は古代エジプトの神殿の入口の塔状の門を形どった碑台と古代エジプトの記念碑を模倣した碑身などからなる。台座1.1m、碑台7.4m、碑身18.2mなどより構成され、全高30.3mである



謝 恩 碑

（一九四九年）

此碑係由本會發起，經各界人士踴躍捐輸，於一九四九年（即民國三十八年）十二月間，在臺南縣政府前，舉行落成典禮。當時由本會主席，主持其事，並由各界代表，致詞致謝。此碑之建立，實為本會成立以來，第一次之大舉動，亦為本會之榮光。此碑之建立，不僅為本會之紀念，亦為各界人士，共同之紀念。此碑之建立，實為本會之榮光，亦為各界人士，共同之紀念。

此碑之建立，實為本會之榮光，亦為各界人士，共同之紀念。此碑之建立，不僅為本會之紀念，亦為各界人士，共同之紀念。此碑之建立，實為本會之榮光，亦為各界人士，共同之紀念。

名称	雁堤記念碑と人柱碑
地名	静岡県富士市松岡地先（富士川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

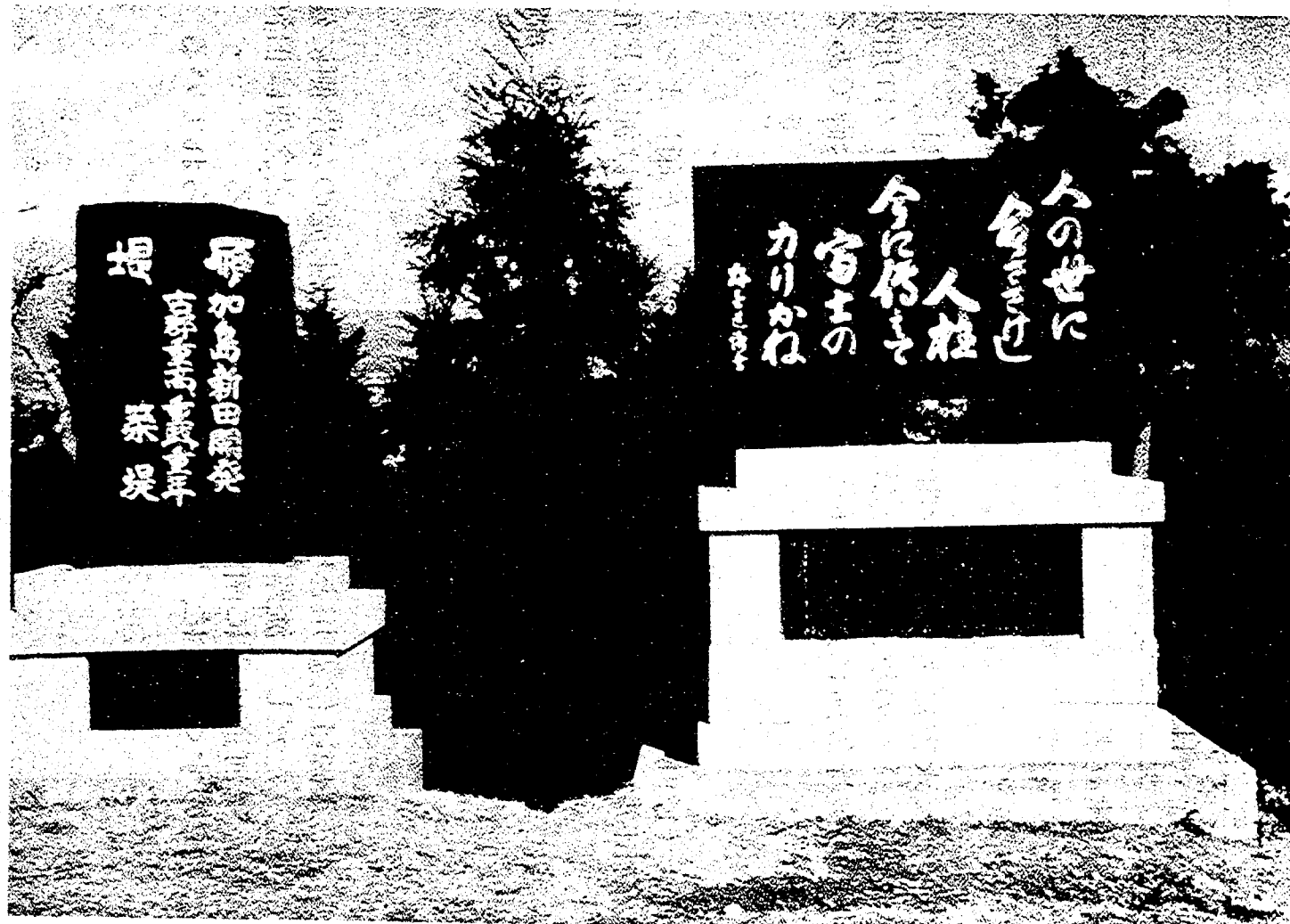
- ・富士川では大洪水となった慶長17年頃より古郡氏3代により、雁堤などの治水工事が行われた
- ・この歴史的治水施設である雁堤を記念し、また人柱となった巡礼の霊を慰めるため、富士川の松岡地先に、雁堤記念碑と人柱碑が建立されている

<雁堤について>

- ・慶長17年（1612）、富士川は洪水により田畑は甚大な被害を被った。この頃より古郡氏は三代、53年の歳月をかけて治水工事を行った。父重高は一番出し、二番出し（水制）を築き、また寛文17年（1640）には長男重政も工事に着手したが、万治3年（1660）の大洪水により施設は流出した
- ・その後、信玄の治水工法を参考にして、水流に逆らわない越流堤、遊水地を考えるとともに、延宝2年（1674）、古郡孫太夫重政と古郡文右衛門重年が富士川の洪水防御のため、雁堤を築堤した
- ・雁堤は岩本山から水神森までの長さ2.7km、高さ5.5～7.3mで、雁が空を飛ぶ姿に似ていることから雁堤と称された

<祭り>

- ・雁堤にある護所神社では人柱となった巡礼の霊が守護神としてまつられ、毎年秋にはかりがね公園で「かりがね祭り」が開催される

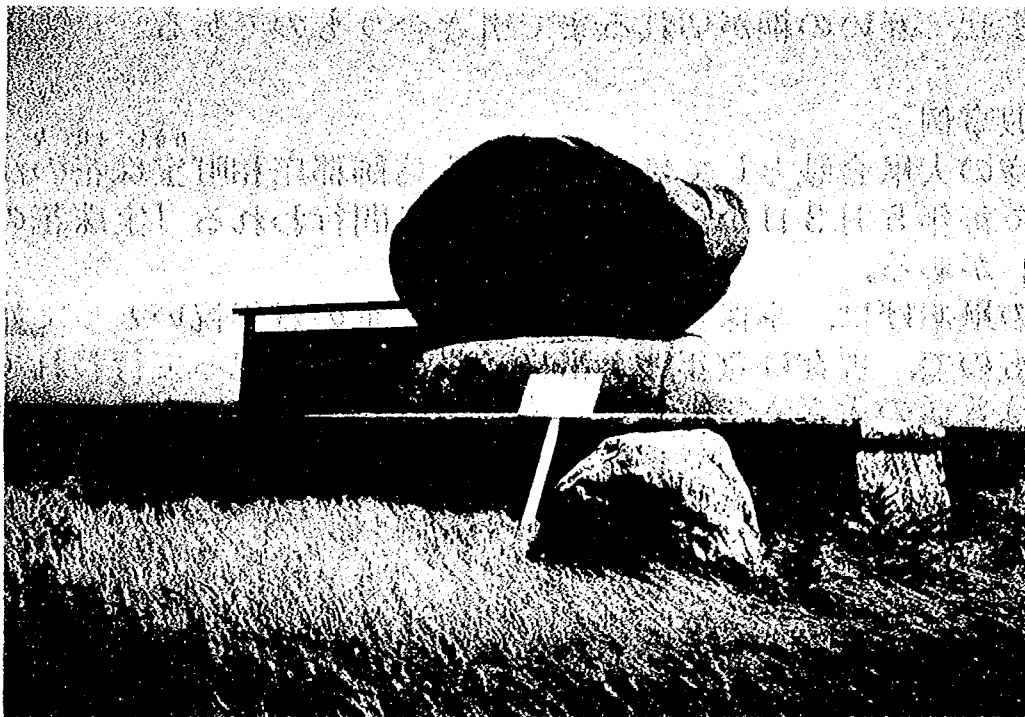


雁堤記念碑（左）と人柱碑（右）

名称	横田破堤記念碑		
地名	新潟県西蒲原郡分水町（旧信濃川）		
開催日または建立日			
主催者または建立者			
<概要> ・明治29年の大水害により、分水町の各所で堤防が決壊し、一帯は泥海と化した。この洪水災害を記念して、信濃川と中ノ口川の分流点近くの破堤箇所に建立されたのが、横田破堤記念碑である			
<水害の状況> ・明治29年（1896）7月22日朝、10日間も降り続いた雨によって、分水町横田の他各所で堤防が決壊し、越後平野一帯は泥海と化した ・この水害により、新潟県内では死者46人、流失家屋500戸、流出田畑6万haにも被害が及んだ			
<参考事例> ・横田破堤記念碑は信濃川と中ノ口川の分流点上流の左岸側に建立されている。ただし、流路が変遷しているため、記念碑は旧河道上にあり、現河道は更に南側約300mを流下している ・この記念碑のすぐ近くに、横田開拓記念碑も建てられている			



横田破堤記念碑



横田開拓記念碑

名称	大凧合戦
地名	新潟県白根市 しろね と西蒲原郡味方村 あしきと （信濃川支川中ノ口川）
開催日または建立日	毎年6月2日～6日
主催者または建立者	

<概要>

- ・元文2年（1737年）、中ノ口川堤防の竣工を祝って白根から大凧が上げられた。この大凧が対岸の味方に墜落し、農作物に大きな被害を与えた。怒った味方の農民が大凧を上げて挑んだのが起源となって始まったのが大凧合戦である
- ・大凧合戦では中ノ口川をはさんで向かい合う白根市と味方村から上杉謙信や桃太郎の武者絵図柄を描いた大凧（縦7.27m、横5.46m、重さ50kg）や六角凧（縦3.03m、横2.42m）などが数十枚上げられるものである。凧の上がる高さを競うのではなく、空中で凧をからませ、互いの綱が切れるまで引き合うものである

<類似事例>

- ・同様の大凧合戦としては、埼玉県北葛飾郡庄和町宝珠花ほうしゅけりの江戸川堤で毎年5月3日から5日までの3日間行われる「宝珠花の凧あげ」がある。
- ・この凧あげは、享保12年（1727）に養蚕の豊年祝いとして始まったもので、現在は豊年とともに子供の成長を祝って行われている
- ・凧は普通の大さきで縦11m、横8mほど、大きいもので縦16m、横12mにも及び、若者百数十人の手であげられる

<参考>

- ・凧あげは本来子供の遊びではなく、集落対抗で行われる大人の民俗競技であった。相手の糸にからませて切り合う風習や、凧の上がり具合によってその年の豊凶を占う例は各所に見られる



大 風 合 戦

名称	曾川切れ記念碑	
地名	新潟市楚川地先（信濃川 6 k 右岸）	
開催日または建立日	昭和61年10月	
主催者または建立者	亀田郷土地改良区	

＜概要＞

- ・大正6年（1917）10月、豪雨に伴う増水により堤防は200mにわたり決壊した。この水害により数千戸の家屋が浸水するとともに、80km²が泥海と化し、浸水は50日以上も続いた
- ・この歴史的な水害を後生に残すために亀田郷土地改良区により建立されたのが、この記念碑である

名称	信濃川大河津資料館
地名	新潟県西蒲原郡分水町五千石（信濃川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	北陸地建信濃川工事事務所

＜概要＞

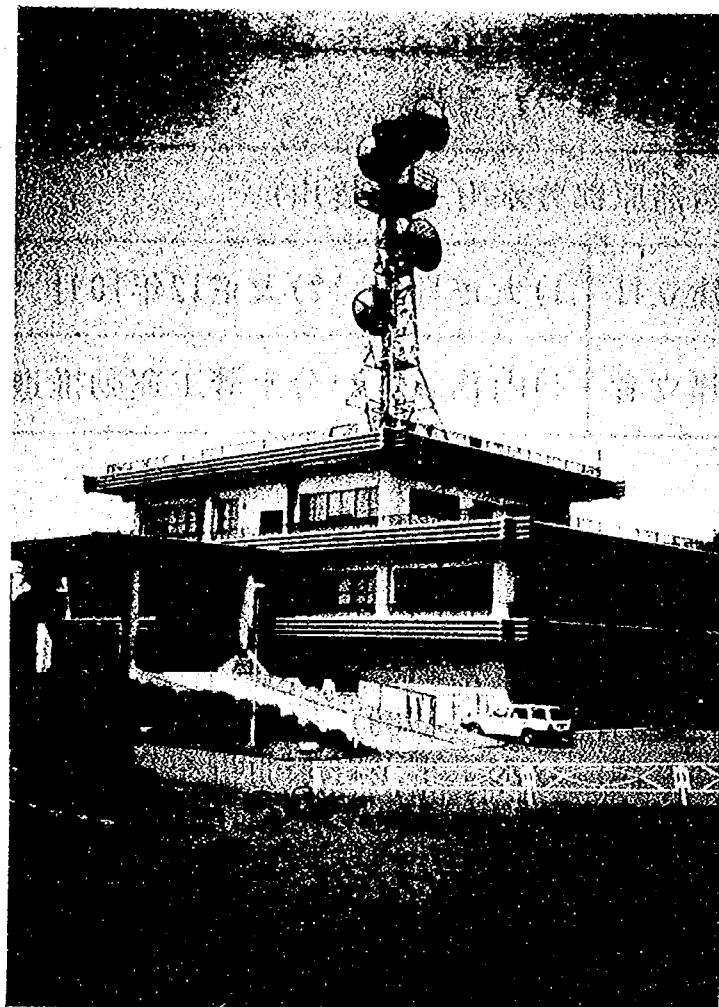
- ・大河津分水は頻発する信濃川の水害から越後平野を守るため、分水町から寺泊海岸までの約10kmを掘削して作られたものである
- ・この一大事業を記念して大河津資料館が建設された。この資料館には歴史的に貴重な多数の資料が展示されている
- ・現在の資料館は信濃川工事事務所大河津出張所の移転に伴い、新たに改築されたものである

＜工事の概要＞

- ・大河津分水路は享保年間に幕府へ請願してから約200年後の明治42年（1909）に本格的な工事に着手し、大正11年（1922）に通水し、大正13年（1924）に竣工した
- ・しかし、昭和2年に分水路の自在堰（可動堰）が河床洗掘により陥没破壊し、流量調節機能を失った。その後抜本的な補修工事を行い、昭和6年6月によりやく完成した。工事は外国製の最新鋭機械を使用し、人手はのべ1千万人、掘削土量2,880万m³に及ぶ大規模工事であった

＜近年の状況＞

- ・年間約3万人の利用者がある。特に団体の見学者が多い



大河津資料館全景



大河津資料館入口

名称	大河津分水にまつわる碑
地名	新潟県 ^{かんばら} 西蒲原郡分水町（信濃川）
開催日または建立日	1)大正13年、 2)大正12年10月
主催者または建立者	1)内務省、 2)分水着工運動推進者

<概要>

1)信濃川治水紀功碑

- ・越後平野を水害から救うために、信濃川に大河津分水路が計画された。分水路は明治42年（1909）に着工し、大正13年（1924）に竣工した。この碑は分水工事が紆余曲折を経て着工するまでの経緯と工事の内容を克明に刻んだもので、大河津資料館の前に建立されている

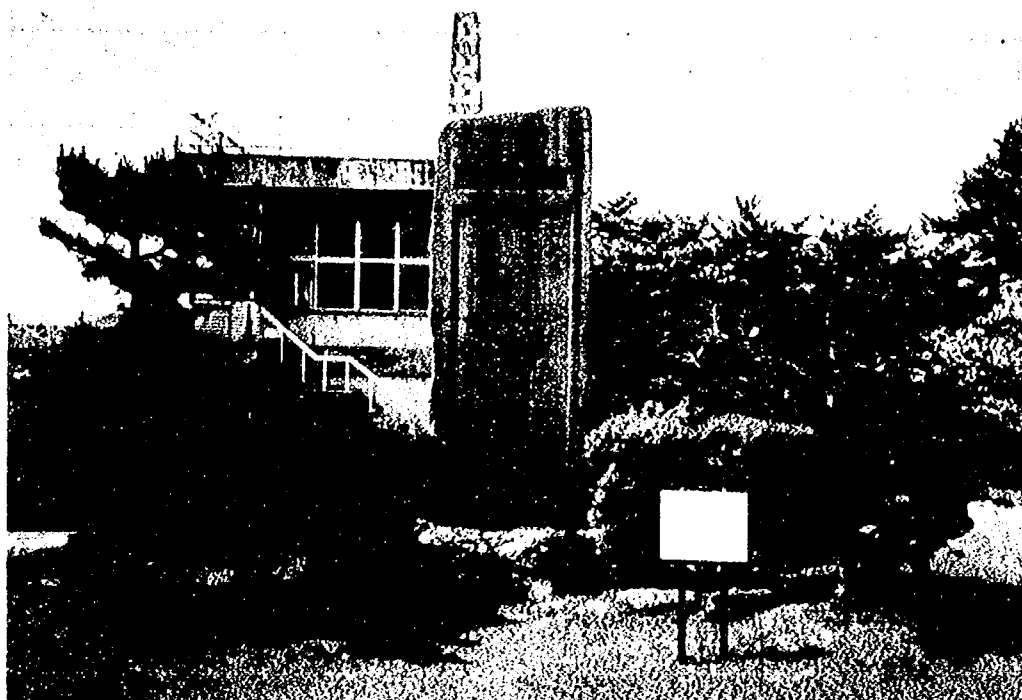
2)大河津分水工事殉職之碑

- ・分水工事には1日平均1,500人が働き、15年間の工事期間中に、その数は延べ1千万人に及んだ。この大工事とその後の維持工事などにより、100人の尊い命が失われた。この碑は100人の殉職者の慰霊のために、田沢実入他の有志が建てたものである
- ・毎年4月に建設省、分水町長をはじめ、分水の恩恵を受けている下流町村の代表者が集まり、分水工事の犠牲者100名の冥福を祈る慰霊祭を行っている

<その他>

- ・大河津分水工事にまつわる碑としては、上記以外に次の碑がある

①句仏上人句碑	⑤桜之碑
②有泉栄一君碑	⑥大河津閘門之碑
③信濃川補修工事従業員一同碑	
④信濃川補修工事竣工記念碑	



信濃川治水紀功碑

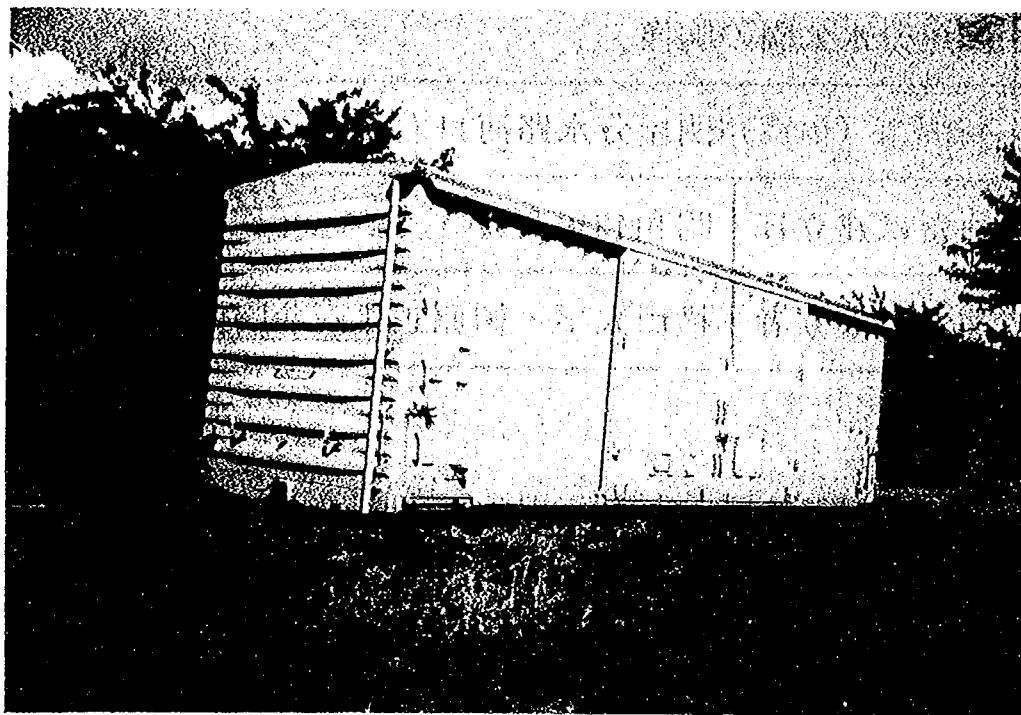


大河津分水工事殉職之碑

名称	水防倉庫	
地名	新潟県西蒲原郡分水町（大河津分水路河口より約5 k 右岸）	
開催日または建立日		
主催者または建立者	分水町	

<概要>

- ・大河津分水路の河口より約5 k 右岸に設置されている。鉄道貨車内には水防資器材が保管されており、倉庫として利用されたのは最近になってからであると思われる
- ・全国には、様々な水防倉庫があるが、鉄道の貨車を倉庫に活用しているのは、全国的に見ても珍しい



分水町水防倉庫

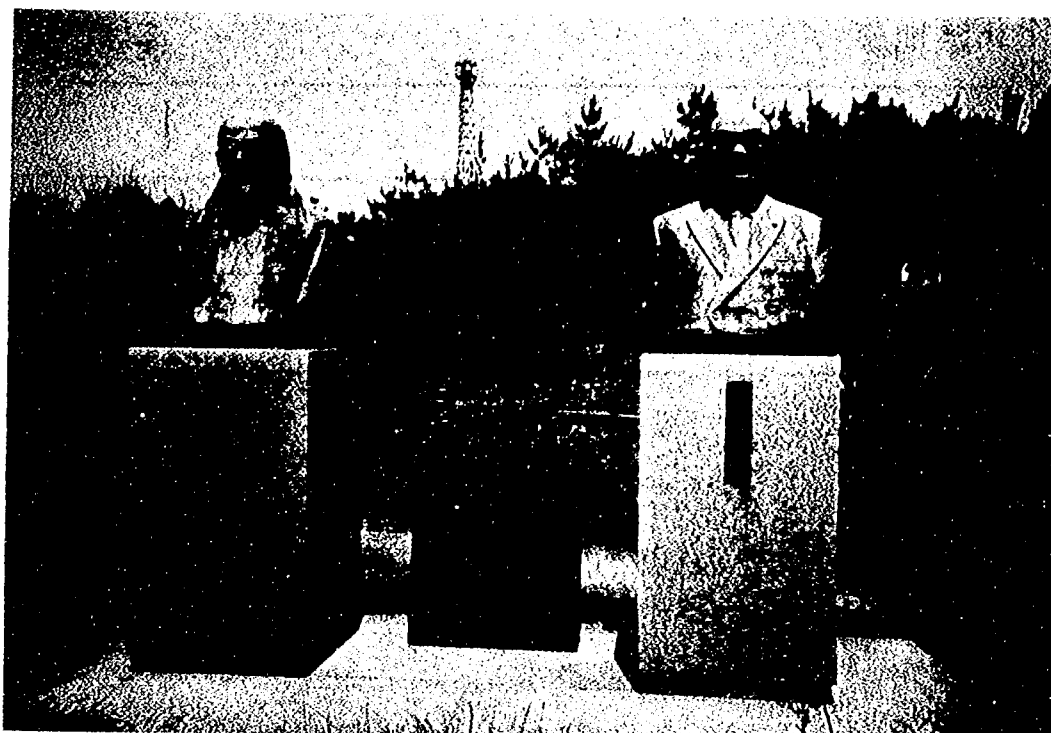
名称	関屋分水公園の胸像	
地名	新潟市（信濃川関屋分水路河口右岸）	
開催日または建立日	昭和49年5月	
主催者または建立者	横山太平・柏原正雄両翁胸像建設委員会	

<概要>

- ・新潟市を信濃川水害から守るため、関屋分水路を建設するよう、強く推進した横山太平と柏原正雄（県議会議員）の功績をたたえて、関屋分水公園内に胸像が建立された

<経緯>

- ・横山太平は大正初年より関屋分水の必要性を訴え、遂に昭和16年に県は内務省に関屋分水路計画案を提出したが、実現するには至らなかった
- ・また、新潟市選出の県議会議員であった柏原正雄は終始率先して分水案を支持し、遂に建設省による分水路工事の着手に至った



横山太平（左）と柏原正雄（右）の像

名称	川除地蔵	
地名	赤松（大井川）	
開催日または建立日		
主催者または建立者		

<概要>

- ・猛威をふるう大井川の川辺には、川除地蔵がたてられ、水神をたてて祭っている。この川除地蔵には水霊を鎮め、水害の難からのがれたいという切なる願いがこめられている

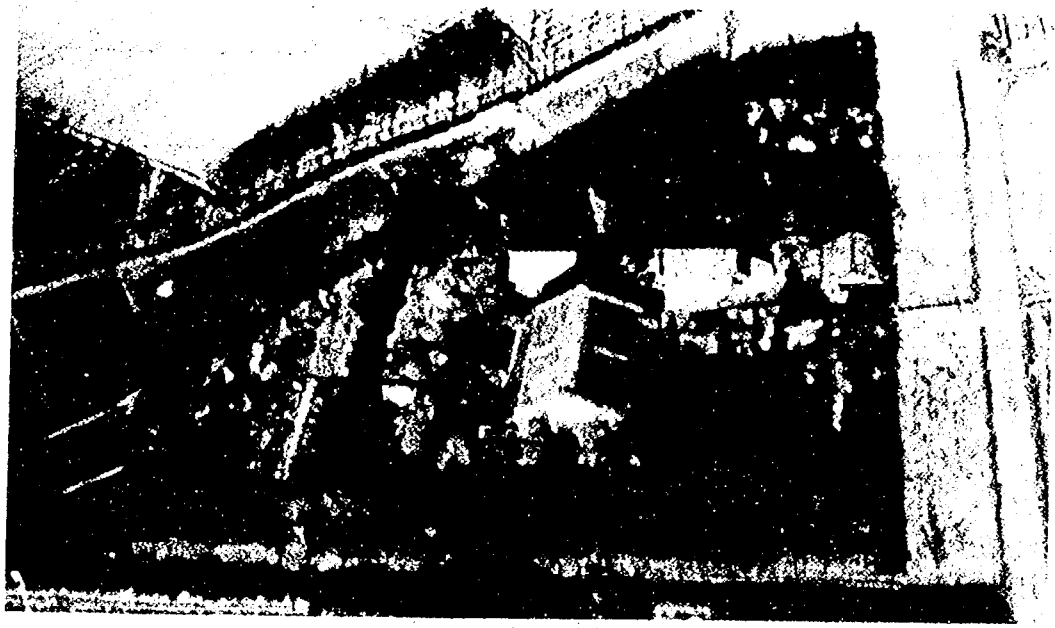
名称	舟型屋敷	
地名	大井川流域	
開催日または建立日		
主催者または建立者	個人	

＜概要＞

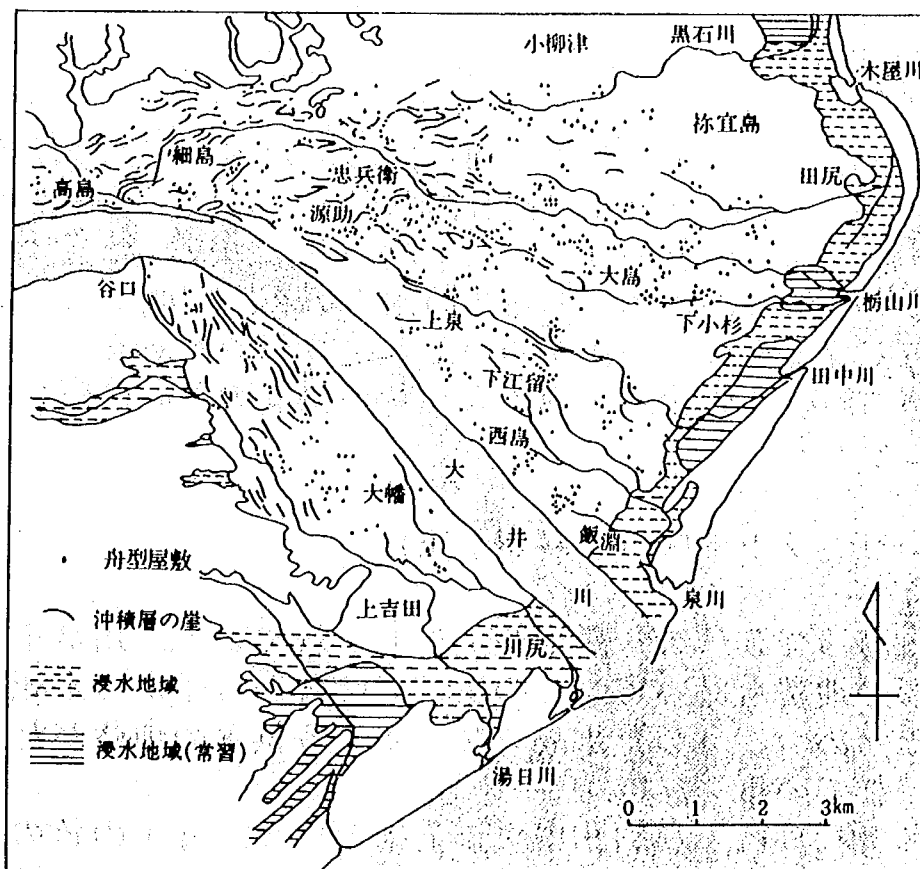
- ・大井川沿いの集落は自然堤防などの微高地上に発達しているが、大井川からの出水が激しい場合は被害を被ってしまう
- ・そこで、各個人の水害対策としては、家のまわりを樹木で三角形に囲む「舟型屋敷」が造られた。舟型屋敷では三角形の鋭角部を濁流の来る方向に向けて、濁流による被害を軽減しようとしている

＜舟型屋敷＞

- ・舟型屋敷は三角屋敷、三角宅地とも呼ばれ、緩流河川流域に見られる輪中に対して、急流また土砂搬出量の多い河川流域に見られる個人的な水害への対応形態であると言える
- ・舟型屋敷は大井川流域で約500を数えるが、都市化の進展に伴い、漸次減少している。屋敷は鋭角部分（一角は90度以下になっている）は榎、松、竹などの樹木が植えられ、屋敷全体は榎、杉などの樹木で囲まれており、周囲を高さ1～1.5m、幅3～5mの堤で縁どられているものもある
- ・分布の特徴は
 - 1) 扇状地上位面（旧河道に囲まれた微高地）上にあり、扇状地下位面（旧河道）に接している
 - 2) 大井川扇状地の頂部から扇央部にかけて多く、また古くからの大規模な旧流路に沿って下流部まで分布している
 であり、このことは舟型屋敷形成後、それに沿って洪水による新しい侵食谷が形成されたためであると解釈できるとともに洪水流に対して舟型屋敷が有効なことを示している
- ・斐伊川流域にも、風・水・火除け用の築地（ついじ）松が屋敷の西または西と北にL字形に植栽されている



大井川町の舟型屋敷



舟型屋敷の分布

名称	川除地蔵
地名	安倍川、安倍川支川藁科川
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

1) 大河内地区横山の小川地蔵（安倍川沿い）

- ・小川地蔵は川の災害を防ぎ、また川の事故等で亡くなった人たちの霊を慰めるものとして信仰されてきた
- ・現在も8月16日に川原施餓鬼と称して、川原に施餓鬼棚を作り、各家から持ち寄られた団子を供物として寺僧の読経を行っている

2) 小瀬戸部落の堤防に祀られた地蔵（藁科川中流）

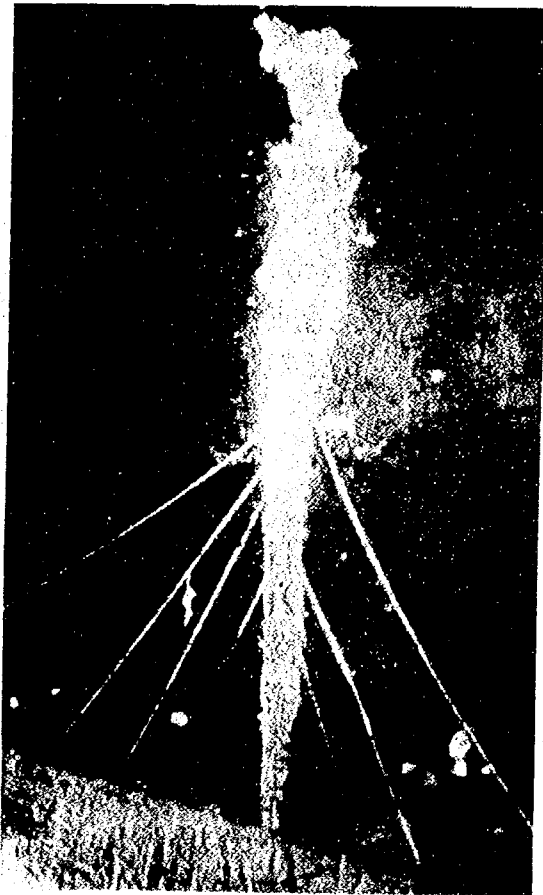
- ・以前あった地蔵は大正3年（1914）の大水害の際、堤防を守りながら、ついに堤防とともに崩れ落ちた。この時、幼児が地蔵の下敷きとなって死ぬという不幸な事故があった
- ・地蔵はその償いのため、ある年の水害の夜、人間ぐらいの大きさになって身をもって激流を防いだという伝説がある
- ・現在の地蔵はその後、土地の人たちが供養のために新しく建立したものである

3) 旧大川村坂ノ上地区（藁科川上流）

- ・岸辺に沿って3体の川除地蔵がたてられている。川が集落を二分する形の地勢もあって、この地区では昔から子供の水死事故が多かったため、こうした事故をなくすよう供養の地蔵がたてられたと言われている
- ・毎年8月13日に、藁科川中央橋上において、4本の竹の施餓鬼棚で和尚が読経を行うとともに、長さ約10mの2本の大松明に火をともし「川施餓鬼」が行われている。この行事は無縁仏、水難者の供養、先祖の迎え火のために行われている



小川地蔵（大河内横山）



あかあかと燃えあがる大松明（坂ノ上）

名称	治水神社
地名	岐阜県（木曾三川）
開催日または建立日	昭和13年5月
主催者または建立者	宝暦治水奉賛会

＜概要＞

- ・ 治水神社は宝暦治水と称される木曾三川の分流工事に総奉行として貢献した薩摩藩の平田^{ひらた}靱負を祭神として、昭和13年5月に地元有志によって油島締切堤に建立されたものである

＜経緯＞

- ・ 享保20年（1735）、紀州流治水の大家井沢弥惣兵衛為永は江戸幕府に木曾三川分流治水計画を提言した。これを基に工事が御手伝普請として薩摩藩に命じられ、宝暦3年（1753）より工事が始められた
- ・ 宝暦治水は宝暦5年（1755）6月に竣工されたが、慣れぬ他郷での治水工事は想像以上に厳しく、多くの犠牲を払い、大変な土木工事となった。平田靱負はその責任を負って自刃した
- ・ 治水神社はこの治水工事の完成を記念して、最も難工事であった油島締切堤の上に建立されたのである

＜近年の状況＞

- ・ 治水神社においては、毎月25日に月例祭が行われるのをはじめ、年間20回に及ぶ祭りが開催されている。なかでも、4月25日と10月25日の春秋の大祭は岐阜県薩摩義士顕彰会の主催により、義士の郷土鹿児島より多数の参拝者を迎えて、御興の渡御詩吟舞踊の奉納などが盛大に行われている
- ・ 油島締切堤には、日向松の苗が植樹され、現在樹齢200年をこえる千本松原となり、人々の憩いの場として親しまれている



千本松原（左）と治水神社（右）



治水神社での祭り

例	月	25	日	(月	例	祭)
1	月	25	日	(初	穂	祭)
2	月	27	日	(工	事	始
3	月	28	日	(成	功	祭)
4	月	3	日	(尚	武	祭)
4	月	25	日	(例	祭	春
5	月	25	日	(鎮	座	季
10	月	25	日	(例	祭	大
12	月	28	日	(贈	位	念

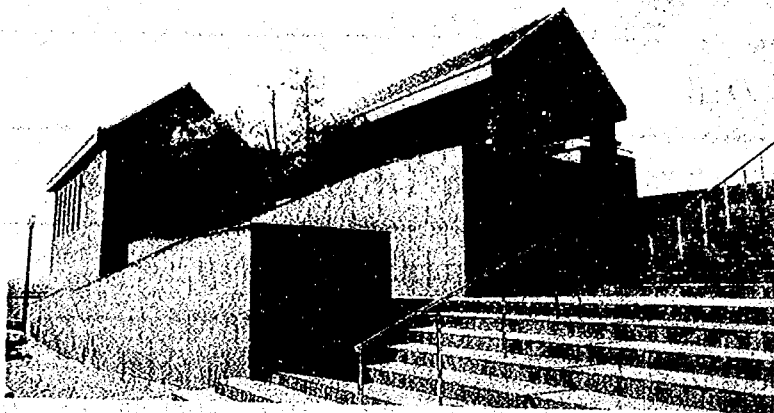
名称	輪中の郷・ふるさとセンター
地名	三重県桑名郡長島町大字西川1093番地（木曾三川）
開催日または建立日	平成3年6月（平成5年春に全館オープン）
主催者または建立者	長島町（管理は教育委員会）

＜概要＞

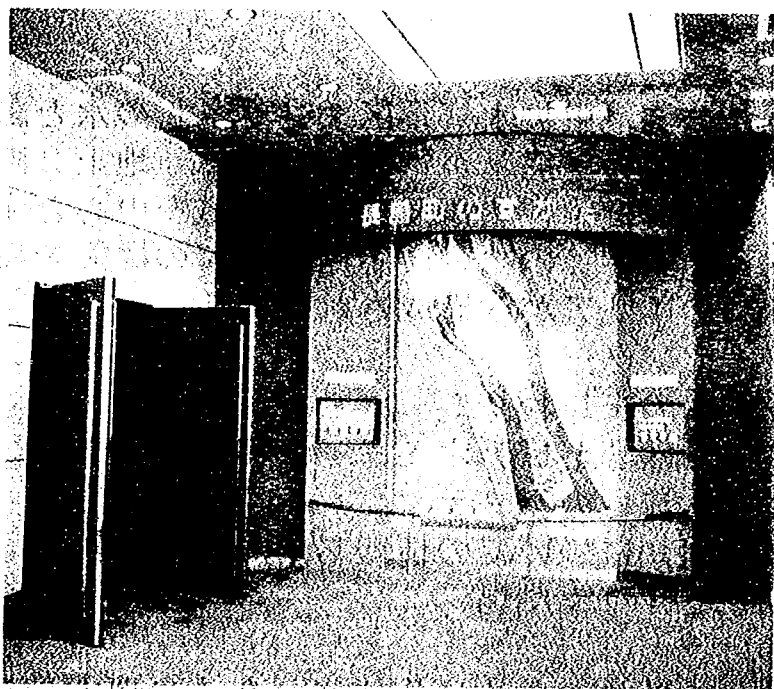
- ・ 長島町特有の輪中をテーマに、郷土の歴史、文化、産業を紹介するとともに、失われつつある貴重な生活様式や生活技術を保存、伝承している
- ・ 館内は展示ホールと映像ホールからなる
 展示ホール……史跡、観光地等の紹介
 映像ホール……歴史・農業を紹介する「低地のくらし」と長島一向一揆「葦と女と」が上映されている
- ・ 今後は伊勢湾台風や水防活動、水防施設をハイテク技術を駆使して、ビジュアル化したコーナーを設置する予定である

＜背景＞

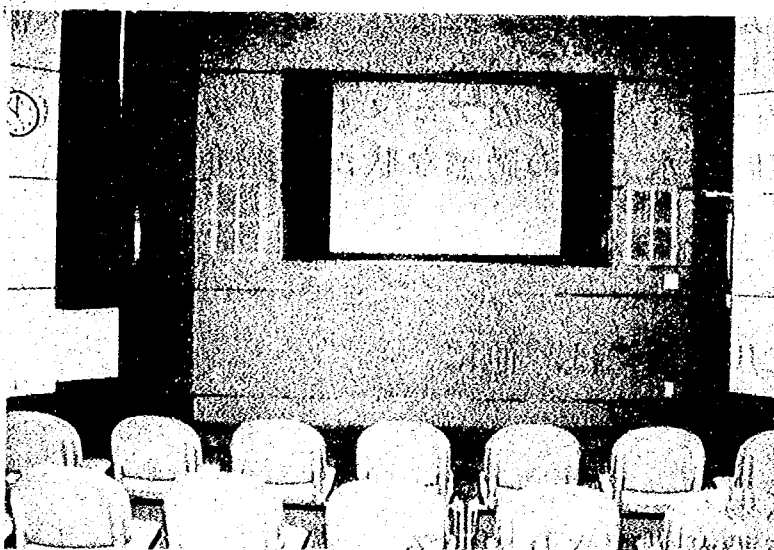
- ・ 長島町は町のほとんどが海拔0m以下に立地し、水郷の町として全国的に知られている
- ・ 標高が低いこともあって、昭和34年の伊勢湾台風では町全体が浸水し、383名が死亡するという被害を被った
- ・ 水害に対処するため、地域の各所に輪中、水屋が散見できる



センター全景



展示ホール



映像ホール

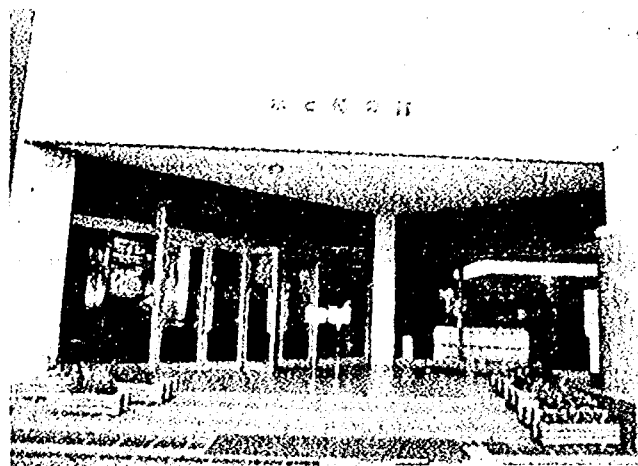
名称	水と緑の館
地名	岐阜県海津郡海津町油島（木曾三川）
開催日または建立日	昭和62年10月供用開始
主催者または建立者	建設省、住宅都市整備公団 (管理は木曾三川公園管理センター)

<概要>

- ・ 国営木曾三川公園「中央水郷地区センター」の水と緑の館においては治水に関する各種展示が行われている。地上2階、延床面積3,017m²の展示館は木曾三川及びその流域を中心とする歴史、民俗、産業、自然科学等の総合展示館としての機能を持っている
- ・ 展示館は6つのエリアから構成されている
 - ①ビジターセンター
 - ②水と緑と人のまじわり
 - ③木曾三川自然誌とビデオミュージアム
 - ④木曾三川と流域のパノラマ
 - ⑤公園及び河川についての情報ステーション
 - ⑥宝暦治水ジオラマ劇場
- ・ 特徴的なのは
 - ②明治時代の改修のために作成されたこの地方最初の実測図が展示されている
 - ③9面マルチスクリーンにより、四季を通した木曾三川と人々の暮らしを上映している
 - ⑥スクリーン（3面）のアニメとジオラマ模型（2種類）により、宝暦治水工事の過酷な状況を紹介している

<参考>

- ・ 国営木曾三川公園には、他に
 - ①展望タワー
 - ②水屋
 - ③水の広場
 など各種施設が設置されている



「水と緑の館」玄関

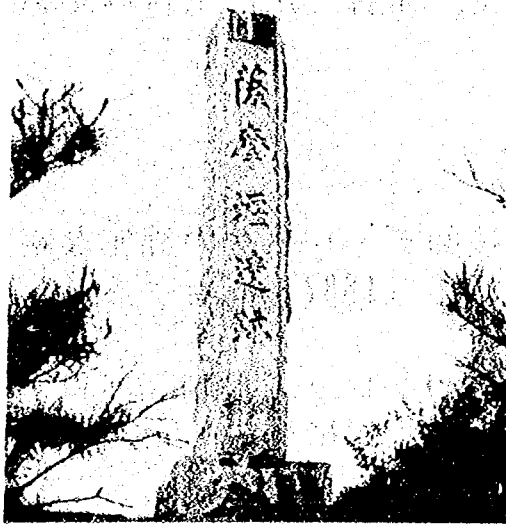


展示ホール

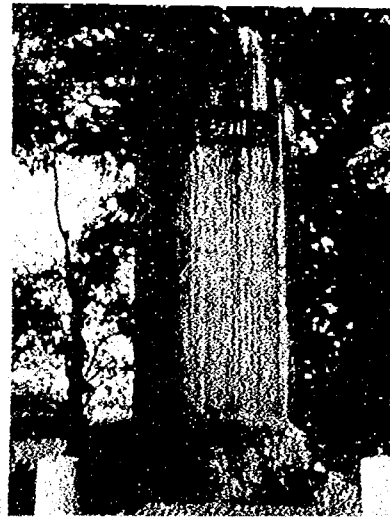
名称	宝暦治水にまつわる碑		
地名	木曾川流域		
開催日または建立日			
主催者または建立者			
<概要> 1)宝暦治水碑 この碑は宝暦治水工事で最も難工事であった油島締切工事の跡地である岐阜県海津郡海津町油島地内に有志により建立されたものである。建碑祭は明治33年（1900）4月に山県有明総理大臣他列挙のもと、厳粛、かつ盛大に挙行された 2)大樽川洗堰碑 大樽川の洗堰工事は長良川より揖斐川に注ぐ支流大樽川の河口に石堰を盛り、各川の増水した水が他の川へ落ちる勢いを減勢するもので、油島締切工事と並ぶ難工事であった。この工事を記念して明治33年12月工事跡の岐阜県安八郡輪之内町大藪に建立された 3)宝暦治水義士の碑 明治35年（1902）、岐阜県羽島市江吉良の清江寺境内に建立された 4)三川分流碑 大正12年（1923）3月、木曾川と長良川が合流する岐阜県海津郡海津町成戸に木曾三川の分流工事を記念して建立された 5)平田靱負終焉の地記念碑 昭和3年5月、工事の役館であり、総奉行であった平田靱負が自刃した場所である土地の豪農鬼頭兵内屋敷跡（岐阜県養老郡養老町大巻）に偉業を讃えて建立された			



宝暦治水碑



大樽川洗堰碑



三川分流碑



宝暦治水義士の碑



平田靱負終焉
の地記念碑

名称	明治改修着工之地	
地名	三重県桑名郡長島町横満蔵地先（木曾三川）	
開催日または建立日	昭和62年10月14日	
主催者または建立者	中部地建	

＜概要＞

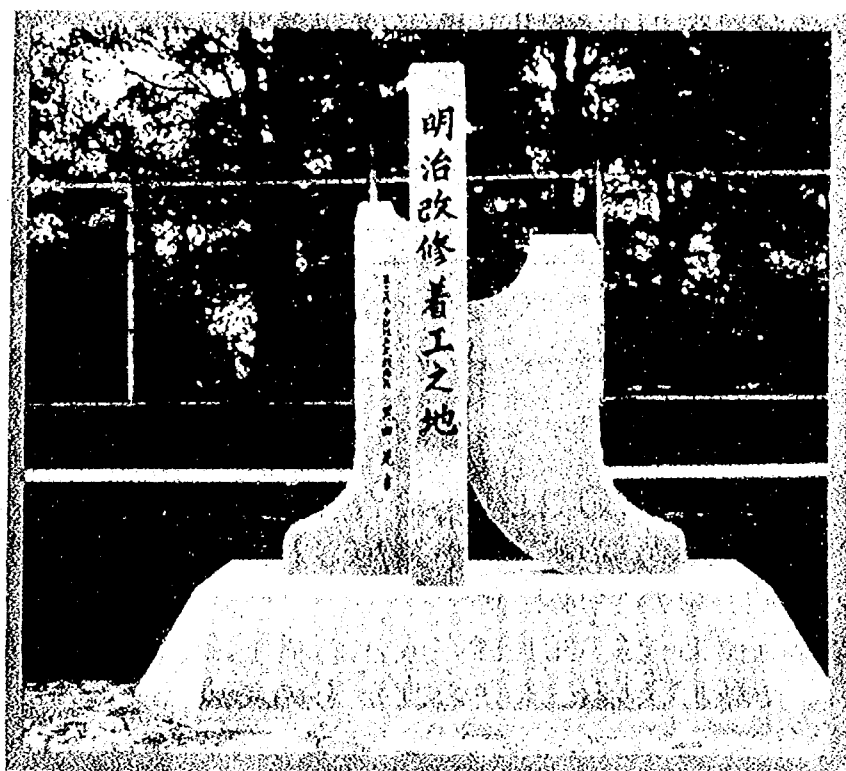
- ・日本の近代治水工事の先駆けとなった木曾三川分流工事が明治20年に当地で着工されたのを記念して、木曾三川治水百周年を迎えた昭和62年に建立された

＜木曾三川分流工事＞

- ・木曾三川分流工事は、オランダ人技師デ・レーケの綿密な踏査と計画に基づき、内務省により明治20年（1887）に着手され、明治33年（1900）に概成した
- ・工事により完成した河道安定のためのケレップ水制、河口処理の導流堤などにより、その後洪水被害は大幅に減少した。これらの施設は現在でも機能を發揮している

＜参考＞

- ・デ・レーケは明治6年（1873）に来日し、日本の河川・砂防・港湾事業などについて指導し、明治36年（1903）に帰国した
- ・デ・レーケは木曾三川以外にも、淀川の粗朶工、不動川（京都）の砂防堰堤、東京の洋式下水道など創世期の国土建設に多大な功績を残した



明治改修着工之地

名称	伊勢湾台風復旧仮締切工事完成記念碑	
地名	三重県桑名郡長島町松蔭（木曾三川）	
開催日または建立日		
主催者または建立者		

＜概要＞

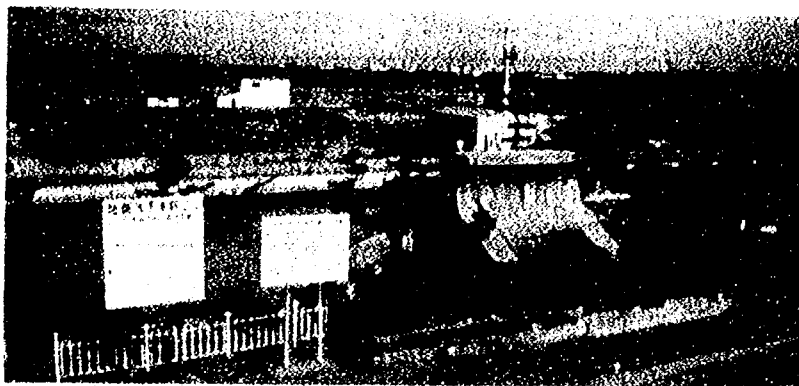
- ・昭和34年、木曾川下流域は伊勢湾台風により、壊滅的な被害を受けた。災害後、応急締切工事が実施され、堤防が決壊してから54日目に仮締切工事が完成した
- ・「伊勢湾台風復旧仮締切工事完成記念碑」は、この工事の完成を記念して、長島町松蔭に建立されたものである

＜伊勢湾台風による水害＞

- ・昭和34年9月26日、木曾川下流域を襲った伊勢湾台風により、至る所で破堤し、桑名市、長島町、木曾岬町及び弥富町は全域が浸水し、死者1,236名、全壊家屋3,355戸、流出家屋763戸という史上希にみる甚大な被害を受けた
- ・なかでも長島町は死者383名、罹災戸数1,453戸の被害を受けた

＜応急締切工事＞

- ・応急締切工事は浚渫船13隻、そだ33万束、割玉石約6千 m^3 、かます36万枚など多くの緊急資材を投入して行われた
- ・11月5日：桑名地区全域の仮締切を完了
- ・11月9日：木曾岬村全域の仮締切を完了
- ・11月18日：最大の難工事であった長島町松蔭の仮締切を完了
(決壊してから54日目に完了)



伊勢湾台風復旧仮締切
工事完成記念碑



伊勢湾台風による浸水



高潮により運ばれた流木

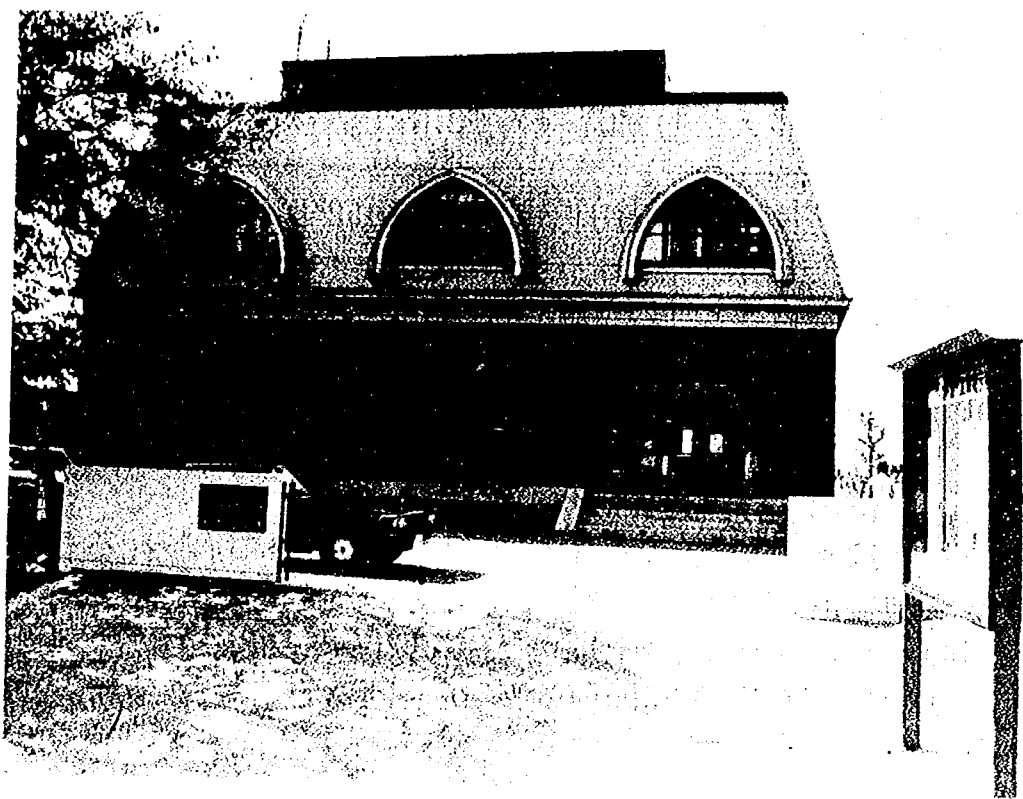
名称	木曾川文庫
地名	愛知県海部郡立田村福原（木曾三川）
開催日または建立日	昭和62年
主催者または建立者	中部地建木曾川下流工事事務所船頭平閘門管理事務所

＜概要＞

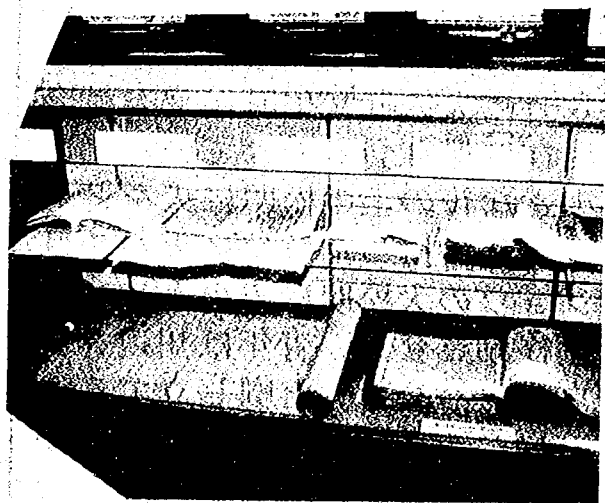
- ・ 木曾三川の治水工事は、明治20年よりオランダ人技師ヨハネス・デレーケの指導により開始された。木曾川文庫は百周年を迎える昭和62年に木曾三川治水百周年記念事業の一環として設立された
- ・ 木曾川文庫には木曾三川に関する各分野の図書、研究論文が収集・保管されている他、先人たちの偉業を伝える数々の資料が展示されている

＜収蔵物の概要＞

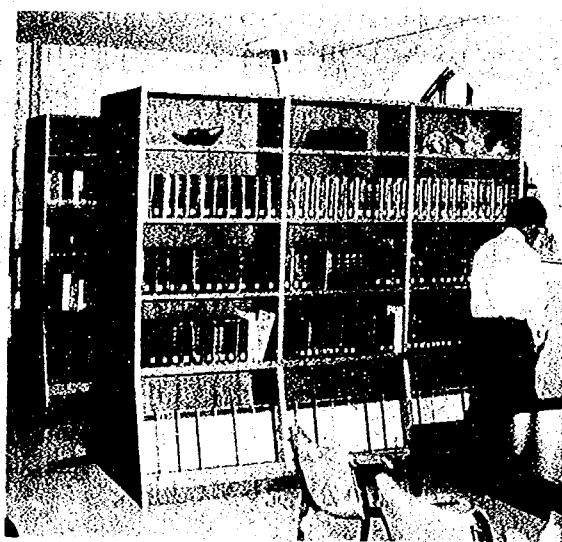
- ・ 濃尾平野特有の洪水制御や低地に暮らす人々の生活様式等の歴史が分かるよう、輪中、宝暦治水、明治改修等の図書等が重点的に収蔵されている
 - 1) 県・市・村史、郷土史、藩政史、要覧等
 - 2) 治水・利水史、災害史、水利組合史、電力史、工事（災害復旧）誌、研究論文等
 - 3) 流域の自然・地理・文化・社会等
 - 4) 一般書籍（小説、演劇、広報パンフ等）
 - 5) オランダ人技師団及びデレーケに関する文献
 - 6) 写真・ネガの整理保存（伊勢湾台風、木曾三川の自然）
 - 7) 木曾三川に係わる映画・ビデオ



「木曾川文庫」全景



陳 列 室



書 架

名称	川神淨 (かわかんじょう)
地名	静岡県田方郡大仁町神島 (狩野川) とがとくごんおおひとちょう
開催日または建立日	毎年8月3日 (昭和50年に復活)
主催者または建立者	

<概要>

- ・ 筏に高さ5mの松明を組み、火をつけて狩野川に流す、盆（この地方のお盆は養蚕の関係で8月上旬である）に行われる伝統行事である。神益麻志神社から神島橋までの約800mの区間で行われる
- ・ 狩野川の水神を供養し、土地の人達の生命、財産の安全を祈り、特異なはやし声が響き雰囲気盛り上げる

<詳細な内容>

- ・ この行事は発祥の理由、年月も、また青年と子供達の間でやりとりされる囃し言葉の意味も不明であるが、かなり古くから行われていたと思われる。狩野川台風（昭和33年）の後、規模が縮小され、その後消滅したが、昭和50年8月に大仁町文化財保護委員会の人達の熱意によって復活した。現在は保存会もできている
- ・ 川神淨では、先ず子供達が作った小さな筏の上の松明に火をともし、狩野川に投げ入れる。そして、青年の持った竹竿に火がつけられ、川に浮かべられたカワカンジョウの大松明に点火される
- ・ 縄と身体を使って舵をとり、下流に移動させる。青年は川辺を歩いている子供達に向かって「ウウウウハハイ」と囃し立てると、これを受けて子供達も「ウウウウハハイ」と応じて、楽しい掛け合いが続いてゆく

<参考>

- ・ 狩野川では、観光協会の主催で8月3日に狩野川祭が行われ、慰霊祭、子供しゃぎり、灯ろう流し、花火大会が繰り広げられる。場所は千歳橋下流の右岸河川敷である

名称	十五の森の跡	
地名	愛知県春日井市松河戸町（庄内川）	
開催日または建立日		
主催者または建立者		

<概要>

- ・ 庄内川の水害をなくすため、明応3年に庄屋の娘を堤防のなかに埋め込んだ。この娘の菩提のために娘を埋めた所に塚を築き、御堂を建て、薬師如来の木像を祭り、クロガネモチの木を植えた
- ・ この娘を祭った塚を、村人たちは娘の歳にちなんで、十五の森と称した

<伝説>

- ・ 庄内川は雨期になると氾濫して、田畑が水浸しになり、米は三年に一度しか収穫できなかった。そこで、途方に暮れていると、通りかかったうらない師が祈ったあとで、「水神様がお怒りなさっているのだ。十五歳になる汚れを知らない娘を箱に入れ、生きたまま埋めれば、お怒りはなくなりますぞ。」と村人たちに教えた
- ・ そこで、明応3年（1494）6月、くじによりあたった庄屋の矢野氏の娘が、真新しい長持に入れられ、念仏を唱える村人にかつがれ、堤のよく切れる場所に埋められた
- ・ 娘の鳴らす鐘は7日7晩続いたが、その後は聞こえなくなった。それからこの地には水害はなくなり、一望美田となって今日に至った

<伝説に係わる石碑等>

- ・ 村人は娘を祭った塚を、十五の森と呼び、菩提のために御堂を建て、薬師如来の木像を祭り、クロガネモチの木を植えた。また近くの観音寺には、矢野氏の手によって、昭和44年に親子地蔵が建立された。毎年10月8日に、観音寺において供養がされている



十五の森の跡



親子地蔵

名称	明治18季洪水碑
地名	大阪府枚方市（淀川）
開催日または建立日	明治19年
主催者または建立者	淀川茨田堤防水害予防組合

<概要>

- ・ 明治18年の台風と梅雨による水害により、淀川支川の天の川、本川三矢村の堤防及び伊加賀堤が破堤した。淀川茨田堤防水害予防組合（現淀川左岸水防事務組合）では寄付金をもとに積立基金を設け、翌年永遠の教訓とするため洪水碑を建立した
- ・ 洪水碑は枚方大橋南側の組合事務所跡地（昭和41年11月に移築）に建立されている

<水害の状況>

- ・ 明治18年（1885）6月、台風と梅雨により上旬から降り続いた豪雨は中旬になっても降り止まず、淀川支川の天の川（枚方市）の堤防が破堤、次いで本川三矢村（枚方市）の堤防が破堤し、濁水は大阪市まで達した
- ・ 洪水により河川に架かっていた橋のうち、31橋が流出した他、流出家屋7,631戸、浸水家屋71,249戸、浸水田畑151km²という大水害となった



明治18季洪水碑

名称	沖野忠雄の胸像
地名	大阪市旭区毛馬町（淀川大堰近く）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

- ・淀川改修工事を記念して、淀川大堰の毛馬近くに、この工事の中心的人物であった沖野忠雄の胸像が建てられた

<経緯>

- ・沖野忠雄は信濃川、北上川、木曾川、筑後川、高梁川の改修工事を担当したが、その生涯でもっとも心血を注いだのは淀川改良工事と大阪港の修築工事であった
- ・明治29年（1896）、河川法が公布されると同時に起工された淀川改良工事は沖野忠雄が計画立案した「淀川高水防御工事意見書」を基に、上流瀬田川から下流新淀川放水路開削までの上下流一貫した工事であった
- ・この改良工事は、淀川治水史に残る一大土木工事で、明治43年（1910）に竣工した

<参考>

- ・沖野忠雄は淀川改良工事以外にも、大阪港の築港についても功績を残している。大阪築港は、明治13年（1880）のデレーケの建議を経て、明治30年（1897）起工の運びとなり、今日の大阪港の姿を概成させた

名称	淀川資料館	
地名	大阪府枚方市新町 2 - 2 - 13 (淀川26.5k左岸)	
開催日または建立日	昭和52年 4 月 1 日	
主催者または建立者	淀川工事事務所	

<概要>

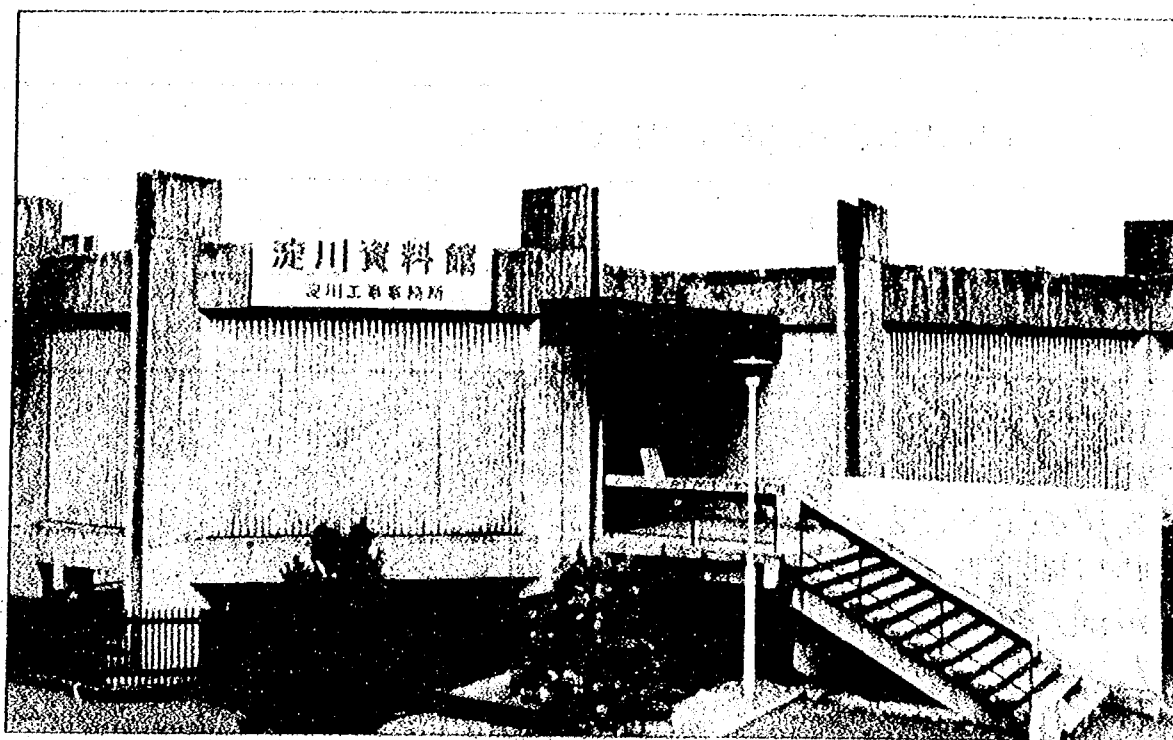
- ・淀川における改修工事は明治7年より開始され、昭和49年をもって100周年を迎えた。この淀川改修百年記念事業の一環として、昭和52年に淀川工事事務所の近くに建設された

<経緯>

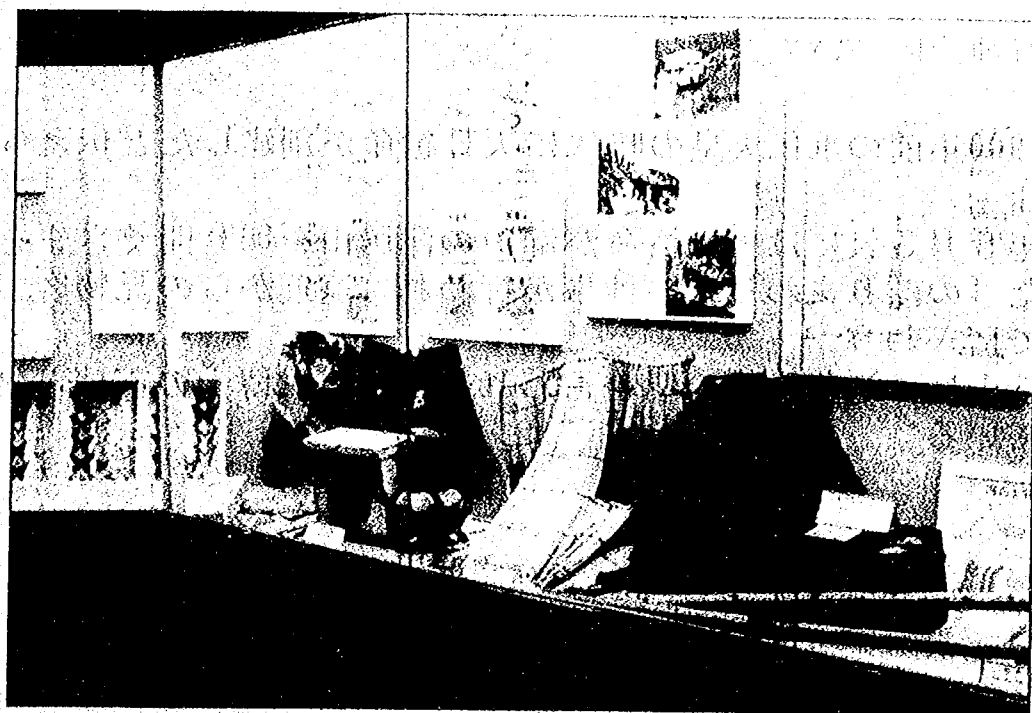
- ・淀川は京都と大阪を結ぶ重要航路であったが、土砂堆積と流心移動が著しかった。また水深も浅く、大阪築港の機運とともに、大型船の航行ニーズが高まっていた
- ・淀川においては、明治7年(1874)より、低水工事をはじめとする淀川修築工事が着手され、明治21年(1888)まで実施された。修築工事の内容は以下のとおりである
 - ①河床の浚渫
 - ②粗朶工による水制を設けて流心を固定
 - ③砂防工事

<館内の展示等>

- ・資料館には淀川・大和川の古地図、工師(外国人)淀川改修意見書や土木工要録などの貴重な文献、舟運の記録、河川総合開発事業・河川環境事業などの多種多様な資料が展示、保管されている



淀川資料館全景



館内の展示状況

名称	いすし 出石神社
地名	兵庫県出石郡出石町宮内（円山川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

- ・ しらき新羅の王子であった天日槍命あめりひこりみことが渡来して、出石の地を領した。当時豊岡平野一帯は黄色く濁った泥湖であった。そこで、天日槍命が瀬戸（現在の円山川河口近く）の津居山を開くと、泥水が音をたてて日本海に流れ出し、泥湖のあとに豊かな平野が生まれたと言われている
- ・ この天日槍命が国土開発の祖神、治水の神様として但馬一ノ宮の出石神社にまつられている

<出石神社について>

- ・ 約1900年前の垂仁天皇の時代に天日槍命が創建したと伝えられる神社
- ・ 毎年5月5日には天日槍命が瀬戸の津居山を切り開くさまを再現した「のぼりまわし」の神事が行われ、遠近からの見物客、参拝客でにぎわう
- ・ 神社内には近代土木の聖と言われる沖野忠雄博士の石碑が建立されている

図表資料の内容



出石神社

名称	洪水石碑、石仏		
地名	琵琶湖流域		
開催日または建立日			
主催者または建立者			

<概要>

- 1)明治29年(1896)9月の台風により、近畿から東日本にかけて各所の河川が氾濫した。9月23日に、琵琶湖において大水害が発生した。滋賀県大津市瀬田地区では、明治29年に琵琶湖で発生した水害により、浸水被害を受けた。同地区の西光寺にある洪水石碑にはこのときの浸水位が示されている
- 2)同県彦根市甲崎町の妙光寺の境内にも、明治29年9月12日に発生した浸水の最高水位が示されている
- 3)同県大津市田上黒津町には、瀬田川のめぐみに感謝し、洪水が起きないようにお祓いをするために石仏が建てられたと言われている

<水害の状況>

- ・明治29年9月3日から降り続いた豪雨は、10日間で1,008mmという滋賀県の年降水量の半分に匹敵するものであった。そのため、琵琶湖の水位は通常より3.76m上昇し、湖周辺に未曾有の大水害をもたらした
- ・湖周辺の市町村は浸水し、特に彦根市は市の80%、大津市は中心部全域が浸水した。また浸水期間は237日の長期にわたった



西光寺に残る洪水石碑（大津市瀬田）



妙光寺境内（彦根市甲崎町）



納拜の石仏（大津市田上黒津町）

名称	一夜官女
地名	大阪市西淀川区野里
開催日または建立日	2月20日（陰暦の1月20日）
主催者または建立者	住吉神社

<概要>

- ・ 打ち続く天災と悪疫から村を守るため、毎年1月20日（陰暦）に大阪市の住吉神社で、一人の乙女を生贄にして神霊を慰める祭りである

<祭りの内容>

- ・ 祭り当日、まず氏子のなかから選ばれた10～13才の少女が参集し荒菰こもの上に7個の夏越桶なごしおけを並べ、座敷で別れの杯事が催される。ついで行列を仕立てて神社境内に入り、巫女姿の官女たちが献饂を行う
- ・ 官女に扮装して一夜だけ神に仕える巫女になるため、一夜官女と称される

<類似事例>

- ・ 同様な事例として、兵庫県西宮市鳴尾の岡太神社において、毎年10月11日に行われる祭りでは、女装した供人が献饂する

名称	杉田定一君治水謝恩之碑	
地名	福井市 ^{すいた さかき} 砂子坂町（九頭竜川）	
開催日または建立日	昭和3年秋	
主催者または建立者	杉田定一翁謝恩会	

<概要>

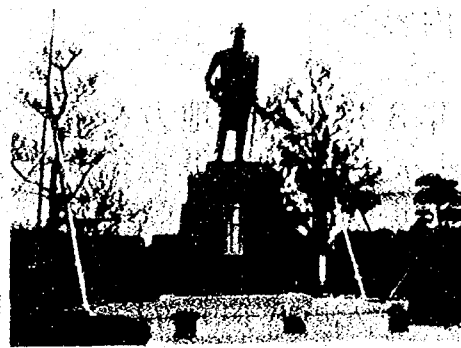
- ・九頭竜川流域は明治28年（1895）と29年に大洪水に見舞われ、大被害を受けた。水害後杉田定一氏（衆議院議員）は九頭竜川の治水事業が国家事業となるよう、積極的な働きかけを行った
- ・その結果、明治31年に国の事業として治水工事が着手された。この杉田氏の誠意と熱意に感謝して石碑や銅像が建立された

<経緯>

- ・九頭竜川は堤防の改修が進まない間、出水の度に水害による被害を被った。各村の村長は福井県に対して治水対策の実施を請願し続けた
- ・請願が実施せぬまま、明治28、29年の連災を受け、福井県は抜本的な改修事業を計画した。しかし、事業費が膨大となることから実現は不可能と見られていた
- ・この時杉田定一氏は関係者に治水事業の決行を力説し、これが受け入れられて国の事業としての着工にこぎつけた



杉田定一君 治水謝恩之碑



杉田定一翁の銅像

名称	堤防神社
地名	京都府福知山市御霊公園内（由良川37k右岸）
開催日または建立日	昭和2～6年の間（詳細不明）
主催者または建立者	福知山市民

＜概要＞

- ・ 明治29、40年の大洪水後、明治45年に福知山市街地を守る堤防が完成した。また昭和2年の地震による堤防被害に対して、コンクリートの大堤防が築造された
- ・ 由良川の大堤防の恩恵に感謝の念を高揚徹底し、これらの築造にあたった先人の偉業を讃えるとともに、水害の苦渋を忘れることのないよう、神を祀るとともに堤防神社と呼ぶようになった
- ・ 御霊公園の入口（駐車場）横には、昭和28年9月の台風13号に伴う氾濫による浸水位が表示されている

＜詳細な内容＞

- ・ 昭和2年3月奥丹後地方を襲った地震は、由良川の堤防に被害をもたらした。堤防は災害復旧によりコンクリートの大堤防となった。この堤防工事は当時全国でも類を見ない大規模なものであった
- ・ この堤防の完成を直接の契機として、祭りの神輿をしまう場所を堤防神社と呼ぶようになった。神社にはみづのうみのおおきみ罔象女大神、おおとこぬしのおおきみ大地主大神、うぶすな産土大神の三神が祀られている。現在の神社は昭和50年代に建て替えられたものである
- ・ 昭和6年8月より、夏に「堤防まつり」が開催され、みづもと御神体が市内を巡行するとともに、川清め神事が行われる



堤防神社



御笠公園入口の浸水位表示板

名称	浸水位表示板	
地名	京都府加佐郡大江町（由良川）	
開催日または建立日		
主催者または建立者	個人	

<概要>

- ・ 公共機関が浸水位表示板を設置している事例は数多くあるが、この写真のように個人で浸水位を記録としてとどめておこうという例は珍しく、浸水に苦慮していた様子がうかがえる
- ・ 浸水位としては、昭和28年9月、昭和40年9月、昭和47年9月の3出水時の水位が表示されている

<水害の状況>

- ・ 写真から分かるように、昭和28年9月の水害規模はものすごく、2階の軒下まで浸水が達している。因みに昭和28年の水害被害額（昭和60年価格換算）は、2兆8千億円、この被害額は伊勢湾台風の昭和34年（2兆円）を上回り、史上最高である

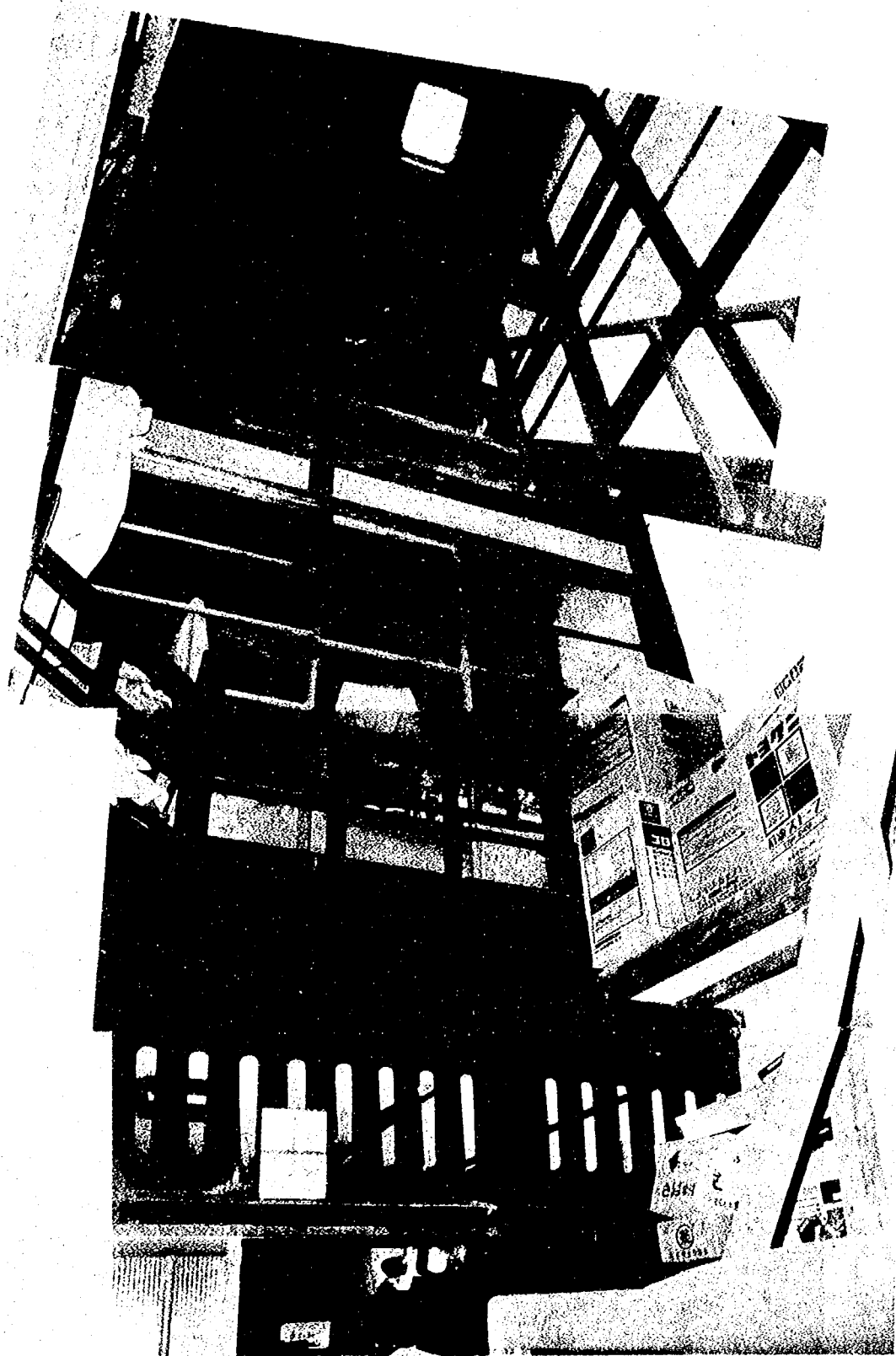


家屋への浸水位の表示（遠景）



同 上（近景）

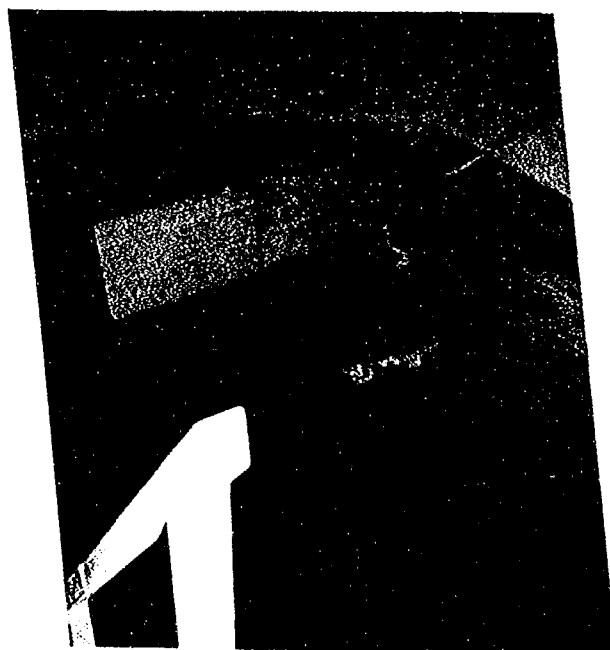
名称	家財道具を引上げる滑車		
地名	京都府福知山市寺町（由良川）		
開催日または建立日			
主催者または建立者	個人		
<概要> ・ 頻発する浸水被害に対処するための自衛手段として、３階の屋根裏部屋の天井に滑車を設け、水害時にこの滑車を用いて家財道具を浸水から守ろうとした民家の工夫である ・ 家の中心は吹抜けとなっており、それを取り囲むように階段が配置されている <水害の状況> ・ 由良川は河道疎通能力がまだ十分確保されていない等の理由で、依然として浸水被害が頻繁に発生している。流域の地形が盆地であるため、一旦浸水すると、一面水浸しの状態となる ・ 特に大被害を発生させたのは、昭和28年9月の台風13号による水害で、このときの流量が現在の計画高水流量に反映されている			



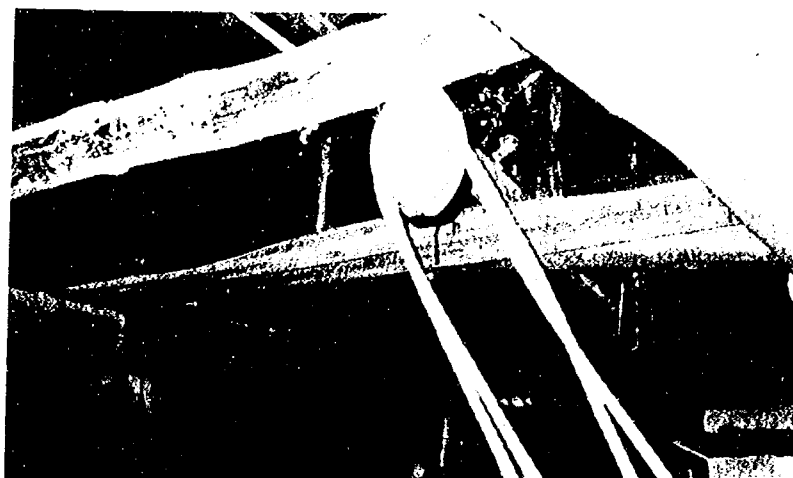
家財を3階まであげられる吹き抜け構造



家財を引上げる滑車（3階）



3階から見た2階の様子



滑車の近景

名称	清原太兵衛の碑	
地名	島根県松江市 (佐陀川) ^{さ とも}	
開催日または建立日		
主催者または建立者		

<概要>

- ・ 宍道湖の流出口は大橋川しかなく、出水の度に湖の水位は上昇し、城下町にあふれたり、出雲平野に被害を与えた
- ・ これに対して、松江藩士清原太兵衛は宍道湖と日本海を結ぶ運河の建設を行った。工事の完了を見ることなく、太兵衛は没したが、その功績をたたえて佐太神社の参道に清原太兵衛の碑が建立されている

<人工運河の建設>

- ・ 太兵衛が建設した運河は、宍道湖北岸の佐太の入海と恵曇^{え とも}海岸の日本海を結ぶもので、延長12km、幅55mの人工運河であった
- ・ 建設にあたっては、技術的問題の他に佐太神社の神域を貫通するため、用地買収に困難を伴った。おしくも、工事途中で太兵衛は76歳で没したが、この運河（通称佐太運河）が洪水調節、水運、灌漑に果たした役割は大きく、その功績は高く評価されている



清原太兵衛の碑

名称	ながとうが 長束神社
地名	広島市安佐南区（太田川）
開催日または建立日	昭和40年5月14日
主催者または建立者	

＜概要＞

- ・昭和40年5月14日の太田川放水路通水式を記念して、太田川全流域にわたる水の神を長束神社本社にまつり、御神名を太田川総水神と称した

＜詳細な内容＞

- ・ひがしはんとうしきゅうき芸藩通誌旧記によれば、長束神社は貞観12年（870）に長束村大年山に創建され、当時は八幡宮と呼ばれていた。後に現在地へ移ったという
- ・長束神社には太田川全流域の水の神がまつられており、これは流域の住民の幸福と産業の繁栄、農作物の豊饒と、広島市を中心とした広島平野を水魔から守護するものである



長束神社

名称	やっさき 八剣神社
地名	広島市中区白島九軒町（太田川支川京橋川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

- ・ 太田川の堤防修築にあたり、人柱のかわりに名剣を堤防に埋めた。元和3年に剣をまつる小さな祠が建てられ、以来水の守護神として京橋川を見守っている

<詳細な内容>

- ・ 太田川の白島九軒町付近の堤防は、出水の際度々切れ、流域に被害を及ぼした。これに対し、福島正則は白島九軒町付近の堤防の修築にあたり、人柱の代わりに秘蔵の名剣8剣を堤防に埋めた
- ・ 元和3年（1617）に、京橋川の麓に剣をまつる小さな祠が建てられ、それ以降八剣神社は水の守護神として人々に崇められている

名称	八本杉の碑		
地名	島根県大原郡 ^{きすき} 木次町（斐伊川）		
開催日または建立日			
主催者または建立者			
<概要> - 寛永10年の大出水により、大原郡斐伊村（現在の木次町）大字里方にあった伝説的な八本杉が倒れた。この杉のことを後世に残すために「八本杉の碑」が建立された <八本杉の碑> - 堀尾古記によれば、寛永10年（1633）5月28日は終日雨が降り、大出水となった。この出水により出雲国中が水害の被害を受けた - 大原郡斐伊村には、須佐之男命^{すさのおのみこと}が八岐大蛇を退治し、蛇頭をこの地に埋め、八株の杉を植えたという伝説の杉がある。大出水により、この杉が流出してしまった - 現在は当地に「八本杉の碑」が建立され、この碑は史跡に指定されている			

名称	ちうてきし 弔溺碑
地名	島根県大原郡木次町の円覚寺（斐伊川）
開催日または建立日	文政10年5月
主催者または建立者	千原秀介？

＜概要＞

- ・島根県の木次町にある円覚寺には、文政9年の水害による多数の溺死者を供養するため、水害の翌年に「弔溺碑」が建立された
- ・この石碑は花崗岩でできた巨碑で、高さ3.3m、幅91cmである。名号一字の深さに水が1.8リットル入る
- ・碑文は漢字1,200字からなり、斐伊川史に訳文が掲載されている

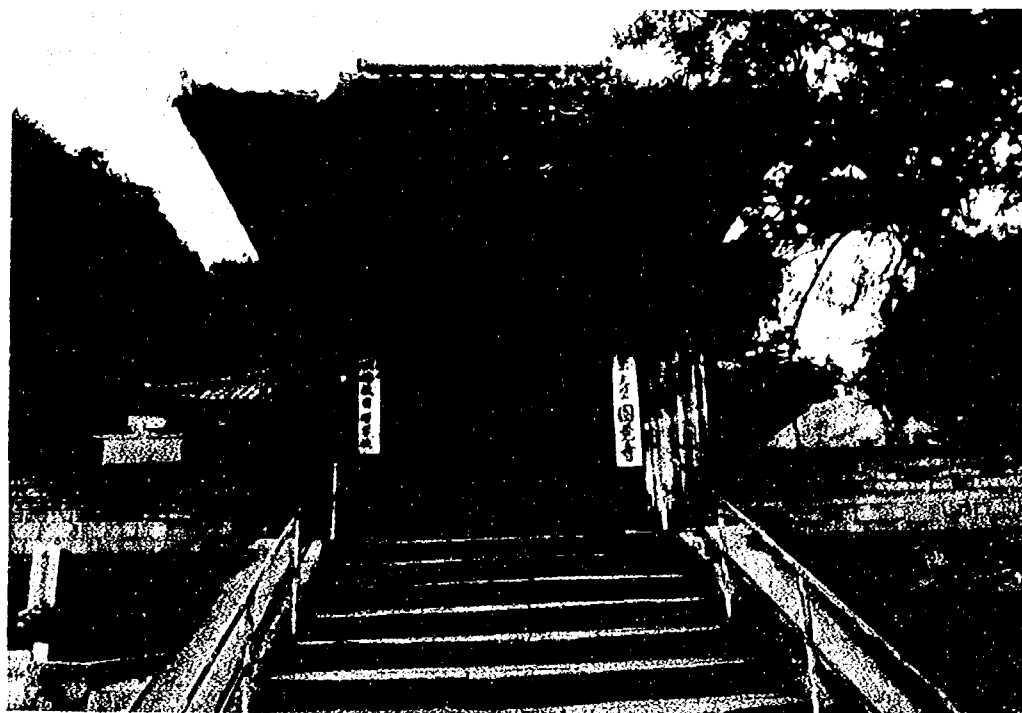
＜水害の状況＞

- ・斐伊川は出雲地方の大河であり、時として田畑をうるおす恵みの水をもたらし、時として荒れ狂う洪水を引き起こす。木次町では文政9年（1826）5月21日の水害により、多数の溺死者がでた
- ・この時、豪雨により日登村の小池山が崩壊して、桜川（久野川）の下流を塞ぎ、逆流して他の堤防を決壊させた。被害状況：

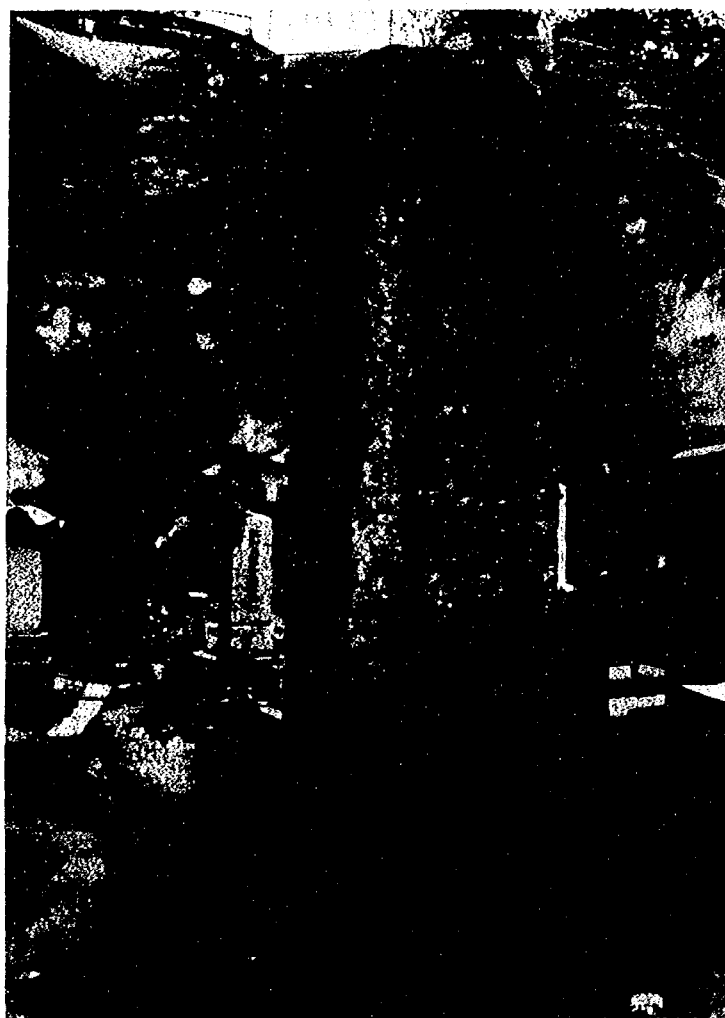
溺死者	126人	人口2,029人に対して
		（うち八日市73人、三日市52人）
流出家屋	268	／ 破損家屋 61
全壊・半壊家屋	169	／ 浸水家屋 515

＜参考＞

- ・斐伊川流域には、人柱伝説も数多く語り伝えられている。簸川郡ひかり斐川町出西の堤防が決壊した時、地先の清太郎とそのしもべの清十郎が入水して人柱となった
- ・また、出雲市武志の土手が切れた折りには、ひとりの僧侶が人柱になったという



円覚寺山門



弔溺碑

名称	足立重信の墓
地名	愛媛県松山市御幸町（重信川、石手川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

- ・加藤左馬之助嘉明が藩主として伊予松前城に移ると、城下の水害を防ぐため、重臣の足立半右衛門重信に伊予川、石手川の改修を命じた
- ・伊予川では新川開削、河川掘削、築堤、水制により、また石手川では流路付替、新川開削により改修工事を完了させた。この功績をたたえ、現在では伊予川を重信川と称している

<改修工事の内容>

1)伊予川の改修

- ・松前城主嘉明より、慶長2年（1597）、伊予川の改修を命じられた足立重信は松前城下を守るべく、新たに河道を開削し、上流荒廃地からの流出土砂により天井川化した河床を掘削、無堤地区には築堤施工、さらには急流河川対策として水制を設け、その流勢を弱めた。特に左岸堤防は左馬助殿堤と呼ばれ、松前城下を守るものとして最も重要な堤防であった

2)石手川の改修

- ・足立重信は嘉明の命を受け、築城のための治水と近郷の灌漑用水確保のための利水を目的として石手川の流路改修に着手した
- ・重信は極端に右曲していた石手川を南進させ、更に岩堰を掘削して、その流路を西南に向けて重信川と合流させた
- ・また堤防決壊を防ぐため、水衝部に水制を設けた。この水制の設置の前に、自邸で模型実験を行った
- ・これらの工事は慶長6年（1601）頃着手し、慶長12年に完了した



来迎寺にある足立重信の墓



子規の句碑

名称	はんもちいし 番持石
地名	高知県土佐市（仁淀川支川波介川）
開催日または建立日	文政12年（1829）3月24日
主催者または建立者	旧用石村、中島村

<概要>

- ・土佐市の用石北山の小野坂地先では、青年達が力を競って約80kgもある石を順番に持ち上げる番持ちが行われていた
- ・この番持石は文政年間に発生した洪水で流死した人の供養塔として建立されたものの一部であると伝えられている
- ・石碑には「奉 建立 為流死亡者菩提 文政12年己丑3月24日 世話人 用石村、中島村」と書かれている



番 持 石

名称	水丁場の跡 みずぢやうば
地名	高知市上町 2 丁目 (鏡川)
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

- ・ 藩政時代に、鏡川の洪水による災害を防ぐために設けられた部署（水丁場）の跡である

<詳細な内容>

- ・ 鏡川流域では、鏡川による洪水災害を防ぐため、鏡川北岸堤防を 12 の組に分け、各組毎に水位を計る標柱を設け、洪水の状況に応じて出動人員を決めた
- ・ 各組は家老を長とした軍隊式の組織であったが、これは山内家入国当時には長宗我部の遺臣たちが、洪水の際に堤防を決壊させる恐れがあったからである



水丁場の跡

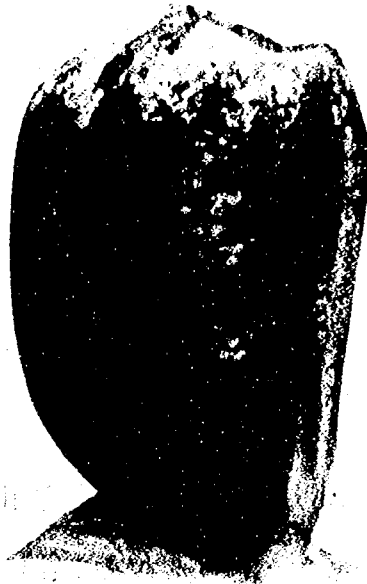
名称	明治25年の大洪水の記念碑	
地名	高知県香美郡野市町（物部川）	
開催日または建立日		
主催者または建立者		

＜概要＞

- ・ 明治25年の台風による物部川の氾濫による水害は、流域に多大な被害を与えた
- ・ この水害を記念して、大洪水の記念碑が深淵地先に建立された

＜明治25年の大洪水＞

- ・ 明治25年（1892）7月23日に高知市に上陸した台風は、物部川流域にも大きな被害を与えた
- ・ 7月23日から26日にかけて、4日間降り続いた雨により、物部川は増水し、各地で氾濫被害が発生した。特に左岸の深淵付近は被害が大きく、深淵神社の社殿は流失した
- ・ 深淵神社は、寛文年間（1661～1673）に氏子総動員で、現在地の十善寺に移して再建された



明治25年の大洪水
の記念碑

名称	せきとどめ 堰留神社
地名	高知県南国市（物部川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

- ・ 堰留神社の御神体は物部川の洪水をせき止めた岩で、祭神は堰留神、石留神である

<堰留神社>

- ・ 堰留神社は、その昔物部川の洪水が大岩によってせき止められたことにより、洪水の被害を免れた人々が、その岩を神と崇め、磐座として祀ったのに始まる
- ・ 文化12年（1815）7月の洪水により、社殿が流失し、同年10月に再興されたという記録が残っている

名称	明治32年洪水記念碑
地名	高知県土佐市中島（仁淀川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

＜概要＞

- ・ 明治32年の洪水により、仁淀川は4か所にわたって決壊し、被害は土佐市全域に及んだ
- ・ この大惨事を教訓とし、今後水害がおこらないようにとの願いをこめて、中島地先に建立された

＜明治32年の洪水＞

- ・ 仁淀川は明治28年（1895）から5年間をかけて、強化した堤防が完成した。工事完了直後の明治32年（1899）7月9日の豪雨により、仁淀川は野田川、鶴若、是吉、宮崎の4か所が決壊した
- ・ 堤防はほとんどズタズタの状態で、氾濫被害は新居、宇佐両地区を除いて土佐市全域にまでおよび、特に高石村中島では流失家屋18戸、死者19人の大惨事となった

名称	川まつり		
地名	長崎県諫早市（本明川）		
開催日または建立日	毎年7月25日に開催		
主催者または建立者	諫早市、諫早商工会議所		

<概要>

- ・昭和32年に諫早地方を襲った水害による殉難者の霊を慰めるために、翌年より毎年7月25日に市内を流れる本明川に万灯を流し、河川敷にローソクをたてるなどして、川まつりを開催している

<水害の状況>

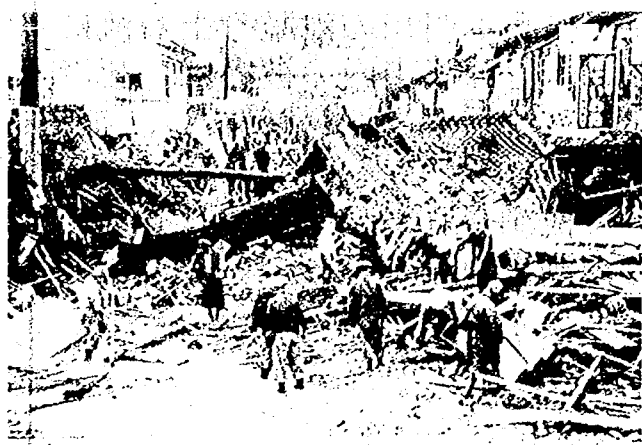
- ・昭和32年7月25日、梅雨前線豪雨に伴う本明川の氾濫や土石流により、諫早地方は大水害に見舞われた。諫早市内の被害は、死者・行方不明539名、被災家屋5,630戸（うち全半壊1,302戸）、被害総額約87億円となった
- ・諫早水害時に長崎県の西郷において観測された日降水量1,109mmは当時観測史上第1位、現在でも観測史上第2位のデータである

<近年の状況>

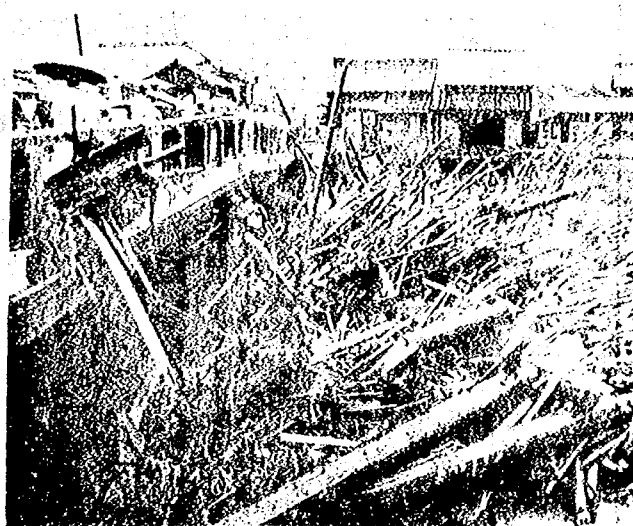
- ・平成4年度における川まつり式典の式次第は以下のとおりである（式典会場は高城橋上である）
 - 20:00～：開会、黙祷、万灯点火
 - 20:04～：六段演奏
 - 20:14～：主催者他の挨拶
 - 20:30～20:50：花火打上
- ・祭りのときに、殉難者の霊を西方浄土に送るために花火が打ち上げられるようになり、周辺地域から見物に多くの人が来るようになり、近年は殉難者の霊を慰めるといふより、お祭りムードが高まっている
- ・毎年約5万人の観衆がある



川まつりの花火



八天町付近の被災状況



流木により閉塞した諫早橋

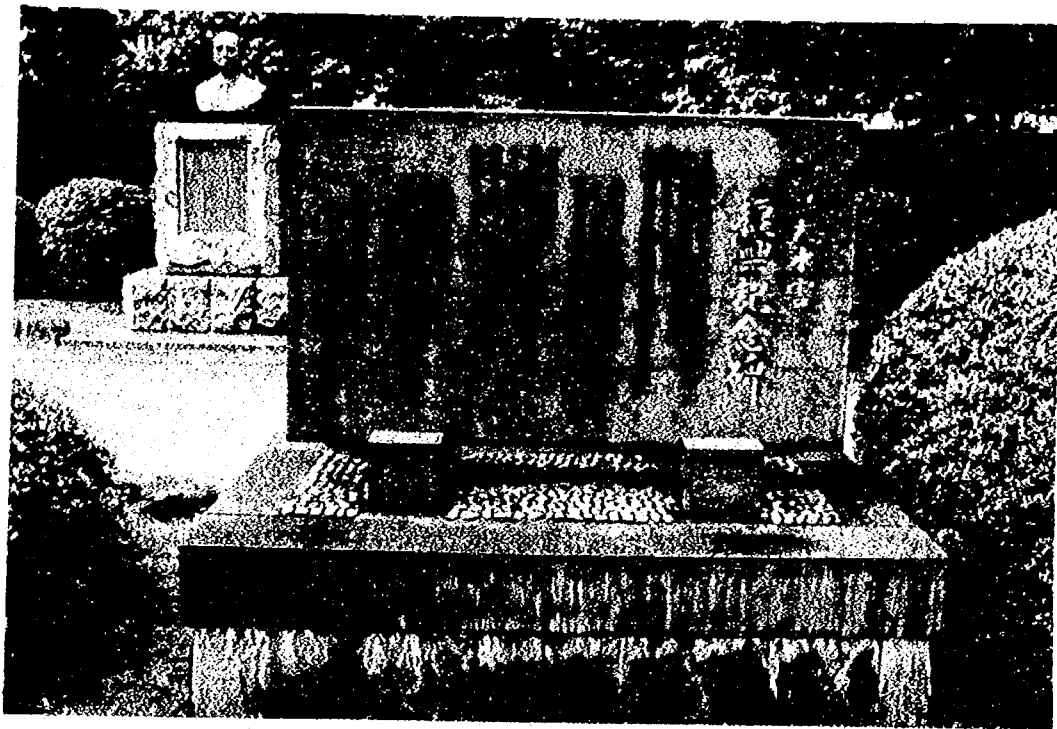
名称	諫早大水害復興記念碑 他
地名	諫早市東小路町（本明川）
開催日または建立日	昭和52年7月25日
主催者または建立者	諫早市

＜概要＞

- ・昭和32年の諫早大水害では、諫早市の中心街を貫流する本明川が氾濫し、市街地に壊滅的な被害を与えた
- ・諫早市では大水害20周年を迎えた昭和52年に復興を喜び、再び水害が発生しないことを祈念して記念碑が建立されている
- ・記念碑の近くには、犠牲者の冥福を祈って、水難者慰霊大悲観音像が建立されている

＜水害の状況＞

- ・昭和32年7月25日、梅雨前線豪雨に伴う本明川の氾濫や土石流により、諫早地方は大水害に見舞われた。諫早市内の被害は、死者・行方不明539名、被災家屋5,630戸（うち全半壊1,302戸）、被害総額約87億円となった
- ・諫早水害時に長崎県の西郷において観測された日降水両1,109mmは当時観測史上第1位、現在でも観測史上第2位のデータである



諫早大水害復興記念碑



水難者慰靈大悲観音像

名称	長崎水害関係の記念碑(1)		
地名	長崎市		
開催日または建立日			
主催者または建立者			

<水害の概要>

・昭和57年7月、九州北部から中部にかけて停滞していた梅雨前線が湿舌を持った低気圧に刺激されて生じた豪雨により、長崎地方は未曾有の水害に見舞われた。長崎県内だけをとっても、その被害状況は

- ・死者・行方不明 299人
- ・全壊・流出家屋 273戸
- ・半壊家屋 279戸
- ・床上浸水家屋 13,457戸
- ・被害総額 3,153億円

という甚大なものであった

この水害被害に対して、調査しただけでも11に及ぶ祈念碑が市、自治会等により建立されている

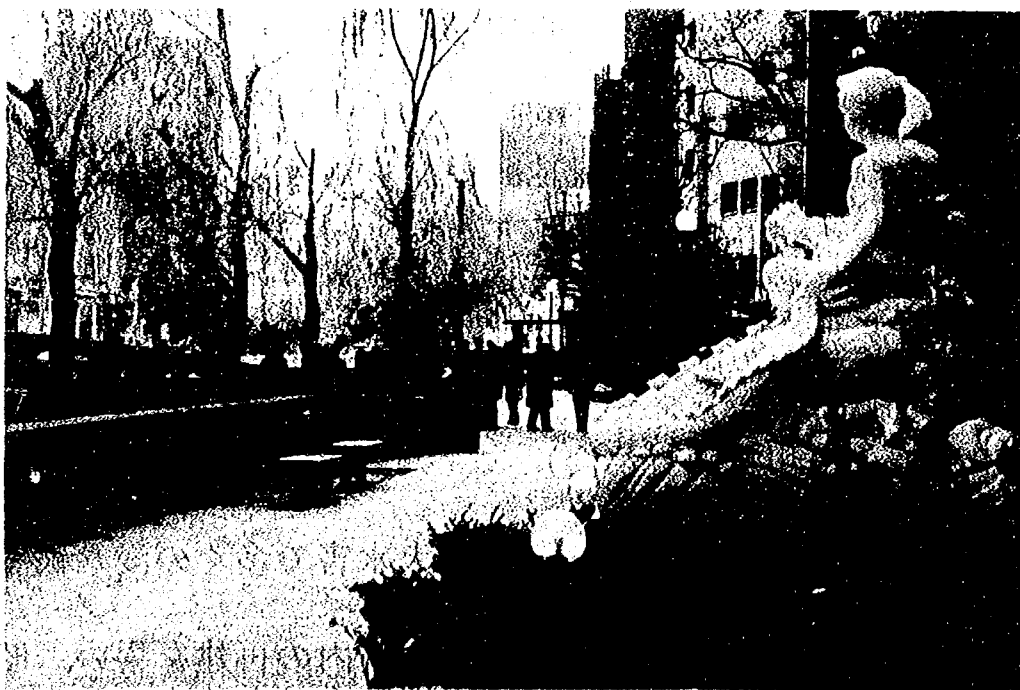
<記念碑の概要>

1)水害復興と友好の記念碑（長崎市）

- ・長崎市は長崎水害の復興を記念し、市の中心部に壊滅的な被害を与えた中島川に隣接する公園内に、平成元年2月、記念碑を建立した
- ・建立に際し、眼鏡橋をはじめとする中島川の石橋群が大きな被害を受けたこと、また石橋群に関係が深く、古くから長崎市と友好関係にある中国に石碑の製作を依頼した



水害復興と友好の記念碑



同 上

名称	長崎水害関係の記念碑(2)	
地名	長崎市	
開催日または建立日		
主催者または建立者		

<概要>

2) 7. 23 長崎大水害国道34号線災害復旧記念碑 (長崎地区ライオンズクラブ、日見地区連合自治会)

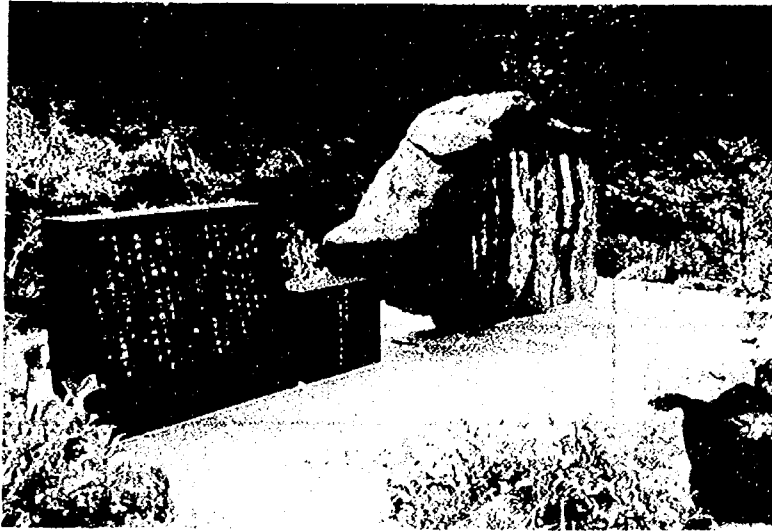
- ・長崎市東部の日見地区は、2級河川日見川の氾濫、土石流により、36名の犠牲者を出した。また当地区を通過する国道34号線は、数か所で発生した土石流により寸断され、被災後1ヶ月近く通行止めとなった
- ・国道34号線の復旧を記念し、当地区の犠牲者の冥福を祈り、災害に強い道路作りを祈念して、昭和58年3月、長崎市芒塚町に建立した

3) 7. 23 長崎大水害碑 (日見地区連合自治会)

- ・長崎市東部の日見地区では、犠牲者の冥福を祈り、このような災禍を繰り返さないように祈念するために、昭和58年7月、長崎市日見支所(長崎市界町)に水害碑を建立した

4) 水害記念碑 (山川河内自治会)

- ・長崎市南東部の太田尾町では、長崎大水害で多くの浸水被害が発生した
- ・そこで、水害のない平和な花の里山川河内の再建を誓い、昭和58年7月23日に、長崎市太田尾町に水害記念碑を建立した



7.23 長崎大水害国道34号線災害復旧記念碑



7.23 長崎大水害碑



水害記念碑

名称	長崎水害関係の記念碑(3)		
地名	長崎市		
開催日または建立日			
主催者または建立者			

<概要>

5)長崎大水害犠牲者慰霊之碑（妙相寺27世敬）

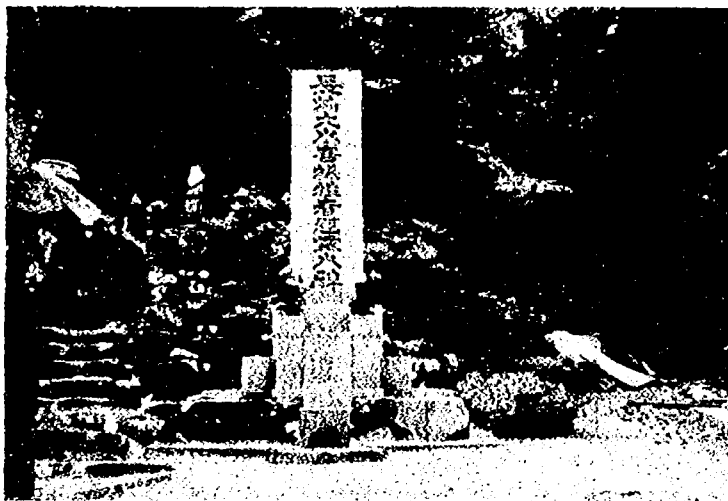
- ・長崎市東部の本河内町においては、土石流により多数の死者と家屋被害が発生した
- ・この犠牲者の冥福を祈り、末永く大水害を忘れず、後世へ伝えるために、昭和58年7月23日、長崎市本河内町の妙相寺の境内に慰霊碑を建立した

6)7. 23 水害記念碑（東町待石地区自治会）

- ・長崎市東部の東町待石地区は、2級河川八郎川の上流にあり、長崎水害では5名の犠牲者を出し、多数の家屋が浸水した
- ・自治会では犠牲者の冥福を祈り、後世まで水害を伝えるために、昭和58年12月、長崎市東町待石に水害記念碑を建立した

7)長崎大水害記念塔（長崎中央ライオンズクラブ）

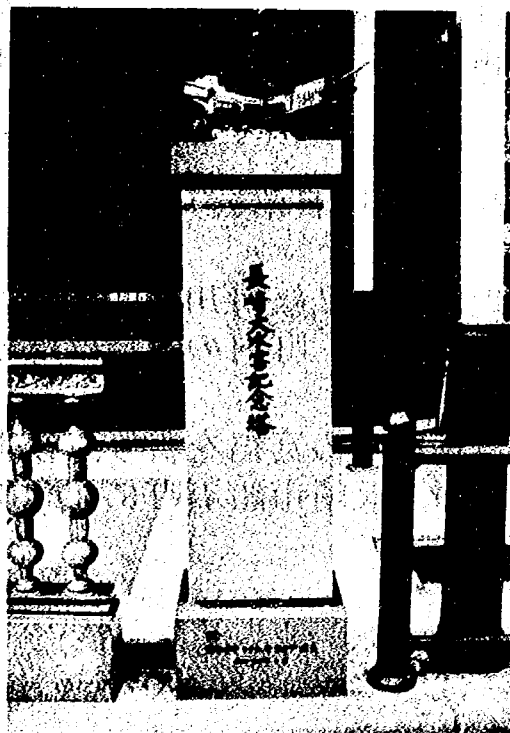
- ・長崎市の一大繁華街である浜の町においても、長崎水害により、多大な浸水被害が生じた
- ・長崎中央ライオンズクラブでは、浜の町アーケードとその周辺の復興の精神をたたえるために、昭和59年5月、浜の町に記念塔を建立した



長崎大水害犠牲者慰霊之碑



7.23 水害記念碑



長崎大水害記念塔

名称	長崎水害関係の記念碑(4)		
地名	長崎市		
開催日または建立日			
主催者または建立者			

＜概要＞

8)長崎大水害慰霊の鐘（滝の観音神社霊源院奉参会）

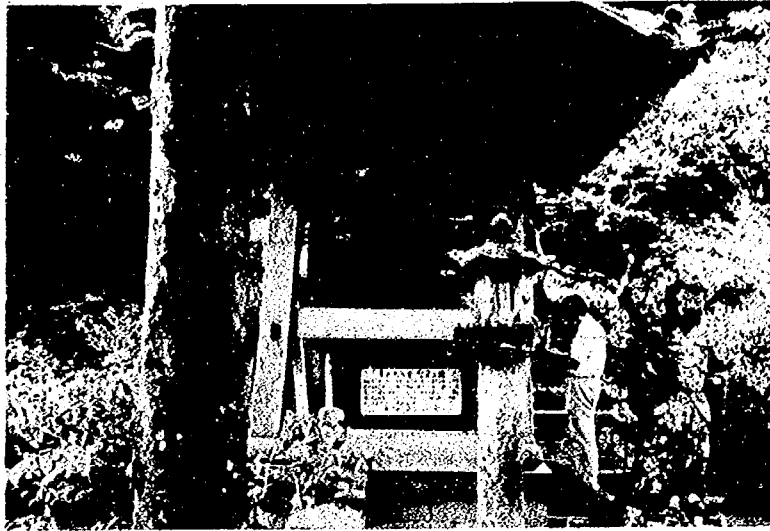
- ・長崎市平間町にある滝の観音神社は、2級河川八郎川の支川の間瀬川上流にあり、八郎川の氾濫等により、鐘堂や庫裡、境内の石橋等が流出する被害を受けた
- ・そこで、長崎水害の全犠牲者299名の御尊名を奉安し、災害への警鐘として、昭和60年4月、神社内に慰霊の鐘を建てた

9)長崎大水害慰霊供養碑（西浦上東部地区自治会連合会）

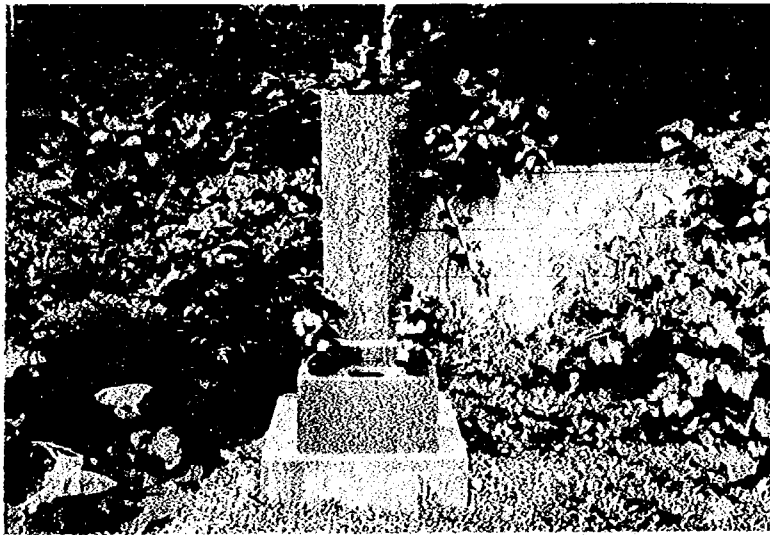
- ・長崎市北部の西浦上地区は、2級河川浦上川の上流にあり、長崎水害では多数の犠牲者を出し、広範囲で浸水被害を被った
- ・そこで、自治会連合会では犠牲者の冥福を祈り、後世まで水害を伝えるために、昭和63年7月23日、長崎市昭和町に供養碑を建立した

10)長崎大水害記念碑（船石町自治会）

- ・長崎市東部の船石地区は、2級河川八郎川の上流にあり、長崎水害では3名の犠牲者を出し、町内の家屋はほとんどが浸水被害を被った
- ・そこで、自治会では犠牲者の冥福を祈り、後世まで水害を伝えるために、平成2年3月、長崎市船石町に記念碑を建立した



長崎大水害慰霊の鐘



長崎水害慰霊供養碑



長崎大水害記念碑

名称	長崎水害関係の記念碑(5)	
地名	長崎市	
開催日または建立日		
主催者または建立者		

<概要>

11) 昭 57・7・23 長崎大水害碑
(矢上地区自治会、長崎大水害碑建立委員会)

- ・長崎市東部の矢上地区は、長崎水害で2級河川八郎川等が氾濫し、更に多くの土石流の発生により、死者34名、家屋の全半壊163戸、床上浸水814戸という壊滅的な被害を被った
- ・そこで、水害以来10周年を迎える平成4年7月23日に、この水害とその後の復興を後世に伝えるために、長崎市矢上町に水害碑を建立した

長崎大水害記念碑

長崎大水害記念碑

名称	宝暦薩摩義士の碑	
地名	鹿児島市城山町平田公園	
開催日または建立日	昭和30年5月25日	
主催者または建立者	平田靱負以下薩摩義士二百年祭記念事業協賛会	

＜概要＞

- ・ 木曾三川における宝暦治水工事によって、薩摩藩は87名の犠牲者を出した。この犠牲者の墓碑をピラミッド型に積み上げ、その頂上に総奉行平田靱負^{りきえ}の墓碑がすえられている
- ・ この石碑は、工事が完成した宝暦5年から数えて200年を迎える昭和30年に平田靱負の誕生地である鹿児島市の城山町に、義士名を刻み、その精神と高德を広く世に伝えるために建立された
- ・ 城山南西麓一帯は平田公園として整備され、平田靱負の屋敷跡は史跡に指定されている

＜宝暦治水工事＞

- ・ 宝暦治水工事のあゆみは以下のとおりである
 - 宝暦3年（1753）2月
幕府が薩摩藩に木曾三川の治水工事を命じた
 - 宝暦4年（1754）2月
家老平田靱負が総奉行となり、千余名を率いて大工事を開始した
 - 宝暦5年（1755）5月
工事が完成し、完成後平田靱負は美濃国大牧で自刃した
- ・ 平田靱負の遺骨は現在京都伏見の大黒寺に葬られている



宝暦薩摩義士の碑



平田公園

名称	川中不動	
地名	大分県豊後高田市長岩屋（桂川支川天念寺川）	
開催日または建立日		
主催者または建立者		

<概要>

- ・江戸時代の中期（18世紀）に水害除けの神として、天念寺川のなかに建立された
- ・川中不動は巨岩に不動明王と脇侍の矜羯羅・制呬迦の両童子を半肉彫りにしたものである。高さは不動明王が2.7m、童子像が約1.7mである

名称	河童渡来の碑		
地名	熊本県八代市本町（球磨川）		
開催日または建立日			
主催者または建立者			

<概要>

- ・球磨川河口近くに、中国から渡来した河童を祀った石碑があり、水難除け、厄払いの神様として信仰を集めている

<河童渡来の碑>

- ・八代城跡の南約500m、球磨川河口近くの前川橋のたもとにある
- ・碑文によれば、仁徳天皇の時代（313～399）、中国の奥地に住んでいた9,000匹の河童集団が、揚子江を下り、黄海に出て、大遠泳をして日本に渡来したと言われている

<祭り>

- ・5月18日には地区の子供たちによる「オレオレデーライタ祭り」と呼ぶ川祭りが開かれている。オレオレデーライタとは「呉（中国）の国からよくいらっしゃった」という意味で、碑の前で河童供養を行ったのち、御幣と煎餅をさげた笹を持って、球磨川を泳ぎ渡る

<類似事例>

- ・水の供給が豊かならんことを祈願する「河童祭」は、熊本県の八代市妙見町の悟真寺、^{あしきと}芦北郡の山間部、^{がみましき}上益城郡御船町などでも行われる
- ・6月朔日または15日に水の神を祭る水神祭をする地方は多く、河童祭・川祭というのは水神祭の一つである（河童は水神信仰の衰退に伴い水神の零落した姿とされている）

名称	八幡鶴市神社
地名	大分県中津市相原（山国川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

<概要>

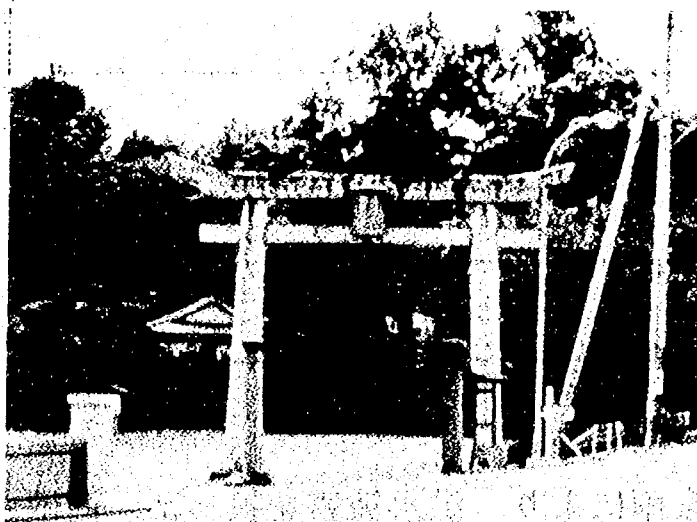
- ・山国川に設置されている三口大井手堰が洪水により決壊しないようにと、人柱をたてて築いたところ、以後決壊しなくなった。この犠牲者が八幡鶴市神社に祀られている

<人柱について>

- ・山国川には灌漑用堰として三口大井手堰がある。この堰は洪水の度に決壊するため、人柱をたてて築いたところ、それ以後は決壊しなくなった
- ・このとき犠牲となったお鶴・市太郎母子を祀った八幡鶴市神社が堰の上流約500mの東岸にある

<祭り>

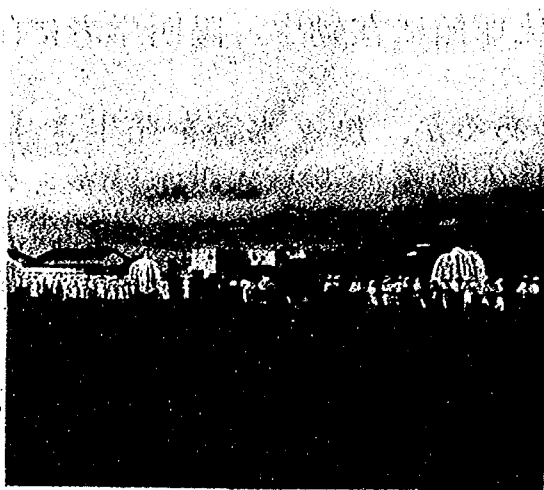
- ・毎年8月25、26日には母子の霊を慰め、豊作を祈って、住民が美しく飾った花傘鉾を神社に奉納する「傘鉾まつり」が盛大に開かれる



鶴と市太郎を祀る鶴市神社



鶴市太郎腰かけの石（母子石）



鶴市花傘鉾



川辺に建つ鶴市二霊人柱記念碑

名称	羽地川改修の記念碑
地名	沖縄県名護市（羽地川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

＜概要＞

- ・羽地大川流域は享保20年の豪雨により、洪水被害を被った。尚敬王に河川改修を命じられた蔡温は中国で習得した改修工法により河川改修を行った
- ・同年改修は完了し、この功績に対して後年羽地川近くに記念碑が建立された

＜詳細な内容＞

- ・蔡温（^{くしちやんぶんしやく}具志頭文若）は中国の福州琉球館に在勤中、陽明学者に師事し、実利実用の学問を習得した
- ・羽地川は流域面積14km²の小河川であるが、度々水害を発生させた。特に享保20年（1735）7月8日の豪雨による大洪水は多くの田畑に被害を与えた。これに対して村役人は河川改修の嘆願書を提出した。尚敬王は羽地川の改修を国家事業としてとりあげ、蔡温に河川改修を命じた
- ・蔡温は9か村の延べ約11万人を動員して工事を実施し、河川改修、灌漑用水路、貯水池の建設等を行い、同年11月17日に工事を完了した

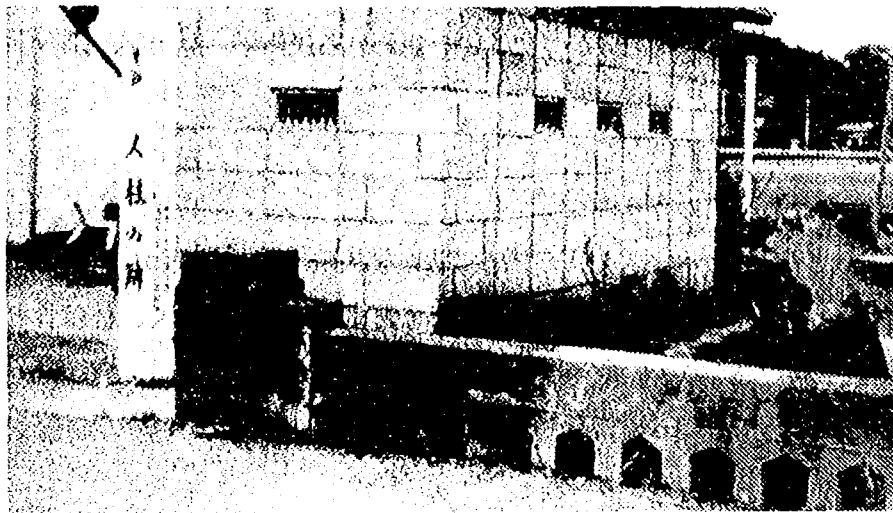
名称	とう 石塘人柱の碑
地名	熊本県玉名市（菊池川）
開催日または建立日	
主催者または建立者	

＜概要＞

- ・菊池川では梅雨により出水し、家屋が流出することが度々あった。加藤清正は戦国乱世の直後、入国し、民生安定のために菊池川の付替えを行った
- ・河道付替の際、潮止めのために石塘を築いたが、難工事で度々壊された。ついには人柱をたてて築きあげられたため、これを祈念して人柱の跡が建立された

＜菊池川の付替＞

- ・菊池川は当時高瀬（現在の玉名市中心部）から真南に流れ、久島と横島の間を流れて海に注いでいた。これを桃田から千田河原へ、そして西へ大きく迂回させた
- ・この付替にあたっては、久島と横島に石塘を築いて締切り、横島から大浜にかけて大石塘を築いた。この石塘工事は難工事となり、何回か築造しては壊され、ついには人柱をたて横島山頂より法華経を読経し、辛うじて築き上げたと伝えられている
- ・この工事は天正17年（1589）に着手し、途中約7年に及ぶ朝鮮出兵、関ヶ原の役を経て、慶長10年（1605）までの17年の歳月を要した難工事であった



石塘人柱の跡

第3章 川語の解説 (50音順)

事例中に出てくる川語のうち、特に分かりにくいと思われる民俗学、歴史学、宗教学等の専門用語を以下に簡単に解説する。

- ・崇める^{もめる}……尊いものとして扱う
- ・産土神^{うぶこゝろがみ}……生まれた土地の守り神
- ・餓鬼^{ガキ}……古代インドのサンスクリット語で悲惨な状態の死者を表わしたが、仏教にとり入れられ餓鬼道に住む者となった。餓鬼ののどは針のように細く、体は骨と皮だけの栄養失調で腹がふくれている
- ・下賜^{ゲシ}……高貴の人が下の人に物を与えること
- ・紀功碑^{キコウヒ}……功績を記した石碑
- ・下向^{ゲコウ}……都から田舎へ行くこと
- ・御料林^{ゴリョウリン}……皇室所有の森林
- ・建立する……神社、寺院、堂塔（寺院の堂や塔）を建設すること
- ・祭神……神社に祭ってある神
- ・西方浄土^{さいほうじょうど}……人間界から西方十万億の仏土（仏の住む世界）
- ・祭礼……神を祭る儀式。神社の祭り
- ・地蔵……地蔵菩薩は釈迦が死んで弥勒菩薩が出現するまでの約57億年間、人々に法をとくため、この世にあらわれた菩薩。元々は仏教以前の古代インドの大地の神、万物を包蔵し、生育する母なる神として農耕民族の大地信仰につながった原始母神であったが、仏教にとりいれられ、地蔵菩薩となり、死後の世にも救済の手をさしのべるようになった地蔵信仰が中国から日本に伝わったのは奈良時代の737年である。地蔵への願い事には、子育て、身代り、歯痛、せき止め、とげ抜き、安産、毒見、雨乞いなどがあり、各々子安、子育て、延命地蔵などと呼ばれている
- ・顕徳碑^{けんとくひ}……人のてがらや偉大さを刻んで、後世に伝える碑
- ・水神……水、特に飲用水、灌漑用水などを司る神。また、火災を防護する神
- ・水天宮……川のほとりの水神が中国の天妃の信仰と結びついたもの。祭神は安徳天皇で、安徳の安は安産の安であるため、水天宮は安産の神でもある。全国の元じめは、福岡県久留米市の瀬下町にある
- ・生祠^{せいし}……功德（くどく）のある人が生存中に神として祭られた社
- ・施餓鬼^{セガキ}……六道の一つである餓鬼（生前福德をつまない者が落ちる所）に落ちないように、無縁の亡者の霊に飲食を施す法会（ほうえ）
- ・創建する……初めて建てる

- ・卒塔婆^{そとぼ}……供養追善（死者の冥福を祈る）のため、墓に立てる上部を塔形にした細長い板
- ・奉^{(とて)まつ}る……献上する
- ・田楽……田植などで笛、鼓を鳴らして歌い舞う
- ・塘^{とう}……つつみ、どて
- ・人柱……架橋、築堤、築城などの難工事の時、神の心を和らげ、完成を期するための犠牲として、生きた人を水底、土中に埋めたこと、また、その人。転じて、ある目的のために犠牲となった人
- ・祠^{ひこら}……神をまつる小さな社（やしろ）。叢祠とも書く
- ・祀^{まつ}る……供物（くもつ）、奏楽などをして神霊を慰め、祈願する。奉ると類義語である
- ・万灯^{まんとう}……仏前にともす多くの灯火
- ・御神体^{みかみ}……神社等で神として崇められているもので、岩や木などが多い
- ・水神社……主神は弥都波能売神（古事記では）、罔象女神（日本書記では）である
 ”みづは”とは水が走る、水が這うの意（灌漑用の引き水）である。この神はイザナミノカミが火の神を生んで、大やけどをしたときに、やけどにかけた尿から生まれた神である
- ・水丁場……藩政時代に洪水による災害を防ぐために設けられた部署
- ・御幸^{みゆき}……天子または上皇、法皇、女院の外出
- ・社……神を祝い、祭った斎場。後世、神を祭る殿舎、神社
- ・日本武尊^{やまとよりぎみこと}……景行天皇の皇子で、本名は小碓命^{おうすのみこと}。熊襲を征服し、日本武の号を献じた古代伝説上の英雄
- ・六道……衆生（すべての生き物）が善悪の業によって、おもむき住む六つの迷界で、地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天を意味する

参 考 文 献 (発行年月順)

1. 朝日新聞社、「流域紀行」、朝日新聞社、1976年8月
2. 豊田、藤岡、大藤、「流域をたどる歴史 4 <中部編>」、ぎょうせい、1978年9月
3. 豊田、藤岡、大藤、「流域をたどる歴史 6 <中国・四国編>」、ぎょうせい、1979年7月
4. 富山、中村、「安倍川ーその風土と文化ー」、静岡新聞社、1980年8月
5. 中国地建河川部河川計画課、「地域社会と河川の歴史」、1981年3月
6. 関東地建甲府工事事務所、「富士川写真集 急流を治める」、1983年3月
7. 宮村忠、「水害ー治水と水防の知恵」、中央公論社、1985年6月
8. 近畿地建琵琶湖工事事務所、「治水の歴史をたずねて」、1985年
9. 田中二郎、田中重好、林春男、「動物ーその適応戦略と社会 災害と人間活動」、東海大学出版会、1986年10月
10. 「日本の川ー自然と民俗 Ⅰ」、新公論社、1987年10月
11. 「日本の川ー自然と民俗 Ⅱ」、新公論社、1987年10月
12. 山陰歴史研究会、「全国歴史散歩シリーズ32 島根県の歴史散歩」、山川出版会、1987年10月
13. 関東地建、「大利根百話」、関東建設弘済会、1987年11月
14. 宮本常一、「旅の民俗と歴史9 川の道」、八坂書房、1987年11月
15. 中部地建沼津工事事務所、「狩野川治水60周年記念誌」、1988年3月
16. 窪寺紘一、「祭礼行事歳時記Ⅰ」、世界聖典刊行協会、1988年4月
17. 四国地建高知工事事務所、「流域史蹟ガイド 仁淀川・物部川・高知」、1988年5月
18. (財) リバーフロント整備センター、「信濃川 水紀行」、1988年6月
19. 東北地建新庄工事事務所、「もがみがわ中流紀行」、1988年10月
20. 窪寺紘一、「祭礼行事歳時記Ⅱ」、世界聖典刊行協会、1988年12月
21. 木曾三川治水百年記念事業実行委員会、「木曾三川治水百周年」、1988年
22. 関東地建甲府工事事務所、「甲斐の道づくり・富士川の治水」、1989年3月
23. (財) 消防科学総合センター、「地域防災データ総覧ー防災教育編」、1989年3月
24. 窪寺紘一、「祭礼行事歳時記Ⅲ」、世界聖典刊行協会、1989年9月
25. 中部地建庄内川工事事務所、「庄内川 その流域と治水史」、1989年11月
26. 伊藤清司、「ふるさとの伝説 7 寺社・祈願」、ぎょうせい、1989年12月
27. 行政通信社、「日本防災百年史」、国会資料編纂会、1990年2月
28. とよた時、「イラスト ふるさとの神々なんでも事典」、富民協会、1990年2月
29. 大臣官房技術調査室、「ふるさと土木史」、(財) 経済調査会、1990年9月
30. 中部地建木曾川下流工事事務所、「K I S S O」No. 1、1991年12月

31. 土木学会、「土木学会誌 付録 土木モニュメント見て歩き」、1991年12月
32. 東北地建、東北建設協会、「北上川百十年史」、山海堂、1991年
33. 田中義広、「日本の祭り事典」、淡交社、1991年
34. 鎌田正、米山寛太郎、「大漢語林」、大修館書店、1992年4月
35. 近畿地建河川部、「川ふしぎ物語 大ちゃんあいちゃんの大冒険」、日刊建設工業新聞社大阪支社、1992年7月
36. 中部地建静岡河川工事事務所、「大井川」パンフレット
37. 中部地建、「国営木曾三川公園」パンフレット
38. 中部地建、「水と緑の館」パンフレット
39. 近畿地建淀川工事事務所、「淀川資料館」パンフレット
40. 中国地建太田川工事事務所、「好・き・で・す 太田川～歴史編～」パンフレット
41. 北海道開発局石狩川開発建設部、「川の科学館」パンフレット
42. 北海道開発局石狩川開発建設部、「川の博物館」パンフレット
43. 石巻川開き祭り実行委員会、「石巻川開き祭り」パンフレット
44. 長島町教育委員会、「長島町歴史散歩」パンフレット
45. 長島町、「輪中の郷 ふるさとセンター」パンフレット
46. (財)旭川河川環境整備財団、「川のおもしろ館」パンフレット
47. 宝暦治水史蹟保存会、「千本松原」パンフレット
48. 郷土資料事典 観光と旅(各都道府県)、人文社

年 号 表

大化 ^{タイカ}	645~49	仁和 ^{ニナナ}	885~88	天喜 ^{テンギ}	1053~57	永曆 ^{エイリキョク}	1160
白雉 ^{ハクシ}	650~54	寛平 ^{カンヘイ}	889~97	康平 ^{コウヘイ}	1058~64	応保 ^{オウホ}	1161~62
(白鳳 ^{ハクホウ})	672~82)	昌泰 ^{ショウタイ}	898~00	治暦 ^{ジリキョク}	1065~68	長寛 ^{チョウカン}	1163~64
朱鳥 ^{シュウ}	686	延喜 ^{エンギ}	901~22	延久 ^{エンキウ}	1069~73	永万 ^{エイマン}	1165
大宝 ^{タイホウ}	701~03	延長 ^{エンチョウ}	923~30	承保 ^{ショウウ}	1074~76	仁安 ^{ニアン}	1166~68
慶雲 ^{ケイウン}	704~07	承平 ^{ショウヘイ}	931~37	承暦 ^{ショリキョク}	1077~80	嘉応 ^{カオウ}	1169~70
奈 良		天慶 ^{テンキョウ}	938~46	永保 ^{エイホ}	1081~83	承安 ^{ジョウアン}	1171~74
和銅 ^{ワドウ}	708~14	天曆 ^{テンリキョク}	947~56	応徳 ^{オウトク}	1084~86	安元 ^{アンゲン}	1175~76
靈龜 ^{レイキ}	715~16	天徳 ^{テントク}	957~60	寛治 ^{カンジ}	1087~93	治承 ^{ジショウ}	1177~ ⁸⁰ ₈₃
養老 ^{ヨウロウ}	717~23	応和 ^{オウワ}	961~63	嘉保 ^{カホウ}	1094~95	養和 ^{ヨウワ}	1181
神龜 ^{ジンキ}	724~28	康保 ^{コウホウ}	964~67	永長 ^{エイチョウ}	1096	鎌 倉	
天平 ^{テイヘイ}	729~48	安和 ^{アンナ}	968~69	承德 ^{ショク}	1097~98	寿永 ^{ジュエイ}	1182~84
天平感宝 ^{カンボウ}	749	天禄 ^{テンロク}	970~72	康和 ^{コウワ}	1099~03	元暦 ^{ゲンリキョク}	1184
天平勝宝 ^{ショウボウ}	749~56	天延 ^{テンエン}	973~75	長治 ^{チョウジ}	1104~05	文治 ^{ブンジ}	1185~89
天平宝字 ^{ボウジ}	757~64	貞元 ^{ジョウエン}	976~77	嘉承 ^{カジョウ}	1106~07	建久 ^{ケンキウ}	1190~98
天平神護 ^{ジンゴ}	765~66	天元 ^{テンゲン}	978~82	天仁 ^{テンニン}	1108~09	正治 ^{ショウジ}	1199~00
神護景雲 ^{ケイウン}	767~69	永観 ^{エイカン}	983~84	天永 ^{テンエイ}	1110~12	建仁 ^{ケンニン}	1201~03
宝龜 ^{ホウキ}	770~80	寛和 ^{カンナ}	985~86	永久 ^{エイキウ}	1113~17	元久 ^{ゲンキウ}	1204~05
天応 ^{テンオウ}	781	永延 ^{エイエン}	987~88	元永 ^{ゲンエイ}	1118~19	建永 ^{ケンエイ}	1206
平 安		永祚 ^{エイソ}	989	保安 ^{ホアン}	1120~23	承元 ^{ジョウエン}	1207~10
延暦 ^{エンリキョク}	782~05	正暦 ^{ショウリキョク}	990~94	天治 ^{テンジ}	1124~25	建暦 ^{ケンリキョク}	1211~12
大同 ^{ダイドウ}	806~09	長徳 ^{チョウトク}	995~98	大治 ^{ダイジ}	1126~30	建保 ^{ケンボウ}	1213~18
弘仁 ^{コウニン}	810~23	長保 ^{チョウホ}	999~03	天承 ^{テンショウ}	1131	承久 ^{ショウキウ}	1219~21
天長 ^{テンチョウ}	824~33	寛弘 ^{カンコウ}	1004~11	長承 ^{チョウショウ}	1132~34	貞応 ^{ジョウオウ}	1222~23
承和 ^{ショウワ}	834~47	長和 ^{チョウワ}	1012~16	保延 ^{ホエン}	1135~40	元仁 ^{ゲンニン}	1224
嘉祥 ^{カショウ}	848~50	寛仁 ^{カンニン}	1017~20	永治 ^{エイジ}	1141	嘉祿 ^{カロク}	1225~26
仁寿 ^{ニンジュ}	851~53	治安 ^{ジアン}	1021~23	康治 ^{コウジ}	1142~43	安貞 ^{アンテイ}	1227~28
斉衡 ^{サイコウ}	854~56	万寿 ^{マンジュ}	1024~27	天養 ^{テンヨウ}	1144	寛喜 ^{カンキ}	1229~31
天安 ^{テンアン}	857~58	長元 ^{チョウゲン}	1028~36	久安 ^{キウアン}	1145~50	貞永 ^{ジョウエイ}	1232
貞観 ^{ジョウカン}	859~76	長暦 ^{チョウリキョク}	1037~39	仁平 ^{ニンヘイ}	1151~53	天福 ^{テンフク}	1233
元慶 ^{ゲンキョウ}	877~84	長久 ^{チョウキウ}	1040~43	久寿 ^{キウシュ}	1154~55	文暦 ^{ブンリキョク}	1234
		寛徳 ^{カンタク}	1044~45	保元 ^{ホエン}	1156~58	嘉禎 ^{カテイ}	1235~37
		永承 ^{エイショウ}	1046~52	平治 ^{ヘイジ}	1159	暦仁 ^{リキョク}	1238

延応 エン オウ 1239	興国 コウ コク 1340~45	嘉吉 カ キツ 1441~43	寛文 カン ブン 1661~72
仁治 ニ ジ 1240~42	正平 セイ ヘイ 1346~69	文安 ブン アン 1444~48	延宝 エン ホウ 1673~80
寛元 カン ゲン 1243~46	建徳 ケン トク 1370~71	宝徳 ホウ トク 1449~51	天和 テン ナ 1681~83
宝治 ホウ ジ 1247~48	文中 ブン チュウ 1372~74	享徳 キョウ トク 1452~54	貞享 ジキョウ ウ 1684~87
建長 ケン チョウ 1249~55	天授 テン ジュ 1375~80	康正 コウ ショウ 1455~56	元禄 ゲン ロク 1688~93
康元 コウ ゲン 1256	弘和 コウ ワ 1381~83	長禄 チャウ ロク 1457~59	宝永 ホウ エイ 1704~10
正嘉 セイ カ 1257~58	元中 ゲン チュウ 1384~92	寛正 カン ショウ 1460~65	正徳 セイ トク 1711~15
正元 セイ ゲン 1259	北 朝	文正 ブン ショウ 1466	享保 キョウ ボウ 1716~35
文応 ブン オウ 1260	元徳 ゲン トク 1329~31	応仁 オウ ニン 1467~68	元文 ゲン ブン 1736~40
弘長 コウ チョウ 1261~63	正慶 セイ キョウ 1332~33	文明 ブン メイ 1469~86	寛保 カン ボウ 1741~43
文永 ブン エイ 1264~74	建武 ケン ム 1334~37	長享 チャウ キョウ 1487~88	延享 エン キョウ 1744~47
建治 ケン ジ 1275~77	暦応 リキョウ オウ 1338~41	延徳 エン トク 1489~91	寛延 カン エン 1748~50
弘安 コウ アン 1278~87	康永 コウ エイ 1342~44	明応 メイ オウ 1492~00	宝暦 ホレキ ウ 1751~63
正応 セイ オウ 1288~92	貞和 ジウ ワ 1345~49	文亀 ブン キ 1501~03	明和 メイ ワ 1764~71
永仁 エイ ニン 1293~98	観応 カン オウ 1350~51	永正 エイ ショウ 1504~20	安永 アン エイ 1772~80
正安 セイ アン 1299~01	文和 ブン ナ 1352~55	大永 ダイ エイ 1521~27	天明 テン メイ 1781~88
乾元 ケン ゲン 1302	延文 エン ブン 1356~60	享禄 キョウ ロク 1528~31	寛政 カン セイ 1789~93
嘉元 カ ゲン 1303~05	康安 コウ アン 1361	天文 テン ブン 1532~54	享和 キョウ ワ 1801~03
徳治 トク ジ 1306~07	貞治 ジウ ジ 1362~67	弘治 コウ ジ 1555~57	文化 ブン カ 1804~17
延慶 エン キョウ 1308~10	応安 オウ アン 1368~74	永禄 エイ ロク 1558~69	文政 ブン セイ 1818~29
応長 オウ チョウ 1311	永和 エイ ワ 1375~78	元亀 ゲン キ 1570~72	天保 テン ボウ 1830~43
正和 セイ ワ 1312~16	康暦 コウ リキ 1379~80	天正 テン ショウ 1573~91	弘化 コウ カ 1844~47
文保 ブン ボウ 1317~18	永徳 エイ トク 1381~83	文禄 ブン ロク 1592~95	嘉永 カ エイ 1848~53
元応 ゲン オウ 1319~20	至徳 シ トク 1384~86	江 戸	安政 アン セイ 1854~59
元亨 ゲン コウ 1321~23	嘉慶 カ ケイ 1387~88	慶長 ケイ チャウ 1596~14	万延 マン エン 1860
正中 セイ チュウ 1324~25	康応 コウ オウ 1389	元和 ゲン ナ 1615~23	文久 ブン キュウ 1861~63
嘉暦 カリキ ウ 1326~28	室 町	寛永 カン エイ 1624~43	元治 ゲン ジ 1864
元徳 ゲン トク 1329~30	明德 メイ トク 1390~93	正保 セイ ホウ 1644~47	慶応 ケイ オウ 1865~67
元弘 ゲン コウ 1331~33	(1392 合一)	慶安 ケイ アン 1648~51	近 代
南 朝	応永 オウ エイ 1394~27	承応 ジウ オウ 1652~54	明治 メイ ジ 1868~12
建武 ケン ム 1334~35	正長 セイ チョウ 1428	明暦 メイ レキ 1655~57	大正 ダイ ショウ 1912~26
延元 エン ゲン 1336~39	永享 エイ キョウ 1429~40	万治 マン ジ 1658~60	昭和 ショウ ワ 1926~89

読み方は文献により必ずしも一定しないが、慣例によって大体正しいと思われるものを載せた。

平成 1989~

あ と が き

地域住民の水防災意識を高揚させる方法としては、従前講演会やシンポジウムの開催、パンフレットの配布等が中心に行われてきた。これらは主に新規事業・施策やプロジェクトに関するものであり、いわゆるその時点におけるトピックスであった。しかし長期的な視点で見た場合、日本には古くからの水害、治水の歴史があり、これを語らずして、現在の治水は語れないと言える。

一方、心理学者による住民の水害意識調査によれば、水防災意識を高揚させるには、水害のことを十分認知させるより、地域帰属意識を高める方が効果を発揮する場合があるという結果が得られている。こうした視点より、地域住民の水防災意識を高めるため、特定の地域だけではなく、全国ベースで治水文化に関する事例を収集した。例えば、治水や水害にまつわる石碑などは全国各地に数知れず存在するが、今回は時間の制約もあり、所内及び近隣図書館等の文献で探したうえで、文献の情報で不十分なものについては、可能なかぎり現地で確認を行った。

今後は更に事例を増やしていくとともに、歴史的に伝統のある治水施設についてもケーススタディにより、その効果を把握し、現在の治水施設にとりこんでいけないかどうかを検討していく予定である。

最後に、今回の調査にあたり貴重な文献、資料を貸して頂いたり、治水文化に関する情報を提供して頂いた方々に深い感謝の意を表します。

河川文化のレジェンド

—治水、水害にまつわる神社、石碑、祭り—

ISSN 0386-5878

土木研究所資料第3143号

平成4年10月(1992)

栗城 稔・末次忠司・田中義人

要 旨

水防災意識を高揚させるための一方策として、歴史的、文化的に貴重な治水文化に関する事例(神社、石碑、祭り他)を収集、整理したものである。

キーワード: 河川、治水、文化、神社、石碑、祭り、民俗

郵便はがき

41円切手
をはいて
下さい。

305-□□

茨城県つくば市大字旭一番地

建設省土木研究所

総合治水研究室
御 中

No. _____

No. _____

配布先氏名

配布先住所

土木研究所資料 第3143号 部

上記のとおり受領しました。

所属（住所）

氏名

印